

物ニ對シテ扶助加勢ノ途ナク、又何等ノ容喙權ナキモノニアラズヤ。而シテ東京港ヲ起シテ之ニ近代ノ文明的荷役方法ヲ用ユルカ、然ラズンバ長ク從來ノ如ク解荷役ニテ満足スルカ、二途其一ヲ選ブ可クシテ、其判斷ハ一ニ該百二十七萬噸ノ貨物ノ直接取引者タル東京市民ノ頭ニ一任スルノ外ナキニアラズヤ。

人或ハ曰ハン、明治四十五年ニ於ケル貿易額ハ右推算ノ如ク増進セザル可シト。然レドモ理ニ於テ異ナルコトナシ。縱令百二十七萬噸ニ達セズシテ百萬噸乃至五十萬噸ニ止マルト雖、此噸量ノ處分ハ、横濱港ニ關係ナクシテ一ニ東京市民ノ利害ノ繫ガル處ナラズヤ。而シテ明治三十三年ヨリ三十五年ニ至ル三年間(三十五年以後ノ調査ヲ得ザリシヲ以テ)ノ調査ノ結果ニ依レバ、横濱ヨリ直ニ解船ニテ東京ニ輸送セラレタル貨物(外國貿易貨物ノミ)ハ實ニ五十一萬七千噸ニシテ、當時ノ横濱總外國貿易貨物ノ五割三分ニ相當ス。又明治三十七年ニ於テ現ニ横濱ニ出入セル外國貿易貨物ハ總噸量百三十三萬噸ナルガ故ニ、東京ニ來ルベキ五割三分ハ實ニ七十一萬噸ニ達セリ。況ヤ此五割三分ナル比例モ亦近年七割上ルニ至ル

ヤ知ル可ラザルニ於テオヤ。

更ニ大ニ注意スベキハ、右ニ述ベタル噸數ハ單ニ外國貿易貨物ノミナルコトナリ。此外東京ニ入港シ得ザルガ爲メニ横濱ニ寄港シ、之ヨリ解船ニテ東京ニ輸送サル、内國貨物ハ、實ニ明治三十三年ヨリ三十五年ニ至ル三ケ年ノ統計ニ見ルモ一ケ年平均百二十二萬噸ニ達シ、當時ノ内國貿易貨物ノ八割ニ相當ス。

要スルニ明治三十三年ヨリ三十五年ニ至ル三ケ年ノ平均ノミニ就テ考フルニ、外國貿易貨物ニ於テ五十一萬噸、内國貿易貨物ニ於テ百二十二萬噸、合計百七十四萬噸ニシテ、若シ明治四十五年ヲ推算セバ二百五十萬噸ニ達スルモノト豫想スルヲ得ベシ。而シテ此貨物ハ現今横濱ニ於テ計畫實施サレツ、アル築港工事ノ一モ處分スル能ハザル貨物ニシテ、直接ニ東京ニ輸送セラレ、モノナラズヤ。此百七十萬乃至二百五十萬噸ノ貨物ノ外、更ニ東京灣ニ出入スル東京固有ノ貨物ハ實ニ二百萬噸餘ニ達ス。而シテ後者ハ築港完成後ト雖モ之ヲ隅田川ニ依テ出入スルモノトシ、兎ニ角第一期ニ二百萬噸ノ貨物ニ應ズルヲ以テ目的トシ、東京築港ヲナスモ

何レノ點ニ於テ横濱港ト重複シ又衝突スベキカ。或ハ曰ク、横濱ニハ各種ノ商業的機關具備スルガ故ニ東京港ノ活用ハ困難ナラント。然レドモ右ノ如ク横濱本船ヨリ直ニ舢舨ニ移シテ直接ニ東京ニ來ル貨物ニ對シテ、横濱ノ商業的機關ガ如何程ノ作用ヲ揮ヒ能フヤ、又實際揮ヒツ、アルニヤ、實ニ疑ハシ。若シ多少其作用ヲ揮ヒツ、アルトスルモ、之ニ相當スベキ機關ハ直ニ之ヲ東京ニ設置シテ直ニ活躍セシムルコト困難ナラズ。爾シテ又横濱ノ規模設備ニ何等ノ痛痒ヲモ與ヘズトス。斯ク論ジ來ツテ更ニ東京築港以外右ノ東京行舢舨使用貨物ヲ如何ニ處分スベキ方法アリヤト云フニ、横濱港ヲ更ニ擴張シテ右ノ設備ヲ設クルトナスカ。今單ニ外國貿易貨物ノミニ就テ見ルモ、現今施シツ、アル築港工事完成後、更ニ該工事ニ一倍三分スル工事ヲナスヲ要ス。而シテ此工事ヲ横濱港内何レノ處ニ企テ得ベキカ。外國貨物ノミニ於テ既ニ然リ、況ヤ内國貨物ヲ併算スルニ於テオヤ。同時ニ又横濱ハ自港固有ノ貿易ノ發展ニ對シテモ常ニ擴張ノ計畫ヲナサバ爾可カラザルニ於テオヤ。茲ニ於テカ予輩ハ却テ問ハント欲ス、斯クテモ尙横濱ノ一港ノミニ倚リテ東京ヲ避クルヲ

以テ國家經濟上ノ利益トナスカ。

況ンヤ横濱港内ニ於テハ、海底ノ地質ヲ見テ現工事ノ位置以外ニハ良好ノ基礎地盤ニ乏シク、今後ノ擴張ニハ非常ノ苦心ヲ以テシテ尙且ツ莫大ノ工費ヲ要スルヲ免レズ。其工費實ニ東京築港ト大差ナカラシ。加之凡テ之等ノ種々ノ困難アルニ拘ラズ横濱港ヲ擴張セントスルニ當ツテハ、又鐵道線路ヲ必ズヤ現在ノ外更ニ二複線ナラシムルノ困難ト莫大ノ工費トヲ要ス。今明治四十五年ニ於ル二百五十萬噸ノ貨物ニ就テ考フレバ、輸入約二百萬噸(八割輸出約五十萬噸)ニ割ナルガ故ニ、之ヲ鐵道ニ依テ輸送スルトキハ一日平均三十九列車、換言セバ三十七分ニ一列車(二十臺ノ貨車七噸積)ヅ、横濱ヨリ東京ニ動カサザル可ラズ。而シテ最大一日ニテハ其二倍ニ上ラン。若シ今輸送方法アリトスルモ果シテ貨物ハ此築港此汽車ニ依ルベキカト云ヘバ然ラズ、必ズヤ依然トシテ舢舨ヲ便トシ取ランコト明ナリ。何トナレバ、

舢舨一艘ノ積荷百噸トセバ、之レ汽車ノ一列車(七噸積十四臺)分ニ相當ス而シテ汽車ニテハ一列車毎ニ一汽罐車ヲ要シ、又凡テノ設備ヲ要スル

モ、舢舨八十艘位ヅ、一曳船ニテ足ルモノニシテ、現今京濱間ニ見ル處ノ曳船ハ、汽車ニテ十列車分位ヅ、ヲ輸送シツ、アルニアラズヤ。汽車運送費ノ高價ニ上ラン事必然ナラズヤ。而シテ舢舨運送ニ要スル時間ハ、晴天ニ於テハ六時間ニシテ航行シ得ベク、時間ニ於テモ亦不利ナキナリ。之ヲ以テ見レバ舢舨之レ最後ノ運命ナリ。其幾多ノ危険ト及ビ商機上ノ不利運漕費ノ損害トニ拘ラズ、舢舨運送ニテハ毎年三百乃至五百艘ノ難破アリ。又之ヲ築港完成後ニ比セバ百九十萬圓(三十五年ノ計算)ツ、ノ損失アリ。若シ四十五年二百五十萬噸トシ算出セバ三百萬餘圓ニ上ラン。斯クテ尙東京築港ノ必要ナシト云フカ。以上述べ來リタル處ニ依リテ、略京濱ノ間ニハ築港計畫ニ於テ何等ノ重複ナク、競争掠奪ノ意味ナク、各其別々ノ目的ニ向ツテ進ムモノタルヲ知ルニ足ラン。

若シ尙同一ノ目的アリトセバ、只何レモ近代文明設備ニ熱心ニシテ、海運上我島帝國ノ不備ノ設備ヲ整フルニアリトセンノミ。之レ專ラ現實ノ状態ニ就テ立論シタルモノナレド、其他若シ理論上ヨリ

見ルモ、横濱ハ地理的の利便ヲ主トシ、東京港ハ商工業上ノ經濟的の利便ニ促サレテ起ルモノ、即其自然ノ目的ハ亦自ラ同一ナラズ。横濱ハ其地理的の利便ヲ擴大シテ、一重ニ定期航海(郵船)ニ對スル設備ヲ進善スルニ利アリ。東京港ハ地理的ニハ稍内地ニ避在セルノ不便アルト共ニ、又其經濟的位置ノ利便ヲ擴大シテ、主トシテ貨物船ノ取扱上ノ設備ヲ改善發達セシムルニ利アリ。二者固有ノ特長相同ジカラズシテ、二港併立ノ結果ハ自然ニ此進路ニ出ヅベキヲ必スルガ故ニ、此點ヨリスルモ亦決シテ相侵スモノニハ非ス。其ニ相倚リ相扶ケテ始メテ一大港ノ實ヲ現スヲ得ンノミ。二港併立シ互ニ其特長ニ應ジ其勢力圈ニ對シテ適切ナル經營ヲ爲サントスルモ、二港等シクナスベキ事多ク、其工費ヤ大ナリ。二者協力シテ尙且ツ及バザルニ近ク、且ツヤ其效果ハ一日ニシテ擧グル可カラズ。然ルヲ況ンヤ一以テ他ニ代ヘ、又一以テ他ヲ蔽ハントスルガ如キオヤ。力ニ於テ堪ヘズ、又時ニ於テ忍ブ可カラザルヲ如何セム。

右ハ本年一月十八日東京築港計畫披露會席上ニ於ケル口演ニシテ、其稿ニ依リテ之ヲ記ス。文責余ニ在リ。

明治四十年五月 日

技師 山岡元一 誌ス。

附記
假設吹鳴
浮標

〔附記〕 假設吹鳴浮標

遞信省告示第二百四十一號

神奈川縣武藏國久良岐郡小柴埼ノ南東距離約二哩ノ沖へ、吹鳴試驗ノ爲
メ左記ノ浮標ヲ碇置ス。

明治四十年四月八日

遞信大臣山縣伊三郎

沖ノ根假設吹鳴浮標

一、位置 沖ノ根暗礁ノ南側。

一、構造及著色 鐵造截頭圓錐形、紅色、上部ニ自鳴笛ヲ裝置シ、浮標ノ動搖
ニ依リ發聲ス。

一、水面上ノ高 六尺六寸。

一、水深 大低潮時六尋。

一、方位 該浮標ヨリ測定セル磁針方位ハ左ノ如シ。

猿島ノ西端ハ、南六度三十分東。

夏島ノ東端ハ、南六十三度西。

小柴埼ハ、北六十二度三十分西。

遞信省告示第四百三十三號

神奈川縣武藏國久良岐郡小柴埼ノ南東方沖ノ根假設吹鳴浮標ハ、明治四
月遞信省告示第二百四十一號參照。撤去セリ。

明治四十一年四月六日

遞信大臣子爵堀田正養

—— 法令全書

海底電信線
布設

五月八日 ○明治四十年(紀元二五六七年) 深川區越中島 ○市 神奈川縣橋樹郡田島
村大島新田間ニ、海底電信線ヲ布設ス。 ○法令全書

海底電信線布設 法令全書ニ、

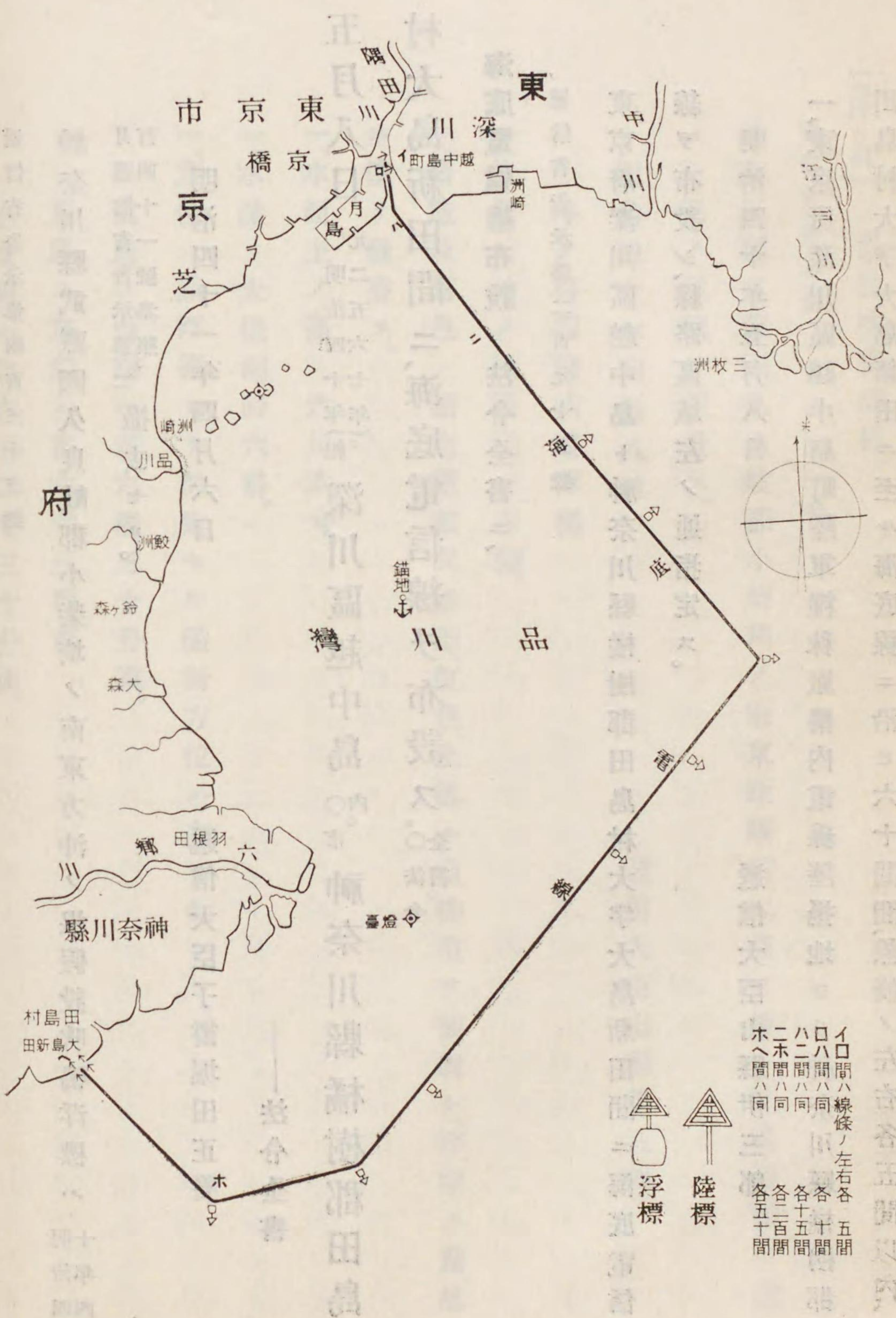
遞信省告示第二百九十五號

東京府深川區越中島ト神奈川縣橋樹郡田島村大字大島新田間ニ海底電信
線ヲ布設シ、線路區域左ノ通指定ス。

明治四十年五月八日

遞信大臣山縣伊三郎

一、東京府深川區越中島町陸軍糧秣廠構内電線陸揚地ヨリ神奈川縣橋樹郡
田島村大字大島新田ニ至ル海底線ニ沿ヒ六十間、線條ノ左右各五間以内、
帝都時代ノ港灣



夫ヨリ六百五十間、線條ノ左右十間以内、夫ヨリ千五百間間、線條ノ左右十
 五間以内又大島新田陸揚地ヨリ沖二海里迄ハ、線條ノ左右各五十間。

六月廿四日 港灣調査會官制公布セララル。○法令全書。

港灣調査會
官制公布
港灣調査會
官制公布事
蹟

港灣調査會官制公布 法令全書ニ據ル。

朕港灣調査會官制ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシム。

御名御璽

明治四十年六月二十四日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望
 内務大臣 原 敬

勅令第二百四十三號(官報六月二十五日)

港灣調査會官制

第一條 港灣調査會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ、港灣ニ關スル制度、計畫、設備、
 其ノ他重要ナル事項ヲ調査審議ス。

第二條 港灣調査會ハ會長一人、委員二十人以内ヲ以テ、之ヲ組織ス。

前項定員ノ外、必要アル場合ニ於テハ、臨時委員ヲ置クコトヲ得。

第三條 會長ハ、内務大臣ヲ以テ之ニ充テ、委員及臨時委員ハ、關係各廳高等

官及學識經驗アル者ノ中ヨリ、内務大臣ノ奏請ニ依リ、内閣ニ於テ之ヲ命ズ。

第四條 會長ハ會務ヲ總理ス。

會長事故アルトキハ、内務大臣ノ指名シタル委員、其ノ事務ヲ代理ス。

第五條 港灣調査會ニ、幹事二人ヲ置キ、内務省高等官ヲ以テ之ニ充ツ。

幹事ハ、會長ノ指揮ヲ承ケ、庶務ヲ整理ス。

第六條 港灣調査會ニ書記ヲ置キ、内務省判任官ヲ以テ之ニ充ツ。

書記ハ、會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ、庶務ニ従事ス。

第七條 委員及幹事ニハ、一年五百圓以内、臨時委員ニハ、事件ノ輕重ニ應ジ

相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得。

第八條 委員及臨時委員ニハ、鐵道會議議長及臨時議員旅費支給規則ノ例

ニ依リ、旅費ヲ給ス。但シ會議ノ爲特ニ上京シタル者ニハ、開會中三圓以内ノ

日當ヲ給ス。

附則

本則ハ、公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス。

〔附記〕 浮標移轉

附記
浮標移轉

遞信省告示第五百九十八號

神奈川縣武藏國橫濱港内神奈川浮標ハ、左記ノ通移轉セリ。

明治四十年九月二十八日

遞信大臣山縣伊三郎

神奈川浮標

一、位置 従前ノ位置ヨリ北四度西、距離約六十一間四尺。

一、方位 該浮標ヨリ測定セル磁針方位ハ、左ノ如シ。

十二天鼻ハ、南十六度東。

高島町電燈會社煙突ハ、南八十四度四分西。

神奈川砲臺南端ハ、北六十四度十五分西。

一、水深 大低潮時約一尋半。

法令全書

燈竿移轉變更稱

十月廿三日○明治四十年(紀元二五六七年)東京灣第一海堡燈竿ヲ移轉變更シ、第二海堡第三海堡燈竿ヲ改稱ス。○法令全書

燈竿移轉變更稱事蹟

燈竿移轉變更稱 法令全書ニ據ル。

遞信省告示第六百五十二號

東京海灣第二海堡富津燈竿ハ、左記ノ通移轉變更セリ。

帝都時代ノ港灣

明治四十年十月二十三日

遞信大臣山縣伊三郎

富津燈竿

一、位置 從前ノ位置ヨリ南八十五度三十分東、距離六十五間。

一、自水面高 五丈六尺。

一、構造及著色 基礎ヨリ燈火ニ至ル高明弧、及光達距離ハ、從前ノ通。

遞信省告示第六百五十三號

東京灣第二海堡富津燈竿、及同第三海堡浦賀水道燈竿ハ、左記ノ通改稱ス。

明治四十年十月二十三日

遞信大臣山縣伊三郎

新

舊

第二海堡燈竿

富津燈竿

第三海堡燈竿

浦賀水道燈竿

〔附記一〕 荒川中川間開鑿建議

荒川中川間開鑿事業ニ關スル建議十月二十九日(〇)、明治四十年(建議)。

(本件調査ニ要スル經費ハ、市參事會限リ支出セラレタキ旨、附帶決議ス。)

本市内ノ水害ハ、歳々尙繼ギ、而カモ漸次其程度ヲ強カラシムル傾アリ。殊

附記、一、
荒川中川
間開鑿建
議

ニ本年ノ如キハ、下谷淺草本所深川ノ四區ヲ通ジ、約五九、九五五戸ノ多キ
ニ迨ビ、從テ本市ノ蒙リタル損害ノ巨額ナルハ、容易ニ測定シ得ザルモノ
アリ。

思フニ、其慘害ノ誘起ハ、荒川下流ヨリ隅田川ニ互ル疏水ノ便ナキニ基因
セルモノト認ム。故ニ荒川筋隅田村地先ニ起リ、寺島村、大木村、吾嬬村等ヲ
經テ、中川ニ開鑿シ、更ニ中川下流ノ幅員ヲ擴張セバ、蓋シ其害ヲ他ニ移サ
ズシテ除去スルヲ得ベシト信ズ。然レドモ之ガ事業ノ性質ハ、敢テ關與ス
ベキニ非ザルモ、市ノ利害ハ著大ノ關係アルニ依リ、本市ニ於テ取調ブル
ハ、當面ノ急務ナリトス。故ニ理事者ハ、速ニ右調査セラレシコトヲ望ム。

東京市會決議錄

本建議ハ、明治四十年十月廿九日議員安藤兼吉、青木庄太郎、今井喜八、佐々木
和亮贊成者堀田生次郎外十四名ヨリ東京市會ニ提出シ、即日之ヲ可決ス。後
明治四十四年度起工ニ係ル内務省ノ荒川改修工事有リ。同工事ノ東京港築
造ニ關係スル、蓋少シニ非ズ。

按ズルニ東京市會ハ、翌明治四十一年三月十三日市長ヨリ貴衆兩議院ニ呈
帝都時代ノ港灣

スル荒川治水ニ關スル請願書ヲ決議シ、市會議長ヨリ内務大臣ニ呈スル同
意見書ヲ決議ス。

〔附記、二〕 東京灣築港調査常設委員會

四十一年一月二十七日

四十一年度築港調査費豫算ニ關シ、委員へ開會ノ旨、通知ヲ發ス。

四十一年一月二十九日午前十時開會。出席委員左ノ如シ。

江間委員長 大貫委員 松村委員 肥塚委員

一、四十一年度築港調査費豫算案可決。

四十一年七月廿日

一、築港調査委員會開催ノ旨、各委員へ通知ス。

四十一年七月二十二日午前十時開會。

一、出席委員左ノ如シ。

磯部委員長 森久保委員 溝淵委員 津村委員 松村委員

青木委員 染谷委員 桑原委員

一、委員席次左ノ通り。

一番 森久保委員 二番 溝淵委員 三番 津村委員

四番 松村委員 五番 青木委員 六番 染谷委員

七番 桑原委員

一、東京築港計畫ノ經過ヲ小川河港課長ヨリ聽取ス。

午後一時閉會。

明治四十二年壹月貳拾五日午前十時。

一、築港調査委員會開催ノ旨、各委員へ通知ス。

四十二年一月貳拾五日午前十一時開會。

出席委員左ノ如シ。

磯部委員長 青木委員 松村委員 染谷委員 溝淵委員

一、東京築港ニ關スル四拾貳年度豫算ヲ決議セリ。

午後一時三十分閉會ス。

東京灣築港調査常設委員會日記

〔附記、三〕 浮標改稱及撤去

逕信省告示第二百二十一號

神奈川縣武藏國久良岐郡長濱沖富岡鼻地方浮標外二浮標略。中ハ、左記ノ

帝都時代ノ港湾

通改稱ス。

明治四十一年三月五日

遞信大臣原 敬

新 舊

コガ根浮標 富岡鼻地方浮標

イガイ根浮標 小柴崎浮標

富岡中根浮標 富岡鼻沖浮標

法令全書

本牧挂燈
浮標

本牧挂燈浮標

遞信省告示第七百三十五號

神奈川縣武藏國横濱港口本牧燈船ハ、本年九月中旬之ヲ撤去シ、同所へ左記ノ挂燈浮標ヲ碇置ス。

但、撤去及碇置ノ上ハ、更ニ告示スベシ。

明治四十一年八月七日 遞信大臣男爵後藤新平

本牧挂燈浮標

一、構造及著色 鐵造圓臺形黑色、上部ニ格子製櫓ヲ組立テ、頂上ニ燈器ヲ掲グ。

一、自水面 高 約一丈五尺。

一、燈質 「ピンチ」式瓦斯明暗白色。

遞信省告示第八百二十二號

神奈川縣武藏國横濱港外荒洲ノ東端本牧浮標ハ、不日挂燈浮標ニ變更シ、荒洲挂燈浮標ト改稱ス。

但、變更ノ上ハ、更ニ告示スベシ。

明治四十一年九月十日 遞信大臣男爵後藤新平

遞信省告示第八百七十五號

神奈川縣武藏國横濱港口本牧燈船ヲ撤去シ、本年八月遞信省告示第七百三十五號參照、同位置へ左記ノ挂燈浮標ヲ碇置セリ。

明治四十一年九月二十二日 遞信大臣男爵後藤新平

本牧挂燈浮標

一、構造及著色 鐵造圓臺形黑色、上部ニ格子製櫓ヲ組立テ、頂上ニ燈器ヲ掲グ。

一、自水面 高 一丈五尺。

帝都時代ノ港灣

一、燈質 ビンチ式瓦斯明暗白色燈ニシテ、燈光發射時間ハ四秒、遮暗ノ時間ハ二秒ナリ。

一、明弧 全度。

一、光達距離 七哩。

遞信省告示第八百八十五號

神奈川縣武藏國橫濱港外荒洲ノ東端本牧浮標ハ、本年遞信省告示第八百二十二號參照左記ノ挂燈浮標ニ變更セリ。

明治四十一年九月二十六日

遞信大臣男爵後藤新平

荒洲挂燈浮標

一、構造及著色 鐵造截頭圓錐形黑色、上部ニ格子製櫓ヲ組立テ、頂上ニ燈器ヲ掲グ。

一、自水面高 一丈。

一、燈質 ビンチ式瓦斯不動白色。

一、明弧 全度。

一、光達距離 四哩。

法令全書

鶴見假燈浮標

遞信省告示第千三百二十八號

神奈川縣武藏國橫濱港外鶴見沖假設挂燈浮標ハ、左記ノ通移轉セリ。

明治四十一年十二月十六日

遞信大臣男爵後藤新平

鶴見沖假挂燈浮標

一、位置 本牧挂燈浮標ノ南西約十間。
一、水深 大低潮時約六尋。

野島崎燈臺燈質等變更

遞信省告示第十一號

千葉縣安房國野島崎燈臺ハ、本年三月中、其燈質内燭光數ヲ、左記ノ通變更

但、變更ノ上ハ、更ニ告示スベシ。

明治四十二年一月十一日

遞信大臣男爵後藤新平

一、燈質 明暗白色、燈光發射時間十五秒、遮暗ノ時間五秒。

一、燭光數 二萬六千。

帝都時代ノ港灣

五六一

野島崎燈臺燈質等變更

逕信省告示第四百三十四號

千葉縣安房國野島崎燈臺ハ、本月二十七日以後、其燈質及燭光數 本年一月 逕信省告

示第十一 又、左記ノ通變更ス。

明治四十二年十二月三十一日

逕信大臣男爵後藤新平

- 一、燈質 明暗白色、燈光發射時間十五秒、遮暗ノ時間五秒。
- 一、燭光 二萬六千。

〔附記、四〕 利根川改良工事

内務省告示第四十號

明治二十九年法律第七十一號河川法第八條ニ依リ、明治四十二年度ヨリ本大臣ニ於テ、利根川改良工事ヲ施行ス。其區域左ノ如シ。

利根川 左岸群馬縣佐波郡名和村、右岸同郡芝根村以下、左岸茨城縣北

相馬郡取手町、右岸千葉縣東葛飾郡我孫子町ニ至ル。

明治四十二年四月六日 内務大臣法學博士男爵平田東助

法令全書

附記、五
定繫港

〔附記、五〕 定繫港

法令全書ニ據レバ、明治四十二年四月三十日海軍省ヨリ左ノ如ク達ス。

海軍省達第六十九號

海軍諸法令ノ適用ニ關シテハ、左ノ區域ヲ以テ、練習驅逐艦、同水雷艇、潛水艇、及雜役船舟ノ定繫港トス。

明治四十二年四月三十日

海軍大臣男爵齋藤實

横須賀軍港 烏帽子島ヨリ夏島ノ東端ヲ經テ、勝力埼ニ至ル接合線以内
略。○下

四十二年 ○明治○紀元 六月廿一日、東京市會隅田川口改良工事豫

算ヲ更正ス。 ○東京市事務報告

隅田川口改良工事豫算更正

東京市事務報告書ニ據レバ、明治四十二年五月

十一日東京市會決議ノ市政監査委員會意見報告中、

河川改修費

隅田川河口改良費ハ、明治三十九年度ヨリ四十二年度ニ至ル四ヶ年繼續事業ニシテ、經費貳百五拾九萬八千七百拾七圓六拾五錢四厘ニシテ、年度

帝都時代ノ港灣

五六三

隅田川口改良工事豫算更正

割當左ノ如シ。

三十九年度 五拾九萬五千圓

四十年年度 九拾九萬圓

四十一年度 五拾壹萬九千五百圓

四十二年年度 四拾九萬四千貳百拾七圓六拾五錢四厘

然ルニ三十九年度及四十年年度ノ繰越高ト本年^{○明治四十年}度割當額トヲ合

計スルトキハ、百八拾參萬千九百六拾八圓九拾四錢ニシテ、九月末日迄ニ

支拂ヒタルハ、五拾參萬六千八百八拾八圓參拾五錢ナルヲ以テ、殘存金額

實ニ金百貳拾九萬五千〇八拾圓五拾九錢トナレリ。

ト見ユ。東京市會決議錄ニ據レハ、市會ハ遂ニ六月廿一日^{○明治四十二年}ヲ以テ之ガ

豫算更正ヲ決議シ、歲出年度割ヲ左ノ如ク改ム。

^(本)一、金貳百五拾九萬八千七百拾七圓六拾五錢四厘 ^(本)改定臨時費豫算高

^(本)一、金貳百五拾九萬八千七百拾七圓六拾五錢四厘 ^(本)更正臨時費豫算高

内譯

^(本)金五拾九萬五千圓 ^(本)明治三十九年度支出額

金參千五百圓八拾錢 ^(本)明治三十九年度支出額

^(本)金九拾九萬圓 ^(本)明治四十年年度支出額

金貳拾參萬千八百圓八拾六錢 ^(本)明治四十年年度支出額

^(本)金五拾壹萬九千五百圓 ^(本)明治四十一年度支出額

金八拾五萬四千六拾九圓六拾八錢八厘 ^(本)明治四十一年度支出額

^(本)金四拾九萬四千貳百拾七圓六拾五錢四厘 ^(本)明治四十二年年度支出額

金九拾七萬千九百七圓四拾九錢六厘 ^(本)明治四十二年年度支出額

金五拾參萬七千四百參拾八圓八拾壹錢 ^(本)明治四十三年度支出額

八月^(○明治四十二年)東京築港調査囑託南部光臣東京築港ニ關スル調査書ヲ提出ス。^(○東京築港ニ關スル調査書)

東京築港調査書提出
東京築港調査書提出

東京築港調査書提出 東京築港ニ關スル調査書ニ、

調査囑託ヲ蒙リタル東京築港ニ關スル事項、別冊ノ通調査候ニ付提出候也。

明治四十二年八月 日 南部 光 臣

東京市參事會 東京市長尾崎行雄殿

東京築港

第一章 總論

帝都時代ノ港灣

東京築港計畫ノ世ニ公ニセラレタルハ實ニ明治十八年ナリ。而テ爾來之ニ關シテ市ガ上司ニ稟議スル所其幾回ナルヲ知ラズ。調査審議鄭寧ナラザルニアラズト雖ドモ、皆其稟議ノ指令ヲ得ルニ及バズシテ中道阻止ス。然レドモ市ハ此問題ノ爲メニ或ハ調査委員ヲ設ケ、或ハ評議委員ヲ囑託シ、或ハ技師ヲ聘シ、或ハ人ヲ海外ニ派シ、或ハ築港課ヲ置キ、經營殆ンド二十有餘年ヲ經テ、而テ未ダ決スル所ナシ。其此ノ如クナル所以ノモノハ、時ニ國庫補助請求ノ問題アリシガ爲メニ依ルカ、十八年以來國庫補助ガ他ノ築港事業ニ交附セラレタルモノ甚ダ多シ。然ラバ則チ市ノ起債能力ノ認可スベカラザルモノアルガ爲メニ依ルカ、十八年以來他ノ事業ニ對シ市ガ起債ノ認可ヲ受ケタルモノ甚ダ多シ。然ラバ則チ東京築港自體ノ事業ガ不急ノ土木ナルガ爲メニ依ルカ、十八年以來未ダ此說ノ確乎タルモノアルヲ聞カズ。然ラバ則チ東京築港事業ノ自體ガ不必要ナルガ爲メニ依ルカ、十八年以來上司ハ曾テ此稟議ヲ却下シタルコトナク、市モ亦此希望ヲ斷念セシコトナシ。而テ世ニ十八年以來港灣工事ノ著シキモノ、横濱函館長崎名古屋鹿兒島小樽大阪若松神戸敦賀等アリ。皆東京港ニ後レテ計畫シ、之ニ先チテ著手シ又ハ成功

セルモノナリ。政府ノ爲ス所及各港ノ爲ス所ト又東京市ノ爲ス所ト此ノ如ク甚シク其調和ヲ缺ク所以ノモノハ何ゾヤ。惟フニ東京築港問題ノ此ノ如クナル所以ノモノハ、問題自體ガ困難ナル解決ヲ要スルニアラズシテ、四圍ノ事情ガ其解決ヲ困難ナラシメタルモノナリ。東京ハ政治ノ波瀾甚シクシテ、當局者ガ意外ノ事故ニ心力ヲ傾注スルコト多キガ爲メニ、其研究ノ間歇的ナルヲ免レザル其一ナリ。東京ハ諸般ノ物質的變化急ニシテ、人心ト資本ト此問題ニ集中スルニ困難ナル其二ナリ。現ニ横濱港ガ東京ノ傍ハラニ存スルアルガ故ニ、研究ニ偷安ノ餘地ヲ與フル其三ナリ。築港問題ノ研究ガ間歇的ナルガ爲メニ、時運ノ好機ニ投ズル能ハザル其四ナリ。政府ガ常ニ力ヲ横濱港ニ用ヒ之ガ改良ニ熱心ナル其五ナリ。外國貿易機關ノ横濱ニアルモノガ東京ニ移轉スルコトノ困難ナル其六ナリ。内地ノ商人ガ横濱港ノ存在ヲ中心トシテ經營セル諸般ノ施設ヲ變更スルヲ好マザル其七ナリ。本問題ノ解決ガ未定ノ儘ニ存スル間ニ於テ諸般市營事業ノ爲メニ既ニ著シク市民ノ負擔ヲ重加シタルガ故ニ、今日ニ於テ更ニ巨資ヲ築港事業ニ投ズルニ躊躇スベキ事情アル其八ナリ。京濱關係ト

酷似セル阪神關係ニ於テ大阪築港ガ失敗ノ觀アルニ際シ、政府ガ大ニ神戸築港ニカヲ用ヒ、却テ大阪築港ニ補助セルヲ悔ユルガ如ク、誤想セラル、其九ナリ。從來ノ商習慣ガ深ク浸潤セルモノアルガ爲メニ、世論ヲシテ將來ノ貿易趨勢ヲ豫想シテ新事業ニ向ハシムルノ困難ナル其十ナリ。皆以テ東京港ノ不必要ナル理由又ハ之ヲ輕小視スベキノ理由ヲ説明スルモノニアラザルナリ。

今ヤ貿易ノ發達ハ明カニ東京築港ヲシテ其必要ニ迫ラシメタリ。政府ノ大ニ神戸及横濱ニ築クアル又以テ我ガ内外商業ノ發達ガ兩港ノ改良ヲ促ガシタルヲ見ルベキナリ。更ニ又巴奈馬運河ノ開通ハ近キ將來ニ於テ東洋貿易ニ對シテ激甚ナル衝動ヲ與フベキハ、猶ホ蘇西運河ガ過去ニ於テ歐亞ノ通商ニ於ケル如キモノアルベキハ、大ニ注意スベキ事項ニ屬ス。蓋シ巴奈馬運河開鑿ハ、經濟的ニ、又地理的ニ、歐大陸ノ西部ト米大陸ノ東部トヲ極東ノ地ニ接近セシムルモノナレバナリ。而テ世界ノ富ノ生産ト消費トハ、主トシテ歐大陸ノ西部ト米大陸ノ東部トヲ中心トシテ行ハル、モノニシテ、又東洋ニ於ケル太平洋沿岸ノ地ハ寒溫熱ノ三帶ニ涉リ、他ニ求ムベカラザル諸

種ノ物産ニ富ミ、無限ノ地域ニ於テ無限ノ人口ヲ有シ、其貿易額今日ニ於テスラ既ニ毎年四拾億圓内外ヲ算ス。而テ太平洋ニ於ケル風力、潮力皆共ニ巴奈馬運河口ト太平洋沿岸トノ航海ニ便ナルアリ、加之同運河ノ開通ハ紐育横濱間ニ於テハ現今ノ如ク「スエズ」運河ヲ通過スルヨリモ其距離ヲ短縮スルコト四千百十海里ニシテ、又「ニューオールレヤンス」及「ガルベストン」ヨリ横濱迄ハ孰モ六千二百七十海里ヲ短縮シ、之ヲ普通海洋貨物船ノ航運力ニ依ルトキハ航海日數ニ於テ紐育横濱間ニ約十七日、「カルペストン」ニ「ニューオールレヤンス」横濱間ニ約二十六日ヲ減スト云フ。故ニ其開通ハ實ニ彼此ノ間ニ運賃ノ低廉ヲ來シ、從テ東洋諸國ノ貨物ガ北米大陸ノ東部ニ吸收セラル、ノ量ヲ増加シ、此ニ東洋諸國間ニ於テ北米ニ對シ甚シキ競争ヲ誘起シ、且内ニ其生産滿チテ外ニ其販路ニ苦シムト稱セラル、東米ノ貨物ガ甚シク多量ニ東洋諸國ニ輸入セラルベキハ自然ノ數ナリ。之レ北米合衆國ヲ解シ、又東洋諸國ヲ知ル者ノ毫モ疑ハザル所ニシテ、北米合衆國ガ前大統領以來百折不撓運河開鑿ノ經營其慘憺ヲ極ムルニ係ラズ、誓テ千九百十四年即チ我明治四十七年ヲ期シテ其竣功ヲ見ント欲シテ止マザル所以ナリ。

東京が京濱間ノ輸送ノ爲メニ其手數ニ於テ其時間ニ於テ其危險ニ於テ又其費用ニ於テ受クル所ノ損失甚ダ大ナルモノアリ。若シ一朝東京灣ニ築港シテ其損失ヲ免ル、アラバ、東京市ノ利益スベキ金額現ニ毎年五百萬圓以上ニ達ス。久シカラズシテ其額ノ毎年幾千萬圓ニ上ルベキハ疑フベカラザルノ數ナリ。之レ唯從來ノ輸送費ノ損失ヲ免カル、ニ於テノミ然ルナリ。之ニ加マルニ築港ノ爲メニ船舶ノ滯留日數ヲ減ジ、貨物ノ運轉ヲ速ニシ、内外ノ需給ヲ圓滑ナラシムル等ニ依リテ生ズル内外貿易ノ利益ハ、從來ノ輸出入貨物ヲ増加シ、新物件ノ輸出入ヲ招致スル等、蓋シ其計算スベカラザルモノアラン。之ヲ後ニシテハ内外ノ趨勢ガ東京築港ノ必須ヲ迫ルアリ、之ヲ前ニシテハ巨大ナル利益ガ東京築港ノ決行ヲ促スアリ、正ニ之レ東京市民ノ奮起スベキノ時ナリ。顧ミテ安政六年ノ當時一漁村タリシ横濱村ガ、五十年間ニ於テ今日ノ繁榮ヲ致セシ所以ヲ見バ、思半ニ過グルモノアラン。蓋シ横濱市ノ繁榮ハ實ニ東京市ノ生産消費及集合分配ノ勢力ガ之ヲシテ然ラシメタルモノナレバナリ。

第二章 東京築港ノ必要

帝國商業圈ノ中心ニアリ、一ハ大阪ニシテ他ハ東京ナリ。而テ大阪ニ神戸港アリ。東京ニ横濱港アリ。以テ貨物吞吐口ノ役ヲナス。之ヲ安政六年以來今日ニ至ル迄ノ狀況トナス。然ルニ大阪東京皆其二年ヲ歷ルニ從ヒテ漸次ニ其繁榮ヲ増シ、神戸横濱皆現ニ其港灣ノ改良ニ從事ス。而テ横濱港ハ再度其築港ヲ經營セルニ拘ハラズ、東京ハ將ニ長ク京濱間ノ輸送ニ費ヤスベキ時間ト努力ト危険ト冗費トノ損失ニ堪ヘザラントス。此ニ於テカ東京築港ノ已ムベカラザルヲ論ズルノ時機ニ到達セリ。

横濱ニ於ケル外國貿易ハ、明治三十九年ニ於テ一、三七六、二三四噸ヲ算ス。而テ三十九年ハ日露戰役ノ後ヲ承ケテ商業不振ノ時ナリシヲ以テ、之ヲ前年ニ比スルニ其貿易額ハ概シテ寡少ナリ。即チ三十八年ハ戰役中ナリシニ係ハラズ、其貿易額一、五六八、六〇〇噸ヲ算スルガ如シ。又其後ニ於ケル四十年ハ、即チ千九百〇七年ニシテ、世界ノ商業不振ト我國戰役ノ影響ノ實現トニ當リ、且四十一年ハ統計ノ未ダ全カラザルガ爲メ、皆取テ以テ計算ノ標準トトナスニ足ラズ。故ニ三十九年ニ於ケル貿易額ヲ以テ標準數トナスコト、セリ。其内國貿易ニ於ケルモノモ亦同ジ。即チ横濱貿易中其東京ニ屬スルモノ

ハ、三十九年ニ於テ外國貿易額一、〇二二、一二八噸、内國貿易額一、八五三、六〇一噸ナリ。之レ皆立論ノ安全ヲ期スルガ爲メニ疑ハシキモノヲ删除セルノ實數ナリ。而シテ其計算ガ成ルベク長期ノ累計ニ涉ルヲ避ケ、築港完成期日即チ五十三年以後二十年ヲ以テ極度トセリ。蓋シ其以上ニ涉ルモノハ甚シク不確實ノ度ヲ増スモノト信ズレバナリ。

横濱港ニ於ケル外國貿易ノ増加ニ付テハ、過去ノ統計ニ依リ十年倍加ノ率ニ依ル。而テ内國貿易ハ、又過去ノ統計ニ依リ其常態ニシテ且中數ニ居ルモノ、即チ内國貿易ニ於テハ每十年三割増加ノ率ニ依ル。而シテ之ニ類似ノ率ハ、往々諸家ノ引用スル所ニ係ル。

右標準ニ依リ東京商業ニ於ケル内外貿易ノ趨勢ヲ算スレバ實ニ左ノ如シ。

(京濱間海運ニ依ル出入額ノミヲ擧グ)

年 度	年 次	外 國 貿 易 貨 物	内 國 貿 易 貨 物	合 計
三九		一、〇二二、一二八	一、八五三、六一〇	二、八七五、七三八
四〇		一、一〇四、四〇九	一、九〇九、二〇〇	三、〇一三、六〇九

四一		一、一九三、三一四	一、九六六、五〇〇	三、一五九、八一四
四二		一、二八四、六二三	二、〇二五、九七八	三、三一〇、六〇一
四三		一、三八八、〇三五	二、〇八五、七四四	三、四七三、七七九
四四		一、四九九、七七一	二、一四七、二七四	三、六四七、〇四六
四五		一、六二〇、五〇三	二、二一〇、六一九	三、八三一、一二二
四六		一、七五〇、九五三	二、二七五、八三二	四、〇二六、七八五
四七		一、八九一、九〇四	二、三四二、九六九	四、二三四、八七三
四八		二、〇四四、二〇二	二、四一二、〇八六	四、四五六、二八八
四九		二、二〇八、七六〇	二、四八三、二四三	四、六九二、〇〇三
五〇		二、三八六、六〇〇	二、五五六、五〇〇	四、九四三、一〇〇
五一		二、五七八、八二四	二、六三三、五二八	五、二一二、三五二
五二		二、七八五、一三〇	二、七一、四八四	五、四九六、六一四
五三		三、〇〇七、九四〇	二、七九一、四五八	五、七九九、三九八
五四		三、二四八、五七五	二、八七三、八〇七	六、一二二、三八二
五五		三、五〇八、四六二	二、九五八、五八五	六、四六七、〇四七
五六		三、七八九、一三八	三、〇四五、八六四	六、八三五、〇〇二
五七		四、〇九二、二六九	三、一三五、七一四	七、二二七、九八三
五八		四、四一九、六五一	三、二二八、二三二	七、六四七、八八三
五九		四、七七三、二〇〇	三、三二三、五〇〇	八、〇九六、七〇〇

六〇	一八	五、一五七、六二一	三、四二三、九一九	八、五八一、五四〇
六一	一九	五、五七〇、二三一	三、五二四、九二五	九、〇九五、一五六
六二	二〇	六、〇一五、八四九	三、六二八、九一〇	九、六四四、七五九
七二	三〇	一二、九九四、二三〇	四、八五六、七五一	一七、八五〇、九八一

此ノ如ク累進シテ已マザル時ハ、年ヲ歴ルニ從ヒ無限ノ大數ヲ示シテ、遂ニ底止スル所ナク、其結果始メニ於テハ根據アル論說モ遂ニ架空ノ言タルニ至ルコトナキヲ保セズ。故ニ此累計ハ之ヲ或ル程度ニ於テ制限セザルベカラズ。又事實ニ於テモ輸出入額ノ増減ノ影響ハ、地方經濟能力ノ限度ニ依リテ制限セラル、モノナリ。即チ築港ガ從來ノ杜絶又ハ澁滞セル運輸ヲ開通又ハ自在ナラシメタル始メニ於テハ、其前後ノ需給ノ落差ハ甚ダ大ナリト雖トモ、時ヲ經ルニ從ヒテ前後其相平均スルニ至ルヲ見ルベキモノトス。唯其平均スベキ時期ガ那邊ニ在ルヤヲ知ルハ甚ダ困難ナリト雖トモ、唯單ニ既往ノ率ニ依リ遠キ將來ヲ推測スルコトハ危險ナリト云ハザルベカラズ。蓋シ將來ナル語ハ元來不確實ナル意義ヲ有スルガ故ニ、遠キ將來ナル語ハ更ニ不確實ナル意義ヲ有スレバナリ。然レドモ我國ノ如キ新興國ニ在リテ

ハ此落差ハ甚ダ大ニシテ、之ヲ歐洲ノ諸國ニ比スレバ、其前後相平均スルニ更ニ長歲月ヲ要スルモノ、如シ。過般能勢總領事ノ調査公表スル所ニ依テ計算スレバ、明治十年ノ統計表ニ依ルトキハ、我國ノ輸入額ハ二千七百萬圓、輸出額ハ二千三百萬圓、之ヲ當時ノ人口三千四百萬人ニ割當ツレバ一人ノ輸出額ハ六十八錢ニシテ、貿易總額ハ壹圓四拾七錢ナリ。然ルニ明治四拾年ノ統計ニ依ルトキハ、輸入額ハ四億三千四百萬圓、輸出額ハ四億三千二百萬圓、之ヲ人口四千八百萬ニ割當ツレバ一人ノ輸出額ハ九圓ニシテ、貿易總額ハ拾八圓餘ナリ。即チ過去三十年間ニ於テ約十三倍ノ増加ヲ見ル。其進度驚クベキモノト云フベシ。然ルニ四十年ニ於ケル各國ノ統計ヲ比較スルニ平均一人ノ貿易額ニ於テ世界ノ第一位ニ居ルモノハ、工業ヲ盛ナル和蘭國ニシテ一人平均六百七十圓、其第二位ニアルモノハ米國ニシテ其平均三百六十圓、第三位白耳義國ニシテ三百拾圓、次ハ英國ニシテ二百九十圓ナリ。以下濠洲獨逸佛爾西伊太利等ノ順位ニシテ、下テ西班牙諾威人如キスラ三四十圓ノ間ニ位ス。而テ日本ハ其貿易額一人平均僅カニ約十九圓ナリ。之ヲ露西亞ノ拾圓清國ノ貳圓五拾錢ニ比シテ多少優越ノ觀アルノミナリト云フ。此

ノ進度ヲ以テ而テ此低位ニ居ル、將來經營其宜キヲ得ルニ於テハ、我經濟力ノ發達ハ前途甚ダ有望ナルモノアリ。從テ前ニ所謂落差ハ將來三四十年間ニ於テ相平均スルモノト推測スルヲ得ズ。況ンヤ支那鐵道ノ經營及巴奈馬運河ノ開鑿等ノ如キ、偶生事實ガ此落差ヲシテ更ニ大ナラシムルニ於テオヤ。故ニ少クトモ此ニ表示セシ數ノ如キハ決シテ架空ノモノニアラザルナリ。而テ此數ニ於テハ築港ノ爲メニ運賃低減ノ結果増加スベキ從來ノ輸出入品ノ増額及其結果當然來ルベキ新物件ノ輸出入額ノ如キハ全ク之ヲ見積ラズシテ、唯從來ノ増加率ニ依リテノミ積算セリ。故ニ此數ハ寧ロ安全ナルモノトシテ見ルベキモノトス。即チ東京出入貨物ハ内外貿易ノ合計ニ於テ明治五十二年、即チ來年ヨリ起工スルモノト豫想セル東京築港工事ノ完成期ニ於テ五、四九六、六一四噸、其十年後即チ明治六十二年ニ於テ九、六四四、七五九噸、更ニ築港完成後二十年ナル明治七十二年ニ於テ一七、八五〇、九八一噸トナルベキ計算ナリトス。

然ルニ轉ジテ横濱築港ナルモノヲ觀察スルニ、之ニ從事スル直木技師ガ前ニ帝國「ホテル」ニ於テ公衆ニ説明スル所ニ依リ、以テ其大體ヲ知ルヲ得ベキ

ナリ。曰ク、横濱港ニ於テ明治四十五年ニ於テ完成ヲ期スル計畫ニ依レバ、其有效岸壁長九百五十間ニシテ、間口一ヶ年一千噸ノ荷役能力アルモノトシテ、横濱港ノ明治四十五年以後ニ於ケル荷役能力ハ一ヶ年九十五萬噸ヲ以テ極度トス。然ルニ一方ニ於テハ、同港ノ一ヶ年輸出入噸量ハ、過去十年間ノ統計ヨリ推シテ明治四十五年以後ニ於テハ必ず二百四十五萬噸ニ達スベシ、其差額即チ百二十七萬噸ニ對シテハ、全ク横濱港ノ能力以外ニ屬ス云々ト。又曰ク、右計算ハ單ニ外國貿易ノミニ就テ言フモノニシテ、此外ニ東京灣ニ入港シ得ザルガ爲メニ横濱ニ寄港シ、之ヨリ舳ニテ東京ニ輸送サル、内國貨物ハ、實ニ明治三十三年ヨリ三十五年ニ至ル三年間ノ統計ニ見ルニ、一ヶ年平均百二十二萬噸ニシテ、要之明治三十三年ヨリ三十五年ニ至ル三ヶ年ノ平均ニ就テ考フルモ、外國貿易ニ於テ五十一萬噸、内國貨物ニ於テ百二十二萬噸、合計百七十五萬噸ハ、全ク横濱港ニ關係ナク東京ニ屬スルモノニシテ、若シ明治四十五年ヲ推算セバ其量二百五十萬噸ニ達スルモノト豫想スルヲ得ベシ云々ト。此數量ノ本章ニ論ズル所ト合セザル所以ノモノハ、該技師ハ横濱港出入ノ貨物全部ニ就テ云ヒ、吾人ハ唯其中ニ就テ東京ニ輸送

セラル、モノ特ニ其陸運ニ屬スルモノヲ省キタル海運貨物ニ就キ立論スルガ故ニシテ、横濱港側ヨリ立論スル同技師ノ見解ノ正確ナルヲ疑ハズ。又東京側ヨリ謂ハシムレバ、將ニ左ノ如ク云ハントス。

既ニ陳ベタル如ク、明治三十九年ニ於テ横濱港ニ於ケル外國貿易ハ一、三七六、二三四噸ニシテ、内一、〇二二、一八噸ヲ以テ東京商業ノ外國貿易標準額トナセリ。其差額即チ三五四、一〇六噸ヲ以テ横濱專屬ノモノトスルモ、尙ホ之ヲ十年倍加ノ率ニ依ルモノトスレバ、明治五十二年ニ於テ其額九六〇、〇〇〇噸餘ニ達シ、此ニ所謂横濱港ノ岸壁極度荷役能力九十五萬噸ヲ消費シ盡スベキ計算ヲ示ス。況ンヤ之ニ加フルニ内國貨物ノ存スルアルガ故ニ、横濱築港ノ外更ニ東京ニ於テ別ニ其商業發展ニ應ズルノ策ヲ講ゼザルベカラズ。

次章ニ於テ示ス如ク、今單ニ輸送費ノミニ就テ云フモ、今日ニ於テ東京市民ハ現ニ毎年五百萬圓以上ヲ支拂ヒ、尙進ンデ東京築港完成期即チ明治五十二年ニ於テハ一ヶ年九百六十餘萬圓ヲ支拂フベキモノニシテ、本調査ニ於ケル計算ノ結了期即チ七十二年ニ於テハ、一年ノ支拂額殆ンド三千三百七十萬圓ニ達シ、東京港完成後二十年間ニ於テハ、三億八千三百萬圓ヲ支拂ハザルベカラザルノ計算ナリ。然ルニ一方ニ於テハ、來年度即チ四十三年ニ於テ築港工事ヲ起スモノトスレバ、其完成期即チ五十二年ニ於テハ運賃ノ差ニ於テ一年七百九十餘萬圓ヲ利益シ、其以後ニ於テハ此利益ハ貨物ト共ニ増加シテ止マズシテ、遂ニ七十二年ニ於テハ其利益スベキ額一年三千萬圓餘ニ達シ、新港完成後二十年間ニ於テ其利益總額約三億四千萬圓ヲ計算スルヲ得ベシ。此利益ハ固ヨリ東京港有無ノ比較ヲ示スモノニシテ、現築港計畫ガ此利益ヲ產出スベシト云フニアラザルナリ。

必要ナル語ハ絶對的ヲ意味シ、損益ナル語ハ比較的ヲ意味ス。然レドモ事實ニ於テハ比較的ノ絶大ナルモノハ絶對的ト其意義ヲ同フス。即チ横濱港ニ於テ年々累進スベキ貿易貨物ノ數量ヲ現在ノ輸送方法ノ繼續ニ依頼センカ、前陳ノ如ク巨額ナル輸送ノ失費ヲ要シ、其極貿易不振ノ因ヲ爲スニ至ルベシ。反之東京ニ築港スルノ方法ニ依ランカ、又前陳ノ如ク巨額ナル運賃ノ差額ヲ利益シ、更ニ貿易振興ノ因ヲ爲スベキハ明ナリ。此比較ノ絶大ナル差ハ事實ニ於テハ之ヲ絶對的トシテ觀察セザルヲ得ザルベシ。

此ノ如ク多額ナル利益數ハ、實ニ大ニ東京ニ築港スルノ必要ヲ示スモノニシテ、更ニ東洋貿易ノ將來ヲ按ズルトキハ、東京市民ハ決シテ安座シテ四圍ノ事情ニ制御セラレテ止ムベキノ時ニアラザルナリ。蓋シ我國既往ノ商業發展ノ事蹟ニ鑑ミ、又將來ノ東洋貿易ノ趨勢ヲ測リ、且此絶大ノ利益額ヲ計算スルトキハ、東京築港ノ已ムベカラザル所以ヲ見ルニ足ルベケレバナリ。或ハ曰ハン築港ノ事多額ナル工費ヲ要ス、問フ所ハ唯其財源ノ如何ニアルノミト。然レドモ凡ソ市經營ノ事業ニシテ築港事業ノ如ク一般市民ヲ利益セシムルト同時ニ、市金庫ヲ利益セシムルモノ他ニ其類例ナカルベシ。若シ之アリトスレバ、其取捨ハ唯時論ノ歸スル所ニ從テ可ナルベシト雖トモ、若シ之ナキニ於テハ宜ク時論ヲ誘導シテ此處ニ歸一セシムルノ必要アルモノナリ。之レ實ニ市民福利ノ爲メニスル永遠ノ大計ナレバナリ。

第三章 東京築港ノ利益

築港ノ利益計算ハ、之ヲ説明スルニ當リ之ヲ利益ト計算トニ區別スルヲ便利ナリトス。何トナレバ一方ニ於テ復雜ナル經濟關係ト又他方ニ於テ多岐ナル計算トガ同時ニ相混交スルニ於テハ遂ニ事理ヲシテ不明瞭ナラシム

ルノ虞アレバナリ。

第一節 利益

築港ノ政策トシテ先ヅ研究スベキモノハ理論上ノ利益ナリ。此理論上ノ利益ニ事實上ノ價格ヲ見積リテ始メテ眞ノ利益數ヲ得ルモノトス。而シテ其價格ノ見積リニ際シテハ諸般ノ事情ヲ參酌シテ安全ニ事實ニ適應セシムベキヲ要ス。今本節ニ於テハ築港ノ理論上ノ利益ヲ論ゼント欲ス。

港ハ固ヨリ運輸機關ノ一部ナルガ故ニ、其築設ノ直接ノ效用ハ、其築設ニヨリテ生ズル運送價格ノ多少ニ依リテ其大小ヲ示スベキモノトス。運送價格ハ常ニ運賃ニ依リテ表示セラル、モノニシテ、運賃ハ常ニ運送ノ價值ト運送費トノ間ニ於テ定マルベキモノトス。而テ運送ノ價值ハ、物品ノ運送セラレベキ兩地ノ市價ノ差異ヲ最上限トシテ其上ニ昇ルコトヲ得ズ。又運送費ハ運送ノ實費ヲ最下限トシテ其下ニ降ルコトヲ得ズ。蓋シ運賃ノ最上限ガ物品ノ運送セラルベキ兩地間ノ市價ノ差異ノ上ニ昇ルトキハ、貨主ハ其運賃ヲ拂フニ於テ損失アルベキヲ以テ、貨物ハ此兩地間ニ流動セザルニ至ルベク、又運賃ガ運送ノ實費ヲ降ルトキハ、運送業者ハ其運送ヲ爲スニ於テ損

失アルベキヲ以テ、又貨物ハ此兩地間ニ流動セザルニ至ルベシ。例之甲乙兩地間ニ商品ノ市價ニ五圓ノ差異アリトスレバ、其運送ノ實費ハ三圓ナルニ係ハラズ、運送業者ハ運賃トシテ五圓マデヲ請求スルヲ得ベシ。然レドモ若シ其運賃ヲ五圓以上例之六圓トナストキハ、貨主ハ其商品ヲ市場ニ提出シテ一圓ノ損失ヲ受クルヲ以テ甲乙兩地間ニ於テハ其商品ノ流動ハ止ムニ至ルベシ。又運賃ヲ三圓以下例之二圓トナストキハ、運送業者ハ其實費ヲ支拂フテ尙ホ一圓ノ損失ヲ受クルニ至ルヲ以テ、此場合ニ於テモ亦甲乙兩地間ニ於テハ其商品ノ流動ハ止ムニ至ルベシ。

新港築設ノ效用ハ、右ニ陳ベタル運送費即チ運賃ノ現在ニ於ケル最下限ヲ更ニ低下セシムルニ於テ始メテ顯ハル、モノニシテ、其新港築設ノ效用ニ依リテ此利益ヲ享受スルモノハ第一公衆、第二港ノ管理者之ナリ。第一公衆ノ受クル利益ハ、新港築設前後ノ運賃ノ差ニシテ、其差ノ最下限ハ運送費ノ差ナリ。第二、新港管理者ノ利益ハ、新輸送ニ於ケル運賃ト運送費ノ差ヲ以テ限度トスルモノナリ。例之新輸送ニ於ケル運賃五圓ニシテ運送費三圓ナル場合ニ於テハ、新港管理者ハ一方ニ於テ貨主ノ利益ヲ害スルコトナク、又他

方ニ於テハ運送者ノ利益ヲ害スルコトナクシテ收得シ得ベキ利益ハ二圓ナルガ如シ。故ニ新港築設ノ利益ハ舊運賃ヲ以テ最上限トシ、新運送費ヲ以テ最下限トナスベキモノナリト云フヲ得ベシ。今Pヲ以テ舊運賃ヲ示シ、又P'ヲ以テ新運賃ヲ示シ、p'ヲ以テ新運送費ヲ示ストキハ、公衆ノ享クル利益ハ(P-P')ニシテ、(p-p')ヲ以テ其最下限ヲ示スベシ。又新港管理者ノ利益ハP'-p'ニシテ、新港ノ利益合計ハ(P-P)+(P'-p)=P-p'ヲ以テ之ヲ示スヲ得ベシ。

本節ノ終リニ於テ陳ブル如キ理由ニ依リ本調査ニ於テハ築港ノ直接利益ト間接利益トヲ區別セズシテ一般ニ之ヲ利益トナスガ故ニ、此計算ヲ爲スニ當リ、P'ヲ以テ最下限トセルP-P'、竝ニP'-p'及ビP-p'共ニ其直接ノ差ヲ計算シ得ベキモノハ之ヲ計上スルハ勿論ナリ。且ツ其差ニ依リテ當然來ルベキ利益ハ、或學者ハ之ヲ間接利益トシテ最モ尊重スルモノニシテ、此ニ之ヲ併セ計上シテ、以テ利益ノ直接ト間接トヲ區別シテ計上スルノ煩ト此區別ニ關シ學者間ニ存スル爭議ヲ避ケント欲ス。蓋シ利益ノ直接ナルト間接ナルトハ其標準ノ決定如何ニ依リテ同一物ノ名稱ヲ變化シ得ルモノニシテ、學說ト

シテハ或ハ價值アルベモ、本調査ニ於テハ一般ニ之ヲ利益トシテ計上スルニ於テ毫モ妨ゲナケレバナリ。又此ノ如クニシテ得タル利益ハ、之ヲ生産業ニ投下シテ更ニ利益ヲ生ジ、其利益ハ又更ニ利益ヲ生ジ、其利益ハ又更ニ利益ヲ生ズルノ理由ハ明ニシテ、學者ハ寧ロ此利益ヲ以テ築港ノ眞ノ利益ナリトナスモノアリト雖ドモ、本節ニ於テハ築港ノ生ジタル利益ガ生産業ニ投下セラレテ生ズル第一回ノ利益ヲ當時ノ金融利率一年六分ニ見積リテ計算シ、其他ヲ問ハザルコト、セリ。即チ之ヲ更ニ具體的ニ陳ブレバ則チ次項ノ如キモノアリ。

第一公衆ノ享クル利益ハ $(P-P')$ ニシテ $(P-P')$ ヲ以テ其最下限ヲ示スモノナリ。而シテ此 $P-P'$ ナルモノハ、例之舊運送費ノ三圓ニシテ新運送費ノ二圓ナル場合ニ於テハ、其差即チ一圓ハ公衆ガ新港ニ依テ享クル利益ナリトノ意義ヲ表明スルモノトスレバ、甚簡單ニシテ明瞭ナリト雖モ、其實ハ $P-P'$ ハ (a) 新舊運送費ノ差ヲ代表スルハ勿論、其裏面ニ於テハ (b) 新輸送ニ於ケル運送費ノ低減ノ爲メニ物品ノ市場ニ於ケル需給關係ニ於テ新面目ヲ呈スルガ爲メニ生ズル在來輸出入物品ノ集散増加ノ利益 (c) 從來ノ運送費ニテハ輸出入シ得ザ

リシ物品ノ新輸入ヲ招致スルノ利益 (d) 新運送費ノ低減ノ爲メニ $(a)(b)$ ノ結果トシテ新工業ノ勃興ヲ促シ、併セテ舊事業ノ隆盛ヲ助長スルノ利益ヲ招致スルモノナリ。又新港管理者ノ利益ハ $P'-P'$ ナリト云フハ、其實質ニ於テハ (e) 噸税 (f) 港税 (g) 繫船料及 (h) 其他ノ收入ヲ含有スルモノナリ。故ニ又新港ノ利益ハ $P-P'$ ヲ以テ表示スト雖モ、其結果ヲ解剖スレバ $a+b+c+d+e+f+g+h$ ヲ含有スルモノトス。

然ルニ一方ニ於テハ新港ノ築設ハ固ヨリ巨大ナル資本ヲ要スベキヲ以テ其元利ノ償還又容易ノ業ニアラズ。又管理及維持ニ於テモ其經費ヲ要スル寡シトセズ。故ニ總テ此等ノ經營ニ堪ユルノ利益ヲ確實ニ且安全ニ計算シ得ベキ場合ニアラザレバ、之ヲ不必要ノ工事ナリト云ハザルヲ得ザルナリ。即チ港ノ利益ヲ以テ A トシ、港ノ必要支出ヲ以テ B トスレバ、 $A > B$ ノ場合ニアラザレバ其工事ハ不利益ナルモノニシテ、 $A < B$ ガヨリ大ナル程度ハ即チ築港ノ利益ノ程度ヲ示スモノナリ。而シテ B ハ其内容ニ於テハ (a) 管理維持費 (b) 公債利子 (c) 元金償還額ヲ含有スベキヲ以テ之ヲ前項ニ陳ベタル所ト對比スルトキハ、即チ新港工事ノ利益程度ハ $(a+b+c+d+e+f+g+h)(V(a+b+c))$ ノ

程度ニ依リテ示サル、モノニシテ、又A-B即チ港ノ利益ヨリ其必要支出ヲ引去リタル殘餘ハ、港ノ純益ナルガ故ニ、Cヲ以テ其純益ヲ示ストキハ、 $C \parallel A-B$

$\parallel (a+b+c+d+e+f+g+h) - (a+b+c)$ ナリ。

事或ハ蛇足ニ似タル觀アリト雖モ、此ニ築港政策ニ就キ人ヲ迷ハシムベキ一二ノ言アリ。曰ク、港ハ公道ナルガ故ニ無償ニテ公衆ノ使用ニ任ズルヲ理想トスベシト。又曰ク、港ハ間接利益ヲ目的トシテ直接利益ハ其間ヲ所ニアラズト。此兩種ノ言ハ或ル場合ニ於テハ其意義ノ明確ヲ缺キ、却テ人ヲシテ誤想ニ陥ラシムルノ虞アルヲ以テ、此ニ之ニ就テ簡單ニ一言セントス。

第一、港ハ公道ナルガ故ニ無償ニテ公衆ノ使用ニ供スベシトノ理想ハ、我國及歐米共ニ行ハル、所ナルガ如シ。然レドモ經濟界ニ於テハ無報酬ナル資本ノ投下ナシ、從テ公道ナル前提ハ直ニ無償使用ナル結論ヲ生ズルヲ得ザルナリ。鐵道ハ公道ナルニ係ハラズ、何故世人ハ之ヲ利用スルニ當リテ其賃錢ヲ拂ヘルカヲ思ハ、蓋シ思ヒ半ニ過グルモノアラン。世人ハ公道無償使用ヲ理想スルノ傍ニ於テ、鐵道賃ノ支拂ヲ怪マザルハ之レ矛盾ニアラズヤ。更ニ又鐵道賃ノ支拂ヲ怪マザルノ傍ニ於テ港ノ無償使用ヲ理想トスベキ

ヲ論ズルハ之レ又矛盾ニアラズヤ。公道ノ無償使用ハ或ル場合ニ於テノミ眞理ニ適合スルガ如シト雖ドモ、其場合ニ於ケル無償使用ハ、港ノ有償使用ト正ニ同一理由ニ出ヅルモノニシテ、若シ港ヲモ無償使用ナラシムルトキハ、却テ公道無償使用ノ眞理ニ背戾スルモノナリ。世人往々普通道路ノ無償使用ヲ此場合ニ引證スルモノアリ。然レドモ普通道路ニアリテハ、其使用ガ極メテ一般ニ渉ルモノニシテ、其道路費ノ負擔ト道路使用ノ利益トガ相平均スルモノト認ムベキガ故ニ、特ニ道路使用料ノ徴收ヲ必要トセザルノミ。即チ負擔ト利益トガ相殺スルニ足ルモノニシテ、世人一般ガ負擔スル道路費ノ資本ヲ支出セルニ對シ、世人一般ガ道路使用ニ依リテ得タル利益ニ依リ、其資本ニ對スル報酬ヲ得タルモノナリ。然ルニ更ニ又世人一般ヨリ道路使用料ヲ徴收スルトキハ、世人ハ一般ニ道路費ヲ二重ニ負擔スルコト、ナルベシ。之ヲ普通道路ニ於ケル無償使用ノ理由ナリトス。然レドモ港ノ如キ營造物ニ至リテハ、鐵道ト同ジク之ヲ使用スル者ガ道路ノ如ク一般ナル能ハザルガ故ニ、若シ築港工費即チ資本ヲ世人一般ヨリ徴收シナガラ、其使用者ヨリ特ニ使用料ヲ徴收セザルトキハ、其費用ノ負擔ニ於テ不公平ナル結

果ヲ生ズベク、又築港ノ事業ノ如キハ、常ニ一時ニ巨額ナル資本ヲ要スベキガ故ニ、其港ニ因テ特ニ利益ヲ受クル使用者ヨリ其辨濟ヲ受クルニアラザレバ、其元利ヲ償還スルコト能ハザルモノニシテ、即チ築港費ノ負擔ト港ノ使用ノ利益トガ之ニ使用料ヲ加算スルニアラザレバ、相殺スル能ハザルモノナリ、故ニ港ノ使用料ノ額ハ、常ニ此相殺計算ヲ爲シ得ベキ限度ニ於テ制限セラレザルベカラズ。若シ此限度ヲ超過スルアラバ、之レ恰モ普通道路ニ於テ使用料ヲ徵收スルト同ジク背理ノ甚シキモノニシテ、世人ハ即チ築港費ノ二重負擔ヲナスベキモノト云フヲ得ベシ。即チ普通道路ニ於テハ無償使用ニ依リ既ニ相殺ノ計算ヲ遂ゲ、築港ニ在リテハ有償使用ニ依リテ始メテ相殺ノ計算ヲ完フスルモノニシテ、其要ハ唯費用負擔ト使用利益ヲ相殺セシムルノ方法ヲ異ニスルノミ。然ルニ此理由ヲ無視シテ漫ニ港ハ公道ナラズ、此暴斷ノ結果ハ往々港經濟ノ不調和ナルニ係ハラズ、頻リニ其使用料ヲ輕減セントスルモノアルニ至ル。又甚シキニ至リテハ築港ノ正確ナル利益計算ヲ試ミズシテ、漫然妄斷ヲ以テ起工スルニ至ルモノアリ。此ノ如キハ

實ニ思ハザルノ甚キモノト云フベシ。惟フニ此ノ如キ謬説ハ或ハ競争港ノ場合又ハ國民經濟策ノ一部タル築港ノ場合ト相混同シテ一般ノ築港ヲ論ズルノ誤リニ基因スルニアラザルカ。若シ果シテ然リトセバ、此二ツノ場合ノ如キハ相殺計算ヲ求ムベキノ方法他ニ存スルモノアルニ依リ、之ヲ此ニ引用シテ辨ズルハ徒ラニ論議ヲ迷路ニ導クモノニシテ何等ノ利益アルナシ。

第二、港ノ利益ハ間接利益ヲ目的トシテ直接利益ヲ輕小視スルノ見解ハ、其兩種ノ利益ノ區別ノ明確ヲ缺クノ點ニ於テ却テ人ヲ迷ハスノ虞アリ。或ハ港ノ管理財政ガ港ヨリ收得スル利益ヲ稱シテ直接利益ナリトシ、其他一般公衆ノ受クル利益ヲ間接利益ト稱スルモノアリ。又或ハ港ノ直接ニ與フル利益ハ、其享受者ノ公衆ナルト港ノ管理財政ナルトヲ問ハズ、皆之ヲ直接利益トナシ、其直接利益ガ産出スル利益ヲ以テ間接利益トスルモノアリ。皆其標準點ノ相同ジカラザルニヨリ、其指示スル所ノ目的物ノ名稱ヲ異ニスルモノニシテ、其ニ甚シク之ヲ非難スベキニアラズト雖モ、利益ハ其直接ナルト間接ナルトヲ問ハズ、之ニ對シテ輕重ノ差ヲ附スベキモノニアラズ。例之

港税、繫船料ノ如キハ、固ヨリ港ノ直接ニ産出スル利益ニシテ、兩種ノ論者共ニ之ヲ直接利益トナスニ於テ異論ナシト雖モ、港ノ利益中最大ナルベキ新舊運賃ノ差ノ如キハ、一ハ之ヲ以テ間接利益トナシ、他ハ之ヲ以テ直接利益トセルガ如シ。要スルニ此名稱ノ區別ノ如キハ、學說トシテハ或ハ相當ノ價值アリトスルモ實際ニ於テハ却テ政策ノ論據ヲ混雜セシムルノ虞ナシトセズ。故ニ本調査ニ於テハ別ニ利益ノ直接タルト間接タルトヲ問ハザルナリ。

第二節 計算

$O=A-B=(a+b+c+d+e+f+g+h)-(a'+b'+c')$ ナル式ヲ實數ニ於テ計算スルハ、本節ノ任務ナリ。故ニ先ヅ計算ニ先ツテ各項ノ説明ヲナスベシ。

a、ハ新舊運送費ノ差ニシテ、現運送費ハ各年ノ貨物噸數ニ現在ノ運送費ノ單價即チ外國貨物ニアリテハ二圓十七錢五厘、内國貨物ニアリテハ一圓十一錢九厘ヲ乘ジタルモノニシテ、尙ホ本港揚貨物ノ運送費ハ各年ノ貨物噸數ニ外國貨物ニアリテハ二十一錢二厘、内國貨物ニアリテハ十七錢九厘ヲ乘ジ、且貨物ガ本港荷役能力ノ極度タル四百萬噸ヲ超過スルトキ

ハ、其超過部分ハ百八十萬噸ニ達スル迄ヲ本港解取ニ依ルモノトセリ。其單價ハ外國貨物六十三錢内國貨物五十六錢四厘ナリトス。此等ノ單價ハ皆後掲運送費單價表ノ示ス所ナリ。

b、從來ノ輸出入物品ノ出入増加ノ利益ハ、其數量ヲ推測スルノ危險ヲ避クルガ爲メニ、且總數ニ對スル安全數ノ餘地ヲ與フルノ目的ヲ以テ、其數ノ甚ダ大ナルモノアルベキニ係ハラズ、之ヲ本節ノ計算ヨリ省キタリ。

c、從來輸出入セザリシ物品出入ノ利益モ亦甚ダ大ナルアルヲ疑ハズト雖ドモ、前項bト同一ノ理由ニ依リ之ヲ省キタリ。

d、新工業ノ勃興ヲ促ガシ舊事業ノ隆盛ヲ助長スルノ利益モ、亦前兩項ト同一ノ理由ニ依リ、之ヲ省キタリ。

e、噸税

f、港税、噸税、港税ハ登簿噸數一噸ニ付各五錢十四錢ナリト雖ドモ、豫納ノ方法ニ依リ一時ニ一噸ニ付三噸分ヲ支拂ヒテ滿一ケ年ノ免稅許可ヲ得ルモノトシテ見積リ、換算シタル貨物噸數一噸當リノ單價ニシテ、即チ噸税ノ單價ヲ貨物噸數一噸二錢五厘、港税ノ單價ヲ貨物噸數一噸ニ付七錢

トセリ。現在ノ制度ニ於テハ噸税ハ明治三十二年法律第八十八號噸税法ノ規定ニ依リ之ヲ國ノ收入トナセリト雖ドモ、東京港ノ新設改良及管理維持ヲ市ニ於テ經營シテ其負擔ニ任ズル以上ハ法令ノ改廢ヲ行フテ之ヲ東京市ノ收入ニ歸セシムベキハ當然ナリトス。

g、繫船料ハ神戸港ニ於ケル計畫標準ヲ以テ本港有效岸壁四千間ニ乗ジタルノ數、即チ船舶ノ登簿噸數六一、三二〇、〇〇〇噸ノ二分ノ一即チ三〇、六六〇、〇〇〇噸ニ五錢ヲ乗ジタルノ數ニシテ、一年一、五三三、〇〇〇圓ナリ。又神戸標準ニ依ル繫船岸壁使用ノ登簿噸數六一、三二〇、〇〇〇ヲ半減シテ三〇、六六〇、〇〇〇噸トナセシハ、神戸港ニ於ケル岸壁ノ荷役能力ハ一年間口二千噸ヲ單位トセリト雖ドモ、本港ニ於テハ數ノ安全ヲ期スル目的ヲ以テ其單位ヲ間口千噸トナセシニ依リ、船舶ノ岸壁ニ於ケル新陳代謝ノ力ハ、本港ハ神戸港ノ半數ニ相當スルヲ以テナリ。又登簿噸數壹噸五錢ノ繫船料ハ、現ニ神戸及横濱ニ於テ徵收スル棧橋料ヲ參酌セル標準ナリ。然ルニ今右繫船料額一、五三三、〇〇〇圓ヲ本港岸壁ノ極度能力タル四百萬噸ニ對比スル時ハ、貨物一噸ニ付卅八錢三厘ニ當ル。而テ此使用料ハ甚

ク高價ナルノ觀アレドモ、神戸貿易商會ノ棧橋計畫ニ於テハ輸出入品一噸平均八拾錢ヲ徵シ得ルモ、其三割強ヲ減ジテ輸出入品一噸平均五十錢、内航竝通過貨物共一噸ニ付參拾錢ヲ徵スルモノニ比シテ寧ロ廉ニ過グルモノト云フヲ得ベシ。蓋シ現計畫ニ依ル東京港ニ於テハ、四千間ノ有效岸壁ハ近キ將來ニ於テ唯外國貨物ノ一部ノ需メニ應ズルニ止マリ、外國貨物ノ多數ト内國貨物ノ全部ハ全ク岸壁ヲ使用スル能ハザルコト、ナルヲ以テ、本港ニ於テハ神戸貿易商會ノ五拾錢ニ對シテ三拾八錢二厘ヲ見積ルモノナレバナリ。

本港ニ於ケル岸壁荷役能力ハ一年四百萬噸ト見積ルヲ以テ相當ナリトスルニ對シ、新港使用ノ初年ニ於ケル内外貨物ノ合計ハ五、七九九、三九八噸ナリ。此當時ニ於テ既ニ一、七七九、三九八噸ノ貨物ハ岸壁ヲ使用シ得ベカラザルモノナリ。而テ貨物噸數ハ年ト共ニ増加シテ第十年目ニ於テハ外國貨物ノミニ於テ其數六、〇一五、八四九噸、第二十年目ニ於テ一、二、九九四、二三〇噸、第三十年目ニ於テ二、八〇六、七、五三六噸ニ達スベキ數ヲ示ス。東京市ハ固ヨリ此ノ如キ貨物増加ニ對シ現計畫ノ有效岸壁四千間ヲ墨

守スベキ理由ナク、必ズ又近キ將來ニ於テ岸壁ノ擴張ヲ經營スルニ至ルベキハ明ナリト雖ドモ、現計畫ト貨物増加ノ趨勢トハ此ノ如キ對比アルヲ見ルナリ。元來岸壁ノ使用ハ貨物一噸當リノ單價ニ於テ甚ダ廉ナルモノニアラズト雖ドモ、貨主ハ其使用ニ依リテ解取ノ場合ニ於テ往々免カレザル盜難及物品ノ破損ヲ避クルヲ得、且貨物ノ延滞日數ニ對スル損失ヲ免カル、ガ爲メニ之ヲ使用スル貨物ハ、之ヲ使用セザル貨物ニ比シ市場ノ競争力ヲ利益シ、又船主ハ岸壁ノ使用ニ依リテ船舶ノ滞港日數ヲ減ズルニ依リ、其運送資本ノ活動ノ敏速ナルト滞港費用ノ減少ノ爲メニ著キ利益ヲ享クルガ故ニ、貨主又ハ航主ハ不廉ナル繫船料ヲ支拂フモ尙ホ運賃ヲ増加セシメズシテ利益ヲ得ルノ計算ヲ有スルモノナリ。此ノ如キハ一般ノ狀況ナルニ加ヘテ、本港ニ於テハ、到著貨物ノ數右ニ陳ベタル如クナルヲ以テ、貨主船主共ニ力ヲ協セテ岸壁ノ使用ヲ競争シ、其結果著ク岸壁使用料即チ繫船料額ヲ高ムルニ至ルベキハ明ナリ。故ニ此理由ヨリ見ルモ登簿噸數一噸五錢ノ使用料ハ高價ナリト云フヲ得ザルベシ。人或ハ何故ニ繫船料ヲ運送費ノ單價ニ見積ラザルヤヲ疑フモノアラン。

日本郵船會社ノ之ヲ見積ラザリシ理由ハ、此ニ辯明スルノ限ニアラズト雖モ、本調査ニ於テ之ヲ運送費ニ見積ラザリシ理由ハ、第一、岸壁使用ノ貨物ハ外國貨物ノ總數中ノ一小部分タルニ止マリ、之ヲ以テ一般ノ單位標準數ニ加算スベキモノニアラス。第二、繫船料ノ負擔ハ貨主ニアルベキヤ又船主ニアルベキヤハ運送契約又ハ商習慣ニ依リテ定マルモノニシテ、本邦ノ港ニ於テハ未ダ繫船岸使用ニ關スル商習慣ナキヲ以テ、之ヲ運送費ト認ムベキヤ、又之ヲ貨主ガ貨物受取後ノ取扱費ト認ムベキヤヲ一定シ難シ。第三、繫船料額ハ運賃ニ影響セザルベシ。蓋シ之ヲ船主又ハ貨主ガ岸壁使用ニ依リテ享クル利益ト相殺シテ可ナルベク、特ニ運送資本ニ對シ其料金ノ支拂ヲ求ムルノ必要ナカルベケレバナリ。若シ之レヲ運賃ニ影響スルモノトスレバ、其影響ハ蓋シ不廉ナル繫船料ヲ支拂フテ運賃額ヲ低減シテ計算セザルヲ得ザルベシト云フニアリ。

h、ハ埋立地ノ貸地料其他ノ雜收入ヲ見積リタルモノニシテ、皆現計畫ニ依ルモノナリ。

a、ハ港ノ管理及維持ノ費用ノ全部ナリ。

b、ハ公債利子ニシテ、築港公債四千六百二十萬圓ヲ内債ニ依リ募集シ、十年据置年六分利付十九年償還ノ方法ニ依リ毎年ノ利子ヲ示スモノナリ。其詳細ハ次章第二節ノ示ス所ナリ。

c、ハ元金償還額ニシテ、皆前項ノ方法ニ依リ償還スベキ額ヲ示スモノナリ。然ルニ右ノ方式ニ依ル計算ヲ今各項ニ付説明セル所ニ依リ之ヲ約ストキ

$$C = A - B = (a + e + f + g + h) - (a' + b' + c')$$
 トナルベキナリ。然レドモ此方式ノ如ク計算スルトキハ、理ハ甚ダ鮮明ナリト雖ドモ、其計算ニ於テハ却テ實際ヲ離ル、コト多キヲ以テ、本調査ニ於テハ之ヲ利益ノ享受者タル公衆ノ利益計算ト又同ジク利益ヲ享受シ同時ニ支出義務即チ公債ノ元利償還及港ノ管理維持費ヲ支拂フベキ港ノ管理財政即チ市金庫ノ計算トニ分チ、別ニ又市金庫財政中公債償還ノ計算ヲ別ツコト、ナセリ。此方法ハ獨リ計算ノ混雜ヲ避ケ得ルノミナラズ、一見シテ却テ人ノ首肯ヲ得ルニ於テ容易ナルモノアラシ。然レドモ計算ノ結果及理由ニ至リテハ兩者ノ間更ニ差別アルナシ。即チ第一、築港前後ノ運送費ノ差額ヲ以テ公衆ノ利益ナリトシ、第二、噸税、港税、繫船料等ヲ以テ港財政ノ得ル利益トナシ、管理維持費ヲ以テ其支出ト

ナシテ計算シ、別ニ第三、埋立地ノ賣却代、不用品賣却代、貸地料等ヲ以テ收入トセル公債經濟ヲ計算スルコト、セリ。之ヲ方式ニ依リテ示セバ、第一ハ單ニ a ニシテ、第二ハ $(e + f + g) - a'$ トナシ、又第三ハ $h - (b' + c')$ ナリ。今其結果ニ於テ C 計算ノ變更セザルヲ示セバ、前記 $C = (a + e + f + g + h) - (a' + b' + c')$ ナル方式ガ此計算ニ於テ $a + (e + f + g) - a' + (h - (b' + c')) =$ 變形セシモノニシテ、其括弧ヲ去レバ即チ $a + e + f + g - a' + h - b' - c'$ トナルベシ。之即チ $(a + e + f + g + h) - (a' + b' + c')$ ニシテ、此兩方法共ニ同一ナル結果ヲ示スモノナリトス。本節ニ於テハ計算ノ便利ト一見解得ノ利益ノ爲メニ此ノ如ク計算セントスルモノナリ。此計算ニ入ルニ先チテ、先ヅ東京築港ノ必要ナル所以ヲ數ニ於テ示サントス。其順序トシテ第一幾何ノ貨物數量ガ將來東京ニ出入スベキヤヲ示シ、第二其貨物ガ如何ナル單價ニ於テ京濱間ニ輸送セラル、ヤヲ示シ、第三ニ此等ノ貨物ガ東京築港ノ爲メニ如何ナル利益ヲ享クベキヤヲ示サントス。固ヨリ此ニ東京築港ト稱スルハ必シモ現計畫ニ依ルモノヲ云フニアラズシテ、東京港ノ有無ノ比較ヲ示サントスルモノナリ。

内外貨物表

年	度	年	次	外國貨物噸數	內國貨物噸數	計
五三	一	三、〇〇七、九四〇	噸	二、七九一、四五八	五、七九九、三九八	
五四	二	三、二四八、五七五	噸	二、八七三、八〇七	六、一二二、三八二	
五五	三	三、五〇八、四六二	噸	二、九五八、五八五	六、四六七、〇四七	
五六	四	三、七八九、一三八	噸	三、〇四五、八六四	六、八三五、〇〇二	
五七	五	四、〇九二、二六九	噸	三、一三五、七一四	七、二二七、九八三	
五八	六	四、四一九、六五一	噸	三、二二八、二三二	七、六四七、八八三	
五九	七	四、七七三、二〇〇	噸	三、三二三、五〇〇	八、〇九六、七〇〇	
六〇	八	五、一五七、六二一	噸	三、四二三、九一九	八、五八一、五四〇	
六一	九	五、五七〇、二三一	噸	三、五二四、九二五	九、〇九五、一五六	
六二	一〇	六、〇一五、八四九	噸	三、六二八、九一〇	九、六四四、七五九	
六三	一一	六、四九七、一一五	噸	三、七一一、九六三	一〇、二三三、〇七八	
六四	一二	七、〇一六、八八四	噸	三、八四六、一七三	一〇、八六三、〇五七	
六五	一三	七、四七八、三三四	噸	三、九五九、六三五	一一、四三七、八六九	
六六	一四	八、一八四、四九三	噸	四、〇七六、四四四	一二、二六〇、九三七	
六七	一五	八、八三九、二五二	噸	四、一九六、六九九	一三、〇三五、九五二	
六八	一六	九、五四六、四〇〇	噸	四、三二〇、五〇〇	一三、八六六、九〇〇	
六九	一七	一〇、三一五、二四二	噸	四、四五一、〇九四	一四、七六六、三三六	

單價表 (外國貨物)

七〇	一八	一一、一四〇、二六二	四	四、五八二、四〇二	一五、七二二、六六四
七一	一九	一二、〇三一、六九八	四	四、七一七、五八三	一六、七四九、二八一
七二	二〇	一二、九九四、二三〇	四	四、八五六、七五一	一七、八五〇、九八一

名	稱	內	譯	小	計	現在ノ海運送 費額ニ對スル 將來ノ減額	現在ノ陸送費 額ニ對スル 將來ノ減額
横濱ニ於テ本船ヨリ船積移費	同本船税關間船積移費	二二〇	二二〇				
同船ヨリ税關内へ陸揚費	同税關ヨリ船積移費	一一〇	一一〇				
横濱税關ヨリ東京マテ船積移費	横濱税關ヨリ東京マテ船積移費	七五〇	七五〇				
同船運送海上保険料	同船運送海上保険料	三〇〇	三〇〇				
東京ニテ陸揚費	東京ニテ陸揚費	一〇〇	一〇〇				
本船噸税賦課	本船噸税賦課	〇二五	〇二五				
東京横濱間船運送日數ニ對スル荷物延滞損失見積	東京横濱間船運送日數ニ對スル荷物延滞損失見積	四二〇	四二〇				
横濱ニ於テ本船ヨリ船積移費	横濱ニ於テ本船ヨリ船積移費	一一〇	一一〇	二一七五			

當ノ倉庫ヲ有スベク、又築港落成ノ曉ニハ本港市内間陸上ニ於ケル交通ハ如何ナルモノニ依ルベキヤ未定ニ屬スルヲ以テ之ヲ推算セザル旨ヲモ附記セリ。本調査ニ於ケル之ニ關スル意見ハ第四章第四節第二項ニ於テ説明スル所ナリ。

單價表 (内國貨物)

名	稱	内	譯	小	計	現在海送費額ノ對スル將來減額
横濱ニテ本船ヨリ船ニ積移費		円	一〇五			
東京横濱間船賃			五一七			
同上船運送海上保険料 (一噸百五十圓ノ平均價格ニ對シ平均百圓ニ付拾五錢ノ割)			二二五			
東京ニテ陸揚費			〇九二			
東京横濱間船運送日數ニ (一噸百五十圓ノ平均價格ニ對シ) 對スル荷物延滞損失見積 (シ) 四日間ノ爲替日歩三錢ノ割			一八〇			
船ニテ接續小計				円	一一九	
將						
本船々々費			〇六五			
港稅			〇七〇			
本船ヨリ陸揚費			〇九二			
横濱寄港本港揚取小計					二二七	
來						
本船々々費			〇六五			
港稅			〇七〇			
本船ヨリ船ニ積移費			一〇五			
横濱寄港本港揚取小計					八九二	

東	京	著	船
本港市内間船賃			
市内ニ於テ陸揚費			
本船々々費			
港稅			
本船ヨリ陸揚費			
直航本港揚取小計			
〇九二	〇一七	〇七〇	〇九二
六二二	一七九		五六四
五〇七	九四〇		五五五

右二表及次表ノ示ス所ニ依リ、將來東京ニ集散スル貨物ノ如何ニ大ナルカ又公衆ノ之ニ對シテ費ヤス所ノ如何ニ大ナルカ、又東京ニ築港スルニ於テハ其利益ガ如何ニ大ナルカヲ見ルベシ。此計算ハ前節ニ於テ陳ベタル方法ニ依リ、東京集散ノ貨物ヲ積算シ、其貨物ガ右ニ表示セル單價ニ依リ、一方ハ現在ノ方法ニ依リ、五大力船又ハ達摩船ニ依リテ京濱間ヲ運送セラル、モ

新舊運送費比較表

年度	年次	外國貨物		內國貨物		合計	新舊運送費差額
		噸數	現運送費	噸數	現運送費		
五三	一	三〇〇七、九四〇	六、五四二、二六九	二、七九一、四四八	三、一三三、六四一	四、九六六、七〇〇	八、五二八、五五七
五四	二	三、二四八、五七五	七、〇六五、六五〇	二、八七三、八〇七	三、二二五、七九〇	五、二四一、四〇一	一、一三三、七三三
五五	三	三、五〇八、四六三	七、六三〇、九〇四	二、九五八、五八五	三、三〇〇、六六六	五、三九六、六六八	九、〇七八、三三三
五六	四	三、七九二、一三八	八、二四一、三七五	三、〇四五、八六四	三、四〇八、三二一	五、四四五、二〇九	九、〇〇一、九〇〇
五七	五	四、〇九二、二六九	八、九〇〇、六八五	三、一三五、七四	三、五〇八、八六三	五、六一二、九二	一〇、〇八〇、七九二
五八	六	四、四一九、六六一	九、六二七、四〇〇	三、二八二、三三	三、六二二、三九一	五、八七五、七〇三	一〇、〇〇一、一〇四
五九	七	四、七三三、〇〇〇	一〇、三六一、七〇〇	三、三三三、五〇〇	三、七二八、九九六	六、〇六四、六九六	一〇、〇〇一、一〇四
六〇	八	五、一五七、六二二	一一、一七三、八三五	三、四三三、九九	三、八三一、三六五	六、二二八、一八	一〇、〇〇一、一〇四
六一	九	五、五七〇、二二二	一二、〇一五、二五三	三、五二四、九三五	三、九四三、九九一	六、三〇〇、九〇一	一〇、〇〇一、一〇四
六二	一〇	六、〇一五、八四九	一三、〇八四、四七一	三、六二八、九〇〇	四、〇六〇、七五〇	六、四九一、六五〇	一〇、〇〇一、一〇四
六三	一一	六、四九七、二一五	一四、一三三、二三五	三、七三五、九九三	四、一八〇、五〇二	六、六七二、七九五	一〇、〇〇一、一〇四
六四	一二	七、〇一六、八八四	一五、一六六、一七三	三、八四六、一七三	四、三〇三、八七七	六、八六〇、〇五四	一〇、〇〇一、一〇四
六五	一三	七、四七三、三三三	一六、二六五、一五八	三、九五九、六三五	四、四三三、〇八三	七、〇四二、二三五	一〇、〇〇一、一〇四
六六	一四	八、一八四、四九三	一七、三六二、一三二	四、〇七六、四四〇	四、五六二、五〇四	七、二二八、九四四	一〇、〇〇一、一〇四
六七	一五	八、八三九、二五二	一八、四六一、一〇二	四、一九六、六九	四、六八二、〇〇九	七、四一四、七〇三	一〇、〇〇一、一〇四
六八	一六	九、五四六、四〇〇	二〇、七六三、四〇〇	四、三三〇、五〇〇	四、八三三、六六九	七、六四七、〇六九	一〇、〇〇一、一〇四
六九	一七	一〇、三三三、二四一	二二、四三五、六五一	四、四五一、〇九四	四、九八〇、七四四	七、九二一、七八八	一〇、〇〇一、一〇四
七〇	一八	一一、一四〇、二〇二	二四、三三〇、〇九	四、五八二、四〇一	五、一七二、七七七	八、一〇四、四七九	一〇、〇〇一、一〇四
七一	一九	一二、〇三三、六九九	二六、一六八、九四三	四、七二七、五八三	五、三七八、九七五	八、四八六、五五八	一〇、〇〇一、一〇四
七二	二〇	一二、九四三、三〇〇	二八、〇六二、四四〇	四、八六六、七五一	五、四三三、七四四	八、八七〇、四八五	一〇、〇〇一、一〇四
計		一三七、六二六、七四六	三、九三三、八二九	一、三〇七、〇六一	一、三〇七、〇六一	五、二四〇、七四六	九、一七四、五七二

ノト、他ノ一方ニ於テハ東京ニ築港シテ其岸壁ヲ利用スルモノトヲ比較計
算セシモノニシテ、今日ヨリ十年後ニ於テハ、東京出入貨物ハ一年約五百八
十萬噸ニ達シ、其現方法ニ依ル運送費ハ一年九百六十六萬餘圓ニ及ブ。而テ
新港ニ依ル費用ハ一年約百十三萬圓餘ニシテ、其差ハ實ニ一年八百五十二
萬圓餘ナリ。之ヲ明年起工セルモノトセバ、築港ノ完成期ニ於ケル状態ナリ
トス。此ノ如クシテ進ンデ現計畫ニ依ル築港完成後第二十年目ニ於テハ、其
額前章ニ記シタル如ク、貨物ニ於テ一年千七百萬噸ヲ超ユルニ至リ、其現方
法ニ依ル運送費ハ一年三千三百六十九萬圓餘ヲ支拂ハザルヲ得ザルコト
ナリ、又其貨物が新港必シモ現計畫ニ依ルモノト云フニアラズ。ニ依リ費
ス所一年三百六十二萬餘圓ニシテ、其差額三千餘萬圓ニ當ル。而シテ其二十
年間ニ於ケル總計算ニ於テハ現方法ニ依ル費用三億八千二百九十萬餘圓
ニシテ、新港ニ依ル費用ハ四千二百五十五萬餘圓ナリ。其差額三億四千三十
萬餘圓ハ公衆ノ利益ニ歸スベキモノナリ。此數ハ唯築港ノ利益中ノ一タル
ベキ現運送費ノ低減ヲ示シタルノミニシテ、公衆ガ築港ニ依リテ受クル利
益ハ尙此外ニ存スルコト、前節ニ於テ陳ベタル所ノ如シ。之ニ依リテモ尙ホ
帝都時代ノ港灣

何等カノ方法ニ依リ東京ニ築港スルコトノ必要ナルヲ見ルベキナリ。若シ漫然築港事業ヲ觀過スルアラバ、單ニ運送費ニ於テ此ノ如キ巨大ナル利益ヲ逸スルノミナラズ、此ノ如ク巨額ナル貨物ハ到底五大力船達摩船等ノ力ノ堪ユル所ニアラザルヲ以テ、東京商業ノ發達ハ結局五大力船達摩船ノ能力ノ限度ニ於テ制限セラル、コト、ナルベキハ數ニ於テ最モ明ナル所ナリ。

東京築港現計畫ハ右ニ陳ベタル所ニ比シ、其規模甚ダ小ニシテ、固ヨリ以テ東京商業ノ發展ニ應ズル策ノ全キモノト云フヲ得ズ。即チ其有效岸壁ノ延長ハ四千間ニシテ、横濱港ト同ジク其間口荷役能力ヲ一年千噸トスレバ、現計畫ニ於ケル東京海岸壁荷役能力ハ一年四百萬噸ナリ。此外別ニ現工費ノ影響セザル範圍ニ於テ舢荷役設備ヲナスモノトスルモ、其數量百八十萬噸ヲ超ユルコトヲ得ザルベシト云フ。之ヲ總工費三千五百七十萬圓ノ現計畫ニ對スル荷役能力ノ全部ナリトス。即チ其總噸數ハ一年五百八十萬噸ニシテ、東京築港現計畫ノ全荷役能力ハ之ヲ以テ極度トス。一年五百八十萬噸ナル貨物數量ハ、正ニ前掲貨物表ニ依ル、明治五十三年即チ明年起工ニ係ルベ

キ現計畫ニ依ル築港完成ノ翌年ナル開港ノ初年ニ於ケル東京貨物出入總額ナリ。又以テ其規模ノ所要ニ對シテ小ナルヲ見ルベシ。然レドモ東京築港ナルモノハ、現計畫ニ表示セラレタル所ヲ以テ極度トスベキ理由ナキノミナラズ、技術上優ニ他日發展ノ餘地ヲ存スルガ故ニ、先ヅ以テ東京築港第一期工事トシテ總工費三千五百七十萬圓ノ計畫ヲ施工スルヲ以テ順序ナリトス。蓋シ漫リニ遠キ將來ヲ慮リテ巨大ナル工事ヲ起ストキハ、直チニ報酬ナキ資本ヲ固定セシムルノ不經濟ヲ來スモノニシテ、其不利益ナルハ固ヨリ論ヲ要セザル所ナレバナリ。

開港當年ニ於ケル東京港出入貨物ハ、約五、七九九、〇〇〇噸ナリ。今計算ノ便利ノ爲メニ之ヲ五百八十萬噸トスレバ、正ニ東京港ノ岸壁荷役能力ト舢取荷役能力トノ合計ニ一致スルモノナリ。其ノ内三、〇〇七、九四〇噸ハ外國貨物ニシテ、二、七九二、〇二〇噸ハ內國貨物ナリ。而テ東京港ニ於ケル岸壁荷役能力ハ四百萬噸ナルガ故ニ、遠來ノ外國貨物全部ヲシテ全部岸壁ヲ使用セシムルモ尙ホ九九二、〇六〇噸ノ餘力ヲ存スルガ故ニ、此餘力ハ內國貨物ノ爲メニ使用スルコト、セバ、殘額一、八〇〇、〇〇〇噸ハ內國貨物本港舢取ニ

シテ、之ニ前掲新舊運送費ノ單價ヲ乘ジテ計算スルトキハ、新舊運送費差額ヲ得ベシ。即チ此狀態ヲ標準トシテ變化ナキモノトシテ計算スレバ、左ノ如シ。

公衆利益

目次	各一年額	二十年間累計
外國貨物 舊運送費	六五四三六九円	二〇八四五三八〇
内國貨物 舊運送費	三、二四三、三五円	三、四八六、三〇〇
計	九、六八六、〇四四円	一、九三三、二六〇
外國貨物 新運送費	六、七六三、三三円	二、七五三、六六〇
内國貨物 新運送費	一、二九二、七七八円	二、三八五、五六〇
計	八、〇五六、一〇一円	三、六〇九、二二〇
新舊運送 費差額	七、八三三、二三三円	一、五七三、〇四〇

管理財政利益

目次	各一年額	二十年間累計
外國貨物噸稅	二八五、七五四円	五、七五〇、八〇〇
内國貨物噸稅	一九五、四四四円	三、九八八、八〇〇
繫船料	一、五三三、〇〇〇円	四、〇六〇、〇〇〇
計	二、〇四四、一九六円	四、〇八三、六〇〇
管理維持費	六、四〇〇、〇〇〇円	一、二八〇、〇〇〇
差額	一、三七一、一九八円	二、七四三、六〇〇

前ニ掲ゲタル推理上ノ貨物増加及利益累進ノ趨勢ト、此ニ掲グル現計畫ニ依ル東京港ニ於ケル狀態トヲ比較スルニ、實ニ大差アルヲ見ル。又以テ現計

畫ノ甚小ナルヲ知ルニ足ル。此計算ハ岸壁ノ使用方法ト解取方法ヲ五十三
年ニ於ケル現狀ヲ標準トシテ其以後ニ於テ港ノ使用方法ニ變化ナキモノ
トセルモノナリト雖ドモ、更ニ又港ノ利用方法ヲ一變シ、一ハ港ヲ更ニ有利
ナル方法ニ利用シ、一ハ遠來ノ貨物ヲ歡迎スルノ趣旨ニ依リ、先ヅ東京港ノ
荷役能力五百八十萬噸中其四百萬噸ノ岸壁荷役能力ト百八十萬噸ノ解取
荷役能力トヲ併セテ外國貨物ニ優先權ヲ與フルモノトシテ計算スルトキ
ハ、次ニ表示スル如キ結果ヲ生ズベシ。之ヲ此ニ掲グル所ニ比スルニ更ニ有
利ナルヲ見ルベシ。即チ其表示スル所ハ、第一、東京貨物ハ五百八十萬噸ヲ岸
壁取ノモノト解取ノモノトニ區別シ、第二、之ニ各單價ヲ乘ジテ各費額ヲ示
シ、第三、其貨物ニ現運送方法ニ依ル單價ヲ乘ジタル額ヲ算出シ、第四、此兩費
額ヲ比較シテ東京港新舊運送費ノ差ヲ表示シ、之ヲ以テ公衆ノ享クル利益
ヲ算出スルモノトス。次ニ港ノ管理財政即チ市金庫ノ利益ハ、安全ナル一定
ノ率ニ依リ、港稅噸稅、繫船料等(公債償還ノ上ハ貸地料ヲ此計算中ニ加フ)ヲ
收入トシ、港ノ管理維持費及公債費補給ヲ支出トセル差ヲ示シ、終リニ公債
償還方法ヲ示スコト、セリ。此方法ニ依リテ以テ前記方式ニ對スル積算ヲ

了スモ、公債償還方法ハ、別ニ次章ニ於テ其第二節ヲ以テ特ニ元利償還ヲ研究スルコト、ナセルガ故ニ、之ヲ本節ニ掲ゲザルコト、セリ。而テ該節ニ於テ公債利子中毎年二十五萬圓ヲ市稅負擔トセシハ、市參事會ニ於テ既ニ之ヲ負擔スルコトヲ決議セシヲ以テ、之ヲ港經濟以外ヨリ仰グコト、ナセリ。此點ハ或ハ前掲方式ト計算ノ異ナルヤノ觀ナキニアラズト雖ドモ、管理財政中港經濟ニ於テ之ヲ負擔シ得ベキハ明ナルニヨリ、前掲方式ニ對シテ缺如スル所ナキモノトス。

東京港貨物表

年度	年次	外國貨物 噸數	本港揚噸數	淨取噸數	内外貨物 噸數	本港揚噸數	淨取噸數
五三	一	三,〇〇七,九四〇	三,〇〇七,九四〇		二,七九二,〇六〇	九,九二〇,〇〇〇	一,八〇〇,〇〇〇
五四	二	三,二四八,五七五	三,二四八,五七五		二,五五一,四二五	七,五二四,二五	一,八〇〇,〇〇〇
五五	三	三,五〇八,四六二	三,五〇八,四六二		二,二九一,五三六	四,九一五,三六	一,八〇〇,〇〇〇
五六	四	三,七八九,一三八	三,七八九,一三八		二,〇一〇,八六二	二,〇一〇,八六二	一,八〇〇,〇〇〇
五七	五	四,〇九二,二六九	四,〇九二,二六九	九二,二六九	一,七〇七,三三三	一,七〇七,三三三	一,七〇七,三三三
五八	六	四,四一九,六五一	四,〇〇〇,〇〇〇	四一九,六五一	一,三八〇,三四九	一,三八〇,三四九	一,三八〇,三四九

東京港貨物運送費表

年度	年次	外國貨物 運送費	本港揚費	淨取費	内外貨物 運送費	本港揚費	淨取費
五三	一	六三七,六八三	六三七,六八三		一,一九二,七七八	一七,七五七,八	一〇,一五二,〇〇〇
五四	二	六八八,六九七	六八八,六九七		一,一四九,七〇五	一三,四九〇,五	一〇,一五二,〇〇〇
五五	三	七四三,七九四	七四三,七九四		一,一〇三,一八五	八,七九八,五	一〇,一五二,〇〇〇
五六	四	八〇三,二九七	八〇三,二九七		一,〇五二,九四四	三,七七四,四	一〇,一五二,〇〇〇
五七	五	九〇六,二二九	九〇六,二二九	五八,一二九	九六三,一六〇	一〇,一五二,〇〇〇	九六三,一六〇
五八	六	一,一二二,三六八	八四八,〇〇〇	二六四,三六八	七七八,五二六	七七八,五二六	七七八,五二六
五九	七	一,三三五,一一六	八四八,〇〇〇	四八七,一一六	五七九,一一五	五七九,一一五	五七九,一一五
六〇	八	一,五七七,三〇一	八四八,〇〇〇	七二九,三〇一	三六二,三〇一	三六二,三〇一	三六二,三〇一
六一	九	一,八三七,二四五	八四八,〇〇〇	一九九,二四五	二二九,五八九	二二九,五八九	二二九,五八九

東京港貨物現運送費表

年度	年次	外國貨物噸數	現運送費	內國貨物噸數	現運送費
五三	一	三〇〇七、九四〇	六、五四二、二六九	二、七九二、〇六〇	三、一三四、三一五
五四	二	三、二四八、五七五	七、〇六五、六五〇	二、五五一、四二五	二、八五五、〇四四
五五	三	三、五〇八、四六二	七、六三〇、九〇四	二、二九一、五三八	二、五六四、二七一
五六	四	三、七八九、一三六	八、二四一、三七五	二、〇一〇、八六二	二、二五〇、一五四
五七	五	四、〇九二、二六九	八、九〇〇、六八五	一、七〇七、三三三	一、九一〇、四八三
五八	六	四、四一九、六五一	九、六一二、七四〇	一、三八〇、三四九	一、五四四、六一〇
五九	七	四、七三三、二〇〇	一〇、三八一、七一〇	一、〇二六、八〇〇	一、二四八、九八九
六〇	八	五、一五七、六二二	一一、二二七、八二五	六、四二二、三七九	七、一八八、三三
六一	九	五、五七〇、二三一	一二、一一五、二五二	二、三九七、六九	二、五七、一一一
六二	一〇	五、八〇〇、〇〇〇	一二、六一五、〇〇〇	二、六二一、五〇〇	
六三	一一	五、八〇〇、〇〇〇	一二、六一五、〇〇〇	二、六二一、五〇〇	
六三—七二	計	一〇一、三六七、〇八七	三、〇四七、三三一〇	四、六三二、四九五	一、六三三、七九九

東京港新舊運送費比較表

年度	年次	外貨物舊運送費	外貨物新運送費	差額	內貨物舊運送費	內貨物新運送費	差額	差額合計
五三	二	六、五四二、二六九	三、七六六、三三	二、七九二、〇六〇	三、二四三、三五	一、二九二、七六	一、九三三、五七	七、八二五、三三
五四	三	七、〇六五、六五〇	六、八八六、九七	一、一七八、六七三	二、八五〇、四四	一、一四七、〇五	一、七〇三、三九	八、〇〇二、九三
五五	四	七、六三〇、九〇四	七、四三三、七四	一、一九七、一六〇	二、五五二、七二	一、〇三三、八五	一、五一九、八七	八、三三〇、九三
五六	五	八、二四一、三七五	八、〇三三、九七	一九七、四〇八	二、三三〇、二五	一、〇三三、九四	一、二九六、三〇	八、六五二、八八
五七	六	八、九〇〇、六八五	九、〇六二、二九	一、一六一、六〇四	二、九四〇、四二	九、〇三三、三三	九、〇三三、三三	八、九四一、八七
五八	七	九、六一二、七四〇	一〇、二二二、三六	一、一〇九、六二六	一、五四四、六〇	七、七八五、五七	七、七八五、五七	九、二六六、四四
五九	八	一〇、三八一、七一〇	一〇、三三三、一六	一、四五二、五五	一、四八八、九八	五、七九二、一五	五、七九二、一五	九、六六六、四六
六〇	九	一一、二二七、八二五	一一、三三三、一六	一、一〇五、三四	七、七八八、三三	五、六八七、四	五、六八七、四	九、九七〇、四五
六一	一〇	一二、一一五、二五二	一二、三三三、一六	一二一、九一四	二、五七二、一一	二、九五六、九	二、九五六、九	一〇、四〇五、五九
六二	一一	一二、六一五、〇〇〇	一二、三三三、一六	一二一、九一四	二、五七二、一一	二、九五六、九	二、九五六、九	一〇、四〇五、五九
六三	一二	一二、六一五、〇〇〇	一二、三三三、一六	一二一、九一四	二、五七二、一一	二、九五六、九	二、九五六、九	一〇、四〇五、五九
六三—七二	計	三、〇四七、三三一〇	三、〇四七、三三一〇	〇	四、六三二、四九五	四、六三二、四九五	〇	一、六三三、七九九

東京港收支計算表

年度	年次	外貨物舊運送費	外貨物新運送費	差額	內貨物舊運送費	內貨物新運送費	差額	差額合計
五三	二	六、五四二、二六九	三、七六六、三三	二、七九二、〇六〇	三、二四三、三五	一、二九二、七六	一、九三三、五七	七、八二五、三三
五四	三	七、〇六五、六五〇	六、八八六、九七	一、一七八、六七三	二、八五〇、四四	一、一四七、〇五	一、七〇三、三九	八、〇〇二、九三
五五	四	七、六三〇、九〇四	七、四三三、七四	一、一九七、一六〇	二、五五二、七二	一、〇三三、八五	一、五一九、八七	八、三三〇、九三
五六	五	八、二四一、三七五	八、〇三三、九七	一九七、四〇八	二、三三〇、二五	一、〇三三、九四	一、二九六、三〇	八、六五二、八八
五七	六	八、九〇〇、六八五	九、〇六二、二九	一、一六一、六〇四	二、九四〇、四二	九、〇三三、三三	九、〇三三、三三	八、九四一、八七
五八	七	九、六一二、七四〇	一〇、二二二、三六	一、一〇九、六二六	一、五四四、六〇	七、七八五、五七	七、七八五、五七	九、二六六、四四
五九	八	一〇、三八一、七一〇	一〇、三三三、一六	一、四五二、五五	一、四八八、九八	五、七九二、一五	五、七九二、一五	九、六六六、四六
六〇	九	一一、二二七、八二五	一一、三三三、一六	一、一〇五、三四	七、七八八、三三	五、六八七、四	五、六八七、四	九、九七〇、四五
六一	一〇	一二、一一五、二五二	一二、三三三、一六	一二一、九一四	二、五七二、一一	二、九五六、九	二、九五六、九	一〇、四〇五、五九
六二	一一	一二、六一五、〇〇〇	一二、三三三、一六	一二一、九一四	二、五七二、一一	二、九五六、九	二、九五六、九	一〇、四〇五、五九
六三	一二	一二、六一五、〇〇〇	一二、三三三、一六	一二一、九一四	二、五七二、一一	二、九五六、九	二、九五六、九	一〇、四〇五、五九
六三—七二	計	三、〇四七、三三一〇	三、〇四七、三三一〇	〇	四、六三二、四九五	四、六三二、四九五	〇	一、六三三、七九九

年度	年次	外國貨物 港稅噸稅	內國貨物 港稅噸稅	繫船料	貨地料	計	維持費	收支差額
五三	一	二八五,七五四	一九五,四四四	一五三,〇〇〇		二,〇一四,一九八	六四〇,〇〇〇	一,三七四,一九八
五四	二	三〇八,六一四	一七八,五九九	一五三,〇〇〇		二,〇二〇,二二三	六四〇,〇〇〇	一,三八〇,二二三
五五	三	三三三,三〇三	一六〇,四一〇	一五三,〇〇〇		二,〇二六,七二三	六四〇,〇〇〇	一,三八六,七二三
五六	四	三五九,九六八	一四〇,七六〇	一五三,〇〇〇		二,〇三三,七二六	六四〇,〇〇〇	一,三九三,七二六
五七	五	三八八,七六五	一一九,五一一	一五三,〇〇〇		二,〇四一,二七六	六四〇,〇〇〇	一,四〇一,二七六
五八	六	四一九,八六六	九六,六二四	一五三,〇〇〇		二,〇四九,四九〇	六四〇,〇〇〇	一,四〇九,四九〇
五九	七	四五三,四五四	七二,八二六	一五三,〇〇〇		二,〇五八,三三〇	六四〇,〇〇〇	一,四一八,三三〇
六〇	八	四八二,九七三	四四,九六六	一五三,〇〇〇		二,〇六〇,九三九	六四〇,〇〇〇	一,四二〇,九三九
六一	九	五二九,一七一	一六,〇八三	一五三,〇〇〇		二,〇七八,二五四	六四〇,〇〇〇	一,四三八,二五四
六二	一〇	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六三	一一	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六四	一二	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六五	一三	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六六	一四	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六七	一五	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六八	一六	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
六九	一七	五五一,〇〇〇		一五三,〇〇〇		二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇

純益表

年度	年次	公衆利益	財政利益	計	一年六分利	合計
七〇	一八	五五一,〇〇〇	一,五三三,〇〇〇	二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
七一	一九	五五一,〇〇〇	一,五三三,〇〇〇	二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
七二	二〇	五五一,〇〇〇	一,五三三,〇〇〇	二,〇八四,〇〇〇	六四〇,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇
計		九六二,八六八	一,〇二四,七三三	五,〇〇〇,〇〇〇	一,二八〇,〇〇〇	二,九〇〇,七二一

純益表

年度	年次	公衆利益	財政利益	計	一年六分利	合計
五三	一	七,八三六,一三三	一,三七四,一九六	九,二一〇,三二九	五五二,六一九	九,七六二,九四〇
五四	二	八,〇八二,九九二	一,三六〇,二二三	九,四四二,五〇五	五六七,七五〇	一〇,〇一〇,二五五
五五	三	八,三四八,一九六	一,三六六,七二三	九,七三三,九〇九	五八四,〇九四	一〇,三一九,〇〇三
五六	四	八,六三五,二八八	一,三九三,七二八	一〇,〇二九,〇一六	六〇一,七四〇	一〇,六三〇,七五六
五七	五	八,九四一,八七九	一,四〇一,二七六	一〇,三四三,一五五	六二〇,五八九	一〇,九六三,七四四
五八	六	九,二六六,四四六	一,四〇九,四九〇	一〇,六七五,九三六	六四〇,五五六	一一,三一六,四九二
五九	七	九,六一六,四六八	一,四一八,三三〇	一〇,〇三四,七九八	六六二,〇八七	一一,〇六六,八八五
六〇	八	九,九九七,〇四五	一,四二〇,九三九	一一,〇一七,九八四	六八五,〇七九	一一,一〇三,〇六三
六一	九	一〇,四〇五,五二九	一,四三八,二五四	一一,八四三,七八三	七一〇,六二六	一二,五五四,四〇九
六二	一〇	一〇,六三三,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇	一二,〇七七,〇〇〇	七二四,六二〇	一二,八〇一,六二〇
六三	一一	一〇,六三三,〇〇〇	一,四四四,〇〇〇	一二,〇七七,〇〇〇	七二七,六二〇	一二,五〇四,六二〇
計		一九八,〇九二,三六六	二,九〇〇,七二一	二,三七〇,九九四	一,三六二,五九六	二,四〇七,五九〇

本計算ニ於テハ、開港初年ニ於テ直チニ一ケ年五百八十萬噸ノ貨物ヲ其四百萬噸ヲ岸壁ニ、其百八十萬噸ヲ舢舨取ニ於テ荷役スルモノトセルハ、或ハ事實ノ想像ヲ無視シテ單ニ計算ニノミ拘泥セシヤノ觀ナキニアラズト雖ドモ、元來東京港ノ築設ハ、之ヲ從來貨物出入ノ實驗ナキ場所ニ築港スルモノト其類ヲ異ニスルモノニシテ、現ニ年々幾百萬噸ノ貨物が海運ニ依リテ東京ニ集散スルノ習慣アリ、且横濱港ガ東京ニ先ツコト七年前ニ竣工シ、之ニ依リテ新海港操縦ノ状態ハ公衆ノ知悉スル所ナルノミナラズ、事實ニ於テハ外部ヨリスル貨物ノ壓力ガ、開港ヲ待タズシテ東京港工事ノ部分成功ヲ利用シテ工事年期中既ニ貨物ノ出入アルベキヲ想像スルニ足ル。又該工事は從フ技術家モ亦蓋シ技術ノ許ス限リハ此ノ經濟方法ヲ取ルコトヲ忘レザルベシ。此理由ニ依リ本調査ニ於テハ開港初年ヨリ幾年間ノ貨物減ヲ見積ラザリシナリ。

又本調査ニ於テ、岸壁取リ四百萬噸舢舨取百八十萬噸トナセシニ付、岸壁取リノ四百萬噸ナル理由ハ既ニ陳ベタル所ナリト雖ドモ、舢舨取ノ百八十萬噸ナルベキ理由ハ實ニ下ノ如シ。曰ク、第一、現計畫ノ運河ニ沿フテ一條舟路ヲ設ケルコト、第二、大森地先ニ堀鑿工事ヲ行フテ以テ一ノ船溜ヲ設ケルコトニ依リ、現計畫ノ前港及内港ニ於ケル舢舨取能力ヲ補フテ以テ百八十萬噸ヲ荷役スルヲ得ベキナリ。而テ其工費ハ其堀鑿ニ依リ得ベキ土地ノ價格ニ依リ之ヲ償フテ餘アルヲ以テ、總工費三千五百七十萬圓ヲ増減セザル範圍ニ於テ之ヲ作成シ得ベシト。

此計算表ノ示ス所ニ依レバ、東京港現計畫ニ依ル工事ノ結果、即チ三千五百七十萬圓ノ工費ヲ根據トセル諸般ノ經營ニ依リ得ル所ノ利益ハ、廿年間ニ公衆ニ於テ五百八十萬噸ノ貨物ニ付其運送費ノ差一億九千八百九萬餘圓、港ノ財政即チ市金庫ハ、總テ支出ヲ控除シテ二千九百餘萬圓ヲ利益スルコトナルベシ。此市金庫ノ利益ハ、之ヲ以テ公債費ニ充用スルヲ得ベク、又殘餘アラバ他日ノ改良其他積立金ニ充ツルヲ要ス。蓋シ港ハ一日モ改良工事ヲ止ムル能ハズ、又風浪疫疾等ノ爲メ臨時ニ多額ノ費用ヲ要スルコトアルベキヲ常トスレバナリ。此利益合計ノ各年額ニ年六分ノ利ヲ附シテ計算スルトキハ、二十年間ニ於テ純益總計二億四千七十二萬餘圓ヲ得ベシ。此利益ハ甚ダ小ニシテ、單ニ東京築港ナル問題ニ對スル九牛ノ一毛ニモ當ラザル

ベシト雖ドモ、先ヅ事業ノ順序トシテ之ヲ施工スルノ急務ナルハ疑ナキ所ナリ。若シ之ヲモ閑却スルアラバ獨リ巴奈馬運河及蘇西新運河等ノ利益ノ享受ヲ拒絶スルノミナラズ、併セテ東洋貿易競争場裡ノ利益ヲモ拋棄スルモノニシテ、即チ東京市自體ノ商業發展ノ利益ヲモ否ムモノナリ。本調査ノ當然ノ結果トシテ生ズベキ問題ハ必ズ下ノ如クナルベシ。曰ク、現築港計畫ニ依ル工事ニ於テハ僅カニ一年五百八十萬噸ノ荷役ヲ限度トセラルニ係ハラズ、貨物ハ既ニ開港ノ初年ニ於テ港灣ニ充滿シ、其翌年ヨリ直ニ増加貨物ノ取扱ニ不便ヲ見ルニ至ルベシ。故ニ現計畫ハ此ノ點ニ於テ誤レルモノナリト。然レドモ計算數ハ一定ノ標準ノ下ニ増減シテ厘毛ノ進退彈力ナキヲ常トスト雖ドモ、事實ハ此ノ如ク彈力ナキモノニアラズ。若シ間口一年二千噸ノ荷役能力ナル標準ノ下ニ計算スルトキハ、四千間ノ有效岸壁ハ一年四百萬噸ノ荷役ノ外一噸ヲモ許サザルハ計算ノ示ス所ナリト雖ドモ、事實ニ於テハ港ノ操縦ト器械力ノ應用ニ依リ、其ノ計算能力以外ノモノヲ荷役スル能ハザルナキニアラズ。當初ニ於テハ東京港計畫有效岸壁荷役能力一年間口五百噸ヲ以テ計算セラレ、横濱港ノ之ヲ以テ千噸トナセル、

神戸港ノ之ヲ以テ二千噸トナセルヲ見テ、以テ其彈力ニ富ムヲ見ルベシ。要ハ岸壁其物ノ能力ニ彈力アルニアラズシテ、操縦ト器械トニ於テ彈力アルモノナリ。例之穀物ノ陸揚ニ當リ、之ヲ俵詰トナシテ起重機ヲ用ユル場合ト、之ヲ「バラ」積トシテ空氣力ヲ用ヒテ之ヲ倉庫ニ送ル場合トニ於テ、其能力ノ差甚ダ大ナルモノアルガ如シ。故ニ單ニ數ニノミ拘泥シテ不必要ナル大規模ノ計畫ヲ爲スヨリモ、却テ其全計畫ニ於テ他日發展ノ餘地ヲ存シ乍ラ、必要ニ應ジテ擴張スルノ計畫ニ從フノ經濟的ナルニ如カザルナリ。横濱築港計畫ハ此適例トシテ見ルベキモノナリ。東京築港ノ現計畫ニ依レバ、其有效岸壁ノ延長四千間ナリ、然ルニ此四千間ノ有效岸壁ハ過少ニ失スルノ嫌ヒアルモノ、如シ。蓋シ明治五十三年ニ於ケル東京貨物ハ約五百八十萬噸ナリ、其完成期ニ於テ既ニ岸壁ヲ利用スルコト能ハザルモノ實ニ百八十萬噸ナリトス。今岸壁ノ延長ニ於テ更ニ二千間ヲ増加スト假定スルモ、之ニ要スル工費ハ現計畫ニ依ルトキハ三十尺ノ岸壁ニ於テ其單價毎間二千三百圓ナリ。而シテ總額四百六十萬圓ニシテ其年六朱ノ利子ハ二十七萬六千圓ナリ。然ルニ東京港ニ於ケル岸壁使用ト解除トノ費用ノ差ハ每噸四十一錢八

厘ナルガ故ニ、百八十萬噸ニ對シテハ岸壁使用ニ依ル利益ハ毎年七十三萬四千四百圓ニシテ、工費ノ利子トノ差ハ四十五萬八千四百圓ナリ。之レ寧ロ現計畫ニ於テ岸壁ノ延長ヲ増加スルニ於テ利益アルモノニアラザルカ此ノ如クスルトキハ、之ガ爲メニ築港工費ヲ増加スルノ虞アリト雖ドモ、築港費ノ經濟的ナルト否トハ工費ノ大小ニアラズシテ工費ニ對スル報酬ノ多寡ニアルガ故ニ、此ノ如キ工費ノ増加ハ寧ロ之ヲ歡迎セザルヲ得ザルベシ。然レドモ築港ナル語ハ、直チニ岸壁ノ使用ヲ意味スルモノト解スベキニアラザルナリ。即チ岸壁ノ使用ニ依リテ受クル利益ガ岸壁築造工費ノ利子ヲ超過セザル場合ニ於テハ、其ノ岸壁ノ築設ハ畢竟損失タルヲ免レズ。例之東京港ニ於ケル岸壁ノ延長ハ、現計畫ニアリテハ四千間ナリ。而テ其間口荷役能力ヲ一ケ年千噸トシテ全岸壁ノ荷役能力ハ四百萬噸ナルニ當リ、輸出入貨物が毎年三十萬噸ヲ増加セルニ對シ、解取ニ依ルトキハ一噸六十三錢、岸壁ニ依ルトキハ一噸二十一錢二厘ヲ要ストセヨ、此差ハ四十一錢八厘ニシテ、一ケ年十二萬五千四百圓ナリ。又之ニ要スル岸壁ノ延長ハ三百間ナリ、然ルニ單ニ三百間ノ岸壁ヲ築設スルニ要スル工費ヲ二百萬圓トセバ、其一ケ

年七朱ノ利子ハ拾四萬圓ニ當リ、結局毎年拾貳萬五千四百圓ノ荷役費ヲ利益セント欲シテ却テ毎年拾四萬圓ノ工費ノ利子ヲ負擔スルコト、ナルベシ。其損失タル論ナキノミ。故ニ此ノ如キ場合ニ於テハ、唯岸壁ノ使用ヲ以テ港ノ利益ナリト云フヲ得ザルナリ。寧ロ解取リニ依ルノ經濟的ナルニ如カザルベシ。故ニ東京港ノ貨物増加ニ伴フ工事ノ擴張ノ必要ハ、或時機ニ於テスベキモノニシテ其時機ノ到達スル迄ハ寧ロ解取荷役ヲ以テ經濟的ナリト覺悟セザルベカラズ。

然レドモ年々累進増加シテ止マザル東京貨物ニシテ、東京港ニ入ル能ハザル者即チ本港解取ヲモ爲ス能ハザルモノ實ニ多キハ、年々東京貨物數ト五百八十萬噸ノ差ノ示ス所ナリ。其數實ニ多シ、此貨物ハ之ヲ如何ニスベキヤヲ思ハバ、前途甚ダ憂慮スベキモノアリ。蓋シ東京貨物ニシテ東京港現計畫ニ於テハ取扱フ能ハザルモノハ、現在ノ如ク之ヲ横濱ヨリ解取スルモノトシテ計算スルヲ得ズ。未ダ横濱港ニ於ケル水面ノ解取荷役能力ヲ知得セズト雖モ、蓋シ其極度ニ達スルハ必ズ近キ將來ニアルベシ。何トナレバ東京内外貨物ノ五百八十萬噸ヲ超過スル部分ト横濱内外貨物ノ九十五萬噸ヲ超

過スル部分ハ皆該水面ニ依頼セザルヲ得ザレバナリ。此ノ如クシテ横濱ニ於ケル舛取荷役能力ノ極度ニ達シタル後ハ、京濱兩地共ニ其集散スベキ貨物ヲ如何トモスル能ハザルニ至ルベシ。此ノ如キ趨勢ナルヲ以テ、東京港ハ現計畫ニ引續キ第二計畫ヲ立ツルニアラザレバ、到底將來ノ貿易發展ニ應ズル能ハザルモノト斷定スルヲ得ベシ。此ノ如キ狀況ハ獨リ東京港ノミナラス各國ノ港灣皆然リトナス。故ニ歐米ノ各港ヲ見ルニ皆常ニ擴張工事ニ忙殺セラレテ、新工事ニ新工事ヲ重ネ、改良工事ニ改良工事ヲ加ヘ、遂ニ都市ガ港ナルカ港ガ都市ナルカヲ疑ハシムルモノニ至ル。東京港モ亦遂ニ此運命ヲ免カレザルコトハ貨物累進ノ統計ニ徴シテ最モ明ナル所ナリ。此ノ如ク攷々トシテ怠ラザルニ於テ始メテ漸ク理想上ノ利益ニ接近スルニ至ルベキナリ。然レドモ勢ノ此ノ如クナルハ、實ニ東京市ノ慶事ナリト云フベシ。

第四章 東京築港ノ經營

東京市ニ於テ築港ノ起業ヲ決定シタル後ニ於テ、尙ホ之ニ伴フベキ諸般ノ經營上ノ困難ハ甚ダ多カルベシト雖モ、本章ニ於テハ唯其主ナルモノヲ掲ゲテ以テ其斷行ニ便ス。即チ第一、國庫補助、第二、築港費元利償還、第三、陸上設

備、第四、築港事業ニ對スル異議之ナリ。以下節ヲ逐フテ研究セントス。

第一節 築港費ニ對スル國庫補助

港ノ築造ニ對スル國庫補助ハ固ヨリ法令ノ規程ヲ以テ之ヲ明記セルモノナシ、從テ東京市ガ築港ヲ爲スニ於テ行政法上ノ權利トシテ補助ヲ國庫ニ請求スベキニアラズト雖モ、我國ノ慣例法トシテ國庫ハ常ニ重要ナル築港工事ニ對シテハ一モ補助ヲ與ヘテ之ヲ獎勵セザルコトナキニ依リ之ヲ見ルトキハ、東京築港ノ如キハ固ヨリ其補助ヲ受クベキ資格アルハ別ニ論ヲ要セザル所ナリ。横濱、大阪、長崎、函館、神戸、敦賀等ノ如キ、皆其築港ハ單純ニ國費ノ支辨ヲ以テセルカ、又ハ國庫ノ補助ヲ與ヘタルモノニアラザルハナシ。甚シキニ至リテハ私人ノ經營ニ屬セル若松築港ニ對シテスラ國庫ハ之ニ補助ヲ與ヘタリ。我國庫ハ常ニ豊富ナルノ歲ナシト雖モ、築港ニ對シテハ常ニ此ノ如クナルヲ以テ慣例トス。又大阪築港ノ如キハ日清戰役ノ翌年ニ於テスラ補助セラレタリ。東京築港ノ如キハ大ニ此處ニ築クニアラザレバ將ニ大ナル損失ヲ犠牲ニ供スルモ尙ホ將來ノ貿易發展ニ應ズル能ハザラントス。故ニ國庫補助ヲナスニ當リ、若シ戰役ノ有無ヲ例トセバ大阪港アリ。若

シ輕重ノ範圍ヲ論ズレバ若松港アリ、且帝國ガ日露戰役ニ於テ幾十億ノ資本ト幾十萬ノ英魂トヲ犠牲ニ供セシ所以ノモノ、實ニ我國力發展ノ妨害ヲ禦グニアリトスレバ、東京築港ノ如キ積極的ニ國力發展ニ資スベキ經營ニ對シテハ、國庫ハ從來ノ慣例法ノ如何ニ係ハラズ之ニ補助ヲ與フルハ當然ナリトス。況ンヤ東京港ノ如キ經營ニ對シ補助ヲ與フルハ國庫ノ損失ナキ義務ニシテ、一市民ニ對スル私恩ニアザルニ於テヤ。況ンヤ國家ハ常ニ公平ナル行政ヲ爲スモノトスレバ、其輕重ノ度ニ於テ東京港ト同日ノ論ニアラザルモノニ對シテスラ國庫ノ補助ヲ與フルノ慣例アルニ於テオヤ。又若シ國庫ハ東京築港ニ補助シ其補助額ニ對シテ厘毫ノ返濟ヲ受クルコトナシト云フモノアラシカ、之レ唯其形式ニ於テ然ルノミ。然レドモ其事實ニ於テハ東京市民ノ利益ヲ增加スベキコトハ前章ノ證明スル所ニシテ、此利益セル經濟界ヨリ生ズル國庫收入ノ事實上ノ増加ト市民負擔能力ノ増加トハ國庫經濟ヲ益スルコト多大ナルモノニシテ、尙ホ東京港ヲ以テ貨物ノ吞吐口トナセル地方經濟界ノ受クル利益ヨリ生ズル國庫收入ノ増加及負擔能力ノ増加ハ共ニ國庫ニ其補助費ヲ辨濟スルモノト算定スルヲ得ベシ。此

ノ如キ起工ニ對シテ補助ヲ與フルハ慣例法上ノ國庫ノ義務ニシテ、國庫ハ其義務ニ對シ充分ナル報酬ヲ受クベキ計算ヲ有スルモノナリ。人或ハ政府ガ横濱ニ於テ築港工事ヲ施行スルガ故ニ之ニ競争スベキ東京築港ニ對シ補助ヲ與フルハ自家撞著ノ行政ナリ。故ニ東京築港ニ對スル國庫補助ヲ得ルハ困難ナルベシトテ之ヲ疑フモノアルガ如シト雖モ、政府ハ決シテ市ト利ヲ争フベキモノニアラズ。又東京築港補助ガ横濱築港ト撞著スト云ハ、何故ニ大阪築港補助ガ神戸築港ト相撞著スト云ハザルヤ。而テ政府ハ現ニ帝國議會ノ協贊ヲ經テ一方ハ大阪築港ニ補助シ乍ラ、他方ニ於テハ神戸築港ニ從事スルニアラズヤ。又東京築港ヲ以テ横濱ニ競争ヲ試ミントスルモノトナスハ之レ誤謬ノ最モ甚シキモノニシテ、横濱港ノ效用ハ横濱貨物ニ於テ既ニ足ル。然ルニ東京市ノ之ニ係ハラズ將ニ奮テ起ツベキ必要アル所以ノモノハ、將來ノ貿易發展ガ現況ヲ默視スルヲ許サバルガ故ノミ。故ニ横濱稅關工事ハ東京築港ニ對スル國庫ノ補助ニ就テ毫モ關係スル所ナキノミナラズ、東京築港ニ對スル國庫補助ハ、政府ノ公平ニシテ適切ナル且損失ナキ行政ト云フベキナリ。

國庫ノ從來築港事業ニ對シテ補助スルニ當リ、法規ヲ以テ一定ノ比率ヲ定メタルモノナシト雖モ、大凡其總工費ノ三分ノ一ヲ與フルヲ以テ慣例トス。故ニ東京築港ニ對シテモ其總工費三千五百七十萬圓ノ三分ノ一即チ一千百九十萬圓ノ補助ヲ支出セラル、モノトスルハ決シテ不當ノ望ミニアラズ。然レドモ本調査ニ於テハ事ノ安全ヲ期スルノ目的ヲ以テ先ヅ此補助ヲ得ザルモノトシテ計算セリ。

第二節 元利償還

築港事業ノ如ク一時ニ多額ノ資本ヲ要スルモノニ於テハ、無論之ヲ市公債ニ依ラザルベカラズ。而テ之ヲ市公債ニ依ルモノトスレバ、其内債ニ依ルト外債ニ依ルトハ其當時ノ經濟界ニ於ケル金融狀態ノ如何ニ依リ決定スベキモノナリ。概シテ外債ニ依ル利益ハ利子ノ低廉ナルト償還期限ノ長期ナルトニアリト雖モ、又其内債ニ依ル利益ハ公債ノ調達方法ノ簡易ナルト外債ニ伴フ諸般ノ危險ナキトニアリ。然レドモ一長一短ハ數ノ免カレザル所ニシテ、必シモ公債ノ内外ニ於テ擇ブ所ナシ。唯今日ノ場合ニ於テハ之ヲ内外ノ情勢ニ鑑ミ、内債ニ依ルベキモノニアラザルカ。

公債ヲ募集スルニ當リ、工費ニ對スル國庫補助ノ有無ハ其利害關係甚ダ重大ナリ。而テ東京築港事業ニ對スル國庫補助ハ、政府ノ公平ニシテ適切ナル且損失ナキ義務ナル事ハ前ニ陳ブル所ノ如シ。然レドモ他方ヨリ之ヲ觀察スルトキハ、國ノ總テノ必要事業モ繰延方針ヲ取リテ僅カニ收支ノ計算ヲ維持スル現國庫歲計ニ於テハ強テ補助ヲ請求スルアラバ或ハ其案ノ通過ニ困難ナルノ嫌ナキ能ハズ。故ニ本節ニ於テハ國庫補助ノ有無雙方ノ場合ヲ計算セリ。

然レドモ東京市ハ國庫補助ヲ請求スルノ意思ハ甚ダ切ナルナリ。或ハ曰ハシ、東京築港事業ハ前章ニ示スガ如ク甚ダ有利ナルモノニシテ、市民ハ僅カニ工事中即チ十ヶ年ノ公債利子年々貳拾五萬圓ニ堪ヘザルモノニアラザルベシ、故ニ國庫ハ之ニ對シテ補助スルノ必要ナシト。然レドモ國庫ノ補助ハ其意義ニ於テ必シモ補助者ノ負擔ニ堪ヘザルノ條件ヲ必要トスルモノニアラズ。固ヨリ其力餘アリテ他人ノ協力ヲ仰グノ必要ナキモノニ對シ、國庫ガ好シテ之ニ補助ヲ交附スルノ必要ナシト雖モ、元來國庫補助ナルモノハ一方ニ於テハ其事業ノ獎勵ヲ意味スルモノナリ。航海獎勵補助、耕地整理

補助等其類例甚多シ。而テ東京市ノ經營スベキ事業頗ル多クシテ市金庫甚ダ豊ナラズ。政府ノ東京築港ニ補助スルハ其事業ノ有利ナレバコソ之ヲ獎勵スルノ理由明白ナルモノニシテ、其事業ガ不利益ナルアラバ政府タルモノハ之ニ補助ヲ與フルノ必要ナキモノト云フベシ。然ラバ果シテ國庫補助ナキトキハ東京市ハ築港事業ヲ斷念スベキカト云ハ、斷ジテ否ト答ヘザルヲ得ズ。蓋シ東京市ハ必要ナル自衛ノ策ヲ怠ルモノニアラザレバナリ。

第一項 内債ニ依リ國庫補助ヲ受クルモノ

公債計算書

額面貳千九百拾萬圓 壹ケ年 壹百萬圓乃至 拾ケ年募集

年次	債額年定	債額累計	年六分利子	工費支出	特別市稅及國庫補助	殘高	年四分利子
一	1,000,000	1,000,000	60,000	1,000,000	1,450,000	1,390,000	0
二	1,000,000	2,000,000	110,000	3,500,000	1,450,000	2,300,000	556,000
三	1,400,000	4,400,000	264,000	3,800,000	1,450,000	610,000	860,000
四	2,750,000	7,150,000	429,000	3,800,000	1,450,000	1,440,000	2,464,000
五	3,150,000	10,300,000	618,000	4,000,000	1,450,000	2,586,000	1,656,000
六	3,350,000	13,650,000	819,000	4,000,000	1,450,000	8,520,000	1,034,560

年次	債額	年六分利子	賣却立地	賣却代用品	貸地料	市稅	計	償還
一	2,910,000	1,736,000	5,000,000	1,000,000	300,000	2,500,000	6,536,000	4,624,000
二	2,420,000	1,457,600	5,000,000		400,000	2,500,000	5,357,600	4,120,000
三	1,010,000	612,240	5,000,000		500,000	2,500,000	2,612,240	4,544,000
四	1,550,000	933,000	5,000,000		500,000	2,500,000	3,933,000	4,816,000
五	1,070,000	642,600	5,000,000		500,000	2,500,000	3,642,600	5,105,000
六	563,900	338,040	5,000,000		500,000	2,500,000	2,838,040	5,411,000
七	370,000	222,000	5,000,000		500,000	2,500,000	2,222,000	3,700,000
八			5,000,000					
計	10,330,000	29,100,000	7,941,000	3,570,000	1,450,000	30,313,560	10,159,000	

殘金參萬壹千參百貳拾九圓貳拾五錢七厘
公債償還表
額面貳千九百拾萬圓 工事完成後七ケ年間ニ償還

年次	債額	年六分利子	賣却立地	賣却代用品	貸地料	市稅	計	償還
一	2,910,000	1,736,000	5,000,000	1,000,000	300,000	2,500,000	6,536,000	4,624,000
二	2,420,000	1,457,600	5,000,000		400,000	2,500,000	5,357,600	4,120,000
三	1,010,000	612,240	5,000,000		500,000	2,500,000	2,612,240	4,544,000
四	1,550,000	933,000	5,000,000		500,000	2,500,000	3,933,000	4,816,000
五	1,070,000	642,600	5,000,000		500,000	2,500,000	3,642,600	5,105,000
六	563,900	338,040	5,000,000		500,000	2,500,000	2,838,040	5,411,000
七	370,000	222,000	5,000,000		500,000	2,500,000	2,222,000	3,700,000
八			5,000,000					
計	10,330,000	29,100,000	7,941,000	3,570,000	1,450,000	30,313,560	10,159,000	

第七年ノ終リニ於テ殘金五百五拾萬九千八百七拾六圓九拾五錢壹厘。外八年目ニ於テ埋立地賣却代金壹千五百八拾壹萬七千參百六拾圓ヲ得。

第二項 内債ニ依リ國庫補助ヲ受ケザルモノ

公債計算書

額面四千六百貳拾萬圓 壹ヶ年 壹百萬圓乃至 拾ヶ年募集

年次	債額年割		債額累計	年六分利子	工費支出 年割豫定	特別市稅	殘高	利高 年四分
	豫	定						
一	1,000,000	0	1,000,000	60,000	1,000,000	250,000	190,000	0
二	3,400,000	0	4,400,000	264,000	3,500,000	250,000	760,000	760,000
三	4,000,000	0	8,400,000	504,000	3,800,000	250,000	2,960,000	3,040,000
四	4,500,000	0	12,900,000	762,000	3,800,000	250,000	2,064,000	1,184,000
五	4,800,000	0	17,700,000	1,050,000	4,000,000	250,000	1,664,960	825,600
六	5,100,000	0	22,800,000	1,356,000	4,000,000	250,000	1,153,560	665,984
七	5,650,000	0	28,450,000	1,695,000	4,100,000	250,000	818,844	900,902
八	6,000,000	0	34,450,000	2,055,000	4,100,000	250,000	308,946	727,541
九	6,400,000	0	40,850,000	2,439,000	4,100,000	250,000	58,866	1,103,577
計	55,500,000	0	462,200,000	12,957,000	35,700,000	2,500,000	58,866	

殘金六萬貳拾圓五拾六錢四厘。

公債償還表

額面四千六百貳拾萬圓

工事完成後拾九ヶ年間ニ償還

年次	債額	年六分利子	收				入計	償還
			埋立地賣却代	不用品賣却代	貸地料	市稅		
一	4,500,000	270,000	5,000,000	1,000,000	300,000	250,000	6,550,000	3,780,000
二	13,400,000	804,000	5,000,000	1,000,000	400,000	250,000	7,600,000	3,104,000
三	15,900,000	954,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	8,250,000	3,332,000
四	17,700,000	1,062,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	8,750,000	3,595,000
五	19,350,000	1,161,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	9,350,000	3,810,000
六	21,300,000	1,278,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	9,750,000	4,036,000
七	23,400,000	1,404,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	10,150,000	4,211,000
八	25,700,000	1,542,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	10,550,000	4,358,000
九	28,200,000	1,692,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	10,950,000	4,480,000
一〇	30,900,000	1,854,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	11,350,000	4,580,000
一一	33,800,000	2,028,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	11,750,000	4,650,000
一二	36,900,000	2,214,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	12,150,000	4,700,000
一三	40,200,000	2,412,000	5,000,000	1,000,000	500,000	250,000	12,550,000	4,730,000

一四	三、九四〇、〇〇〇	二〇、九六〇	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七、七〇〇、〇〇〇	二、六三三、五二七	五〇、〇〇〇
一五	二、九四〇、〇〇〇	一七、二四〇	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	六、四八〇、〇〇〇	五三、〇〇〇
一六	二、三八一、〇〇〇	一四、八六〇	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	四、八〇六	六七、〇〇〇
一七	一、四七五、〇〇〇	一〇、六四〇	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	五、八三三、九八	六四、〇〇〇
一八	一、一三〇、〇〇〇	六、七八〇	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	一、五三三、九三	六四、〇〇〇
一九	四、四八〇、〇〇〇	二、六八〇	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇	三、六七四、二四	四、四八〇、〇〇〇

殘金貳拾七萬五千四百八拾七圓四拾貳錢四厘。

本項ハ東京市ニ取リテハ甚ダ不便利ナル場合ナレドモ、其之ヲ標準トシ前ニ利益計算ヲナセシ所以ノモノハ其結果ノ最モ安全ナルヲ期スレバナリ。若シ國庫ノ補助ヲ受クルトキハ前項ノ示ス如ク其公債額ハ貳千九百拾萬圓ナリ。反之國庫ノ補助ヲ受ケザルトキハ、本項ニ示ス所ノ如ク其公債額ハ四千六百貳拾萬圓ナラザルベカラズ。又以テ補助ノ有無ノ結果ガ東京市金庫ノ財政ニ影響スルコト大ナルヲ見ルベシ。

第三節 陸上設備

東京築港現計畫ハ、皆其水中工事又ハ水陸接觸部分ノ工事ニ屬スルモノニシテ、陸上設備ニ至リテハ全ク之ヲ缺ク。其之ヲ缺ク所以ハ蓋シ之ヲ以テ別

ニ他日ノ研究トナサントスルモノ、如シ。然レドモ港ノ活動ハ此陸上設備ニ待ツモノニシテ、現計畫ニ屬スル工事ノミヲ以テ豫定ノ利益ヲ獲得スルコト能ハザルナリ。從テ陸上設備ノ研究ハ之ヲ築港其物ノ研究ト遠ク相離ル、ヲ許サズ。蓋シ築港落成ノ期日ニ於テハ、陸上設備モ亦其完成ヲ必要トスレバナリ。又築港工事ニシテ部分成功ノ效果ヲ收メント欲セバ、陸上設備モ亦之ニ應ジテ部分成功ヲ必要トスレバナリ。若シ此設備ニシテ築港工事に相待タザラアラバ、既ニ表示セル利益ハ全ク之ヲ得ル能ハザルナリ。即チ言ヲ換テ之ヲ云ハ、三千五百七拾萬圓ノ築港工費ハ其工事ノ完成期ニ於テ能ク獨立シテ年々千百萬圓ノ利益ヲ公衆ニ與フルモノニアラズシテ、之ニ陸上設備ノ資本ヲ加ヘテ始メテ此利益ヲ産スルモノナリ。然レドモ又陸上設備ノ側ヨリ之ヲ云ハ、陸上設備ノ資本ハ能ク獨立シテ其豫定ノ利益ヲ産スベキモノニアラズシテ、築港資本ト相待テ始メテ其豫期スル所ニ違ハザルベキナリ。此ノ如キ關係アルガ故ニ、陸上設備ニ對スル經營方法ハ築港計畫ト同時ニ既定ノモノタルヲ要ス。

築港ノ利益ヲ増加シ且其效果ヲ充分ナラシメント欲セバ、港自體ニ於テ船

船出入繫泊ノ便ヲ計ルノ計畫ヲナスベキハ當然ナリト雖モ、一面ニ於テハ又港ニ於ケル船舶ノ新陳代謝ノ機能ヲ充分ナラシメザルベカラズ。此機能ヲ充分ナラシムルニハ貨物ノ積卸ヲ安全ニ且迅速ナラシムルヲ要ス。此貴重ナル任務ハ實ニ起重機、鐵道上屋倉庫等諸般ノ陸上設備ノ負フ所ニシテ、其活動ニ依テ以テ千間ノ岸壁モ能ク之ヲシテ二千間ノ用ヲ爲サシメ、十個ノ船渠モ能ク之ヲシテ二十個ノ船渠ノ效ヲ收メシムルヲ得ベシ。有效岸壁ノ荷役能力ノ單位ノ増減ハ獨リ岸壁ノ延長ニノミニ依リ算定スベキニアラズト云ヘルハ即チ之ヲ謂フナリ。

今ヤ東京市ガ築港ノ經營ヲ爲スニ當リ、獨力ヲ以テ水中工事ト共ニ陸上設備ノ經營ヲ兼ヌルハ蓋シ至難ノ事ナルベキヲ以テ、必ズシモ之ヲ市營トスルノ必要ナシ。市ガ港ノ行政ニ適切ナル有利條件ノ下ニ之ヲ私人或ハ公私ノ團體ニ特許シテ經營セシムルノ方法ヲ取ルモ亦可ナリ。歐洲ノ商港ニ於テ此類例甚ダ多シ。然レドモ特許ニ依ル方法ハ動モスレバ營利ノ弊ニ流ルハ、コトナキヲ保セズ。若シ此弊ニ流ル、アラバ、市營ノ商港モ遂ニ私設商港ト同一ノ形ヲ成シ、結局商港全部ノ利益ハ一私立會社ノ壟斷ニ歸シ、唯營利

ヲ之レ事トスルノ結果ハ、商港全般ヲシテ衰運ニ傾カシムルノ事例少カラズ。倫敦港馬耳塞港ノ如キ其適例トシテ見ルベキモノナリ。倫敦港ニ於テハ既ニ會社事業ニ屬スル經營ヲ市ニ買收スルノ計畫ヲ爲シ、馬耳塞港ニ於テハ商業會議所ニ其特許ヲ與フルノ方針ヲ定メ、以テ私利壟斷ノ弊ヲ救ハントセリ。東京市ハ今日以後ニ於テ其計畫ニ從フモノナルガ故ニ、詳カニ先例ニ鑑ミ以テ畫策スル所ナカルベカラズ。

商港ニ於ケル業務ハ、由來複雑ニシテ統一ニ困難ナルヲ常トス。然レドモ其不統一ナルハ往々商港衰運ノ因ヲ爲スコトアルヲ以テ、此點ニ於テハ陸上設備モ亦市營ナルノ優レルニ如カズト雖モ、財政狀態ノ之ヲ許サバルモノアルベキニ依リ、佛國ノ例ニ倣ヒ商業會議所ニ特許シテ其經營ニ任ゼシムルモ亦一策ナランカ。然レドモ我國ノ商業會議所ハ佛國ニ在ルモノト其趣ヲ異ニスルニ依リ、此目的ヲ遂ゲント欲セバ先ヅ法令ノ改廢ヲ要スルモノアルベシ。佛國ニ於テ商業會議所ヲシテ此經營ニ任ゼシムルノ方針ヲ取ルニ至リタル所以ノモノハ、商業會議所ハ常ニ商工業者ノ利益ヲ代表スルモノニシテ、同時ニ其業務ヲ營ムニ當リ、敢テ私利ヲ壟斷セントスルノ精神ナ

ク、其管理ハ頗ル統一のニシテ且經濟的ナリト云フニ在リ。我商業會議所條例ニ於ケル會議所ノ事務權限中ニ「公設營業所ニ關スル諸營造物ヲ管理スルコト」ナル文字アルヲ見ルト雖モ、之ヲ以テ港ノ陸上設備ヨリ生ズル收入ヲ獲ベキノ能力ナク、又起債ノ能力ナシ、之レ法令ノ改廢ヲ要スベシト云フ所以ナリ。

第四節 築港事業ニ對スル異議

築港事業ニ對スル異議中ニ就キ、其最モ有力ナルモノ四アリ。曰ク、外國貿易機關移轉ノ困難。曰ク、新東京港ヨリ解取貨物ヲ隅田河口ヲ經テ輸送スルノ困難。曰ク、築港豫定地ニ於ケル海面埋立及使用者ノ既得權ノ處分、及品海ニ於ケル捕魚採藻權者ノ處分之ナリ。此種ノ困難ハ或ハ築港事業ヲ其根底ニ於テ打破セントスルモノアリ。或ハ築港事業ノ施設ヲシテ不可能ナラシメントスルモノアルガ故ニ、皆今日ニ於テ研究ヲ要スベキモノトシテ之ヲ此ニ論ゼントス。

第一項 外國貿易機關移轉ノ困難

東京築港ニ對スル有力ナル論ニ曰ク、東京築港ハ横濱築港ノ如ク港ノ改良

ニアラズシテ港ノ新設ナリ、故ニ東京港ヲ活動セシムベキ商業機關モ亦此處ニ新設セラル、ヲ要ス。然ルニ現在ノ外國貿易ニ關スル商業機關ハ之ヲ東京ニ移轉セシムル能ハザルベシ。若シ之ヲ東京ニ移轉セシムル能ハズトセバ、東京港ハ何ニ依リテ外國貿易ヲ行ハンカト。此種ノ議論ハ現ニ神阪間ノ關係ニ於テ三十九年七月水上神戸市長ニ依テ更ニ鮮明ニ説明セラレタリ。曰ク貿易機關ノ主ナルモノハ外國商館ト汽船會社ナリ。本邦貿易ハ遺憾ナガラ尙ホ商館貿易タル境遇ヲ脫スル能ハズ、從テ貿易上ニ於ケル外國商館ノ勢力ハ無限ナリ、然ルニ外國商館ノ神戸ニアルモノ二百以上ヲ數フ、何レモ多額ノ固定資本ヲ卸シ、其基礎ヲ構タル上ニ其居留地ニアルヤ既ニ無税ニシテ永代借地權ヲ有スルノミナラズ、更ニ又昨年ノ仲裁裁判ノ結果、家屋ノ課税ヲ免ゼラル、ノ特權ヲ得タリ、加フルニ風景及氣候ノ大阪ヨリモ更ニ能ク彼等ニ適順ナルアリ、此等ノ特權ト天惠トヲ捨テ、既ニ固定セル基礎ヲ大阪ニ移サントスルニハ大阪移轉ノ利益ガ顯著ナルモノアラザルベカラズ、彼等ハ移轉ニ依リテ享タル利益ノ多大ナルコトヲ事實ニ於テ見タル後ニアラザレバ、決シテ斷行スルモノニアラズ、而テ大阪ハ事實上ニ於

テ之ヲ例證スルハ恐クハ不可能ナルベシ。從テ外國商館ノ移轉ハ容易ニ行ハレザルモノト知ルベシ。外國商館ニ於テ既ニ移轉セザルモノトスレバ、外國汽船會社支店モ亦移轉セザルハ必然ナリ。外國貿易ハ船舶ノ輸送ヲ待テ始メテ行ハル、然ルニ外國汽船會社ガ其航路ノ起點ヲ神戸ニ置クニ於テハ、貿易モ亦神戸ニ於テ行ハル、ハ勿論ナリ云々ト。此言ハ動モスレバ東京横濱間ノ關係ニ引用セラル、所ニシテ、東京築港ノ經營者ハ必ズ此問題ヲ解決スベキ責任アルモノトス。

貿易ハ其之ヲ行フニ於テ最モ便利ナル地ニ於テ行ハレ、貿易ノ行ハル、地ニシテ始メテ貿易機關存ス、貿易機關ノ存スルノ地ニシテ始メテ貿易行ハル、ニアラザルナリ。從テ貿易ノ行ハル、地ハ、四通八達ノ便ト船舶ノ出入繫船及貨物積卸ノ利ヲ有スル地ヲ擇ブベキモノニシテ、其横濱ナルト東京ナルトニ於テ擇ブ所ナシ。外國商館ハ現ニ諸種ノ特權ト利益トヲ横濱ニ有スト雖モ、其特權ト利益トハ貿易ガ長ク横濱ニ行ハレテ而テ後之ヲ利スルヲ得ベキノミ。若シ横濱港ガ其貿易ニ於テ將來東京港ニ讓ラザルヲ得ザルノ事實ヲ現出スルニ至ラバ、彼等ハ到底其特權ト利益トヲ横濱ニ利スル能

ハザルニ至ルベシ。然ルニ若シ東京港ノ成ルアラバ、東京貨物ハ東京ニ於テ貿易セザルヲ得ザルニ至ルベキハ、京濱間輸送狀態ノ既ニ證明スル所ナリ。其移轉スルニ於テ利益ノ顯著ナルモノアルナリ。外國商館及外國汽船會社支店ガ少數ノ貿易ノ行ハル、所ニ居ルト、尙ホ多數ノ貿易ノ行ハルベキ地ニ居ルト、其損益計算ハ論ヲ要セザル所ナリ。反對意見者ガ外國商館ナクシテ外國貿易行ハレズトノ前提ノ下ニ於テ、移轉利益ヲ事實ノ上ニ見タル後ニアラザレバ移轉セズト云フハ不可解ノ言ニシテ、外國貿易ノ行ハレザルノ地ニ於テハ到底移轉ノ利益ヲ事實上ニ示ス事能ハザルハ當然ナリ。故ニ反對意見者ノ論旨ハ、其言ノ如何ニ係ハラズ、外國商館モ其移轉ノ利益ノ顯著ナルモノアルヲ知ラバ、則チ移轉スベシト云フニアルベシ。

惟フニ安政六年以來横濱ニ商館ヲ置キタル事實ヲ基礎トセル多クノ商關係アル可シ。今一朝ニシテ此關係ヲ解カントスルハ蓋シ困難ナルベシ。又東京港ハ事實ニ於テ、此關係ノ解除ヲ請求セザルナリ、又必シモ外國商館其物ノ移轉ヲ請求セザルナリ。唯其業務ノ擴張ヲ東京ニ求ムレバ則チ足ランノミ。蓋シ横濱港ニ於テ行ハルベキ貿易ハ、東京築港ノ爲メニ障害セラル、コ

トナキ計算アレバナリ。故ニ横濱港ニ於テハ外國商館ガ既得ノ特權ト利益トヲ阻害セラル、コトナクシテ、更ニ東京港ナル一大市場ニ於テ其雄躍ヲ試ムルヲ得ベキモノトス。即チ事實ニ於テハ外國商館ハ横濱港ニ於ケル特權ト利益トヲ享受シツ、更ニ東京ニ於テ行ハルベキ大貿易ニ參加シテ其巨利ヲ得ベキモノニシテ、外國商館其他ノ貿易機關ハ却テ大ニ東京築港ヲ贊助シテ可ナリ。

第二項 東京港解取貨物輸送ノ困難

明治三十三年六月ニ於テ東京築港前計畫ガ東京市區改正委員會ニ諮問セラル、ヤ、其委員ハ陳ベテ曰ク、東京築港案ハ芝浦ニテ荷揚ヲナスベキ設計ナレドモ、此設計ニテハ甚ダ不便ニシテ寧口横濱ヨリ達摩船ニテ輸送スルモノト大差アルナシ、商業會議所ノ本案ニ贊成ノ意ヲ表セザルモ亦之ガ爲メノミ。蓋シ横濱ヨリ東京ニ輸送セラレタル貨物ハ其大部分ハ東京ニ於テ消費セラル、モノニシテ、東京ニテ消費セラル、モノハ是非共市内問屋ノ手ニ入ルヲ要ス。然ルニ芝浦ヨリ隅田河口附近ハ羽田沖トハ類ヲ異ニスレドモ、尙ホ甚シク危險ノ虞アルヲ免カレザルガ故ニ、之ニ保險ヲ附スルノ必

要アリ、又危險アルガ故ニ現計畫ノ築港地ヨリ一旦大解ニ受取り、之ヲ石川島以北ニ於テ復タ小解ニ移シテ、後之ヲ倉庫又ハ問屋ノ手ニ入レザルベカラズ、此ノ如クスル時ハ結局始メヨリ貨物ヲ横濱ヨリ解ニテ東京ニ送ルト大差アルナシ云々ト。

芝浦ナル豫定地ハ今日ニ於テモ尙ホ變更セザルヲ以テ、此非難ハ依然トシテ存續スルモノトス。之ニ依リテ見ルトキハ論者モ亦東京築港ナル事業ニ反對スルモノニアラズシテ、其計畫ニ依ル陸揚地ガ偶々芝浦ナルガ故ニ之ニ反對スルノミ。現計畫ノ之ヲ芝浦ニ撰定シタル所以ノモノハ、技術上之ヲ以テ最モ便利ナリトスル理由アルニ依ルモノニシテ、若シ他ニ便利ナル方法ノ存スルアラバ、強テ現計畫ヲ維持スルノ必要モナカルベシ。又現計畫ニ依ル陸揚地ヨリ、現在ノ水路ヲ利用シテ之ニ改良ヲ加ヘテ永代橋ノ上流ニ出ヅルノ方法モアルベシ。故ニ此論ハ東京築港ニ反對スルト云フヨリハ寧ロ別ニ水路ヲ改良スルノ必要ヲ主張スルモノニアラザルカ。之ヲ將來貿易發展ニ應ズルノ策ニ反對スルモノト見ルヲ得ザルベシ。然ドモ此論ハ元來其根底ニ於テ東京築港ノ主義ト相反スル思想ニ出ヅルモノナルヲ思ハシ

ムルモノアリ。蓋シ東京築港ナルモノハ其工事ニ依リテ大ニ商業ノ發展ヲ豫期スルモノニシテ、必シモ之ヲ現在ノ商業ノ状態ニ適合セシムルヲ期スルモノニアラザルベシ。故ニ其之ヲ現況ニ適應セシメ得ベキモノハ、固ヨリ其方法ヲ講ジテ以テ可成的既ニ現基礎ノ上ニ築設セラレタル經濟關係ヲ維持セザルベカラズト雖ドモ、一方ニ於テハ、又進歩改良ナル語ハ同時ニ或舊状態ノ打破ヲ意味スルコトヲ覺悟セザルベカラズ。深川ニ於ケル倉庫營業ハ何故ニ其倉庫地ヲ深川ニ撰定セルヤ、又京橋日本橋ニ於ケル問屋ハ何故ニ貨物ヲ自己ノ手ニ藏スルノ必要アルヤヲ思ハザルベカラズ。其深川ニ倉庫ヲ設ケタル所以ノモノハ、畢竟現在ノ水運方法ヲ基礎トセル計畫ナルノミ。然ルニ今ヤ東京灣ニ築港シテ現在ノ京濱間ノ輸送状態ヲ改良シテ之ヲ一變セシメントスルニ際シ、尙ホ現計畫ガ舊水運方法ヲ基礎トセル施設ニ不適應ナルノ理由ヲ以テ之ニ反對ヲ試ミントスルニ至リテハ、之レ實ニ進歩ト改良トヲ否ムモノニシテ、論議ノ範圍ノ外ニ脱シタルモノト云ハザルベカラズ。築港現計畫ニ於テハ既ニ倉庫ノ豫定敷地ヲ存セリ。實業家ハ宜シク此ニ倉庫ヲ設クルヲ得ベキナリ。又共同倉庫ノ施設ハ、商港附近ニ於テ

スルヲ以テ最モ利アルガ故ニ、各國皆此例ニ依ルナリ。然ルニ獨リ東京ニ於テノミ舊水運ヲ基礎トセル深川倉庫地ニ對スル輸送ノ便否ヲ標準トシテ東京築港ニ反對スルガ如キアラバ、畢竟其ノ既ニ深川ニ投下シタル固定資本ノ效果ヲ空フスルヲ恐ル、モノニ外ナラザルベシ。即チ東京商業ハ決シテ共同倉庫ノ深川ニ存在スルヲ必要トセズシテ、寧ロ其商港附近ニ存在スルノ經濟的ナルヲ好ムモノナリ。又貨物ヲ問屋ノ手ニ藏スルノ必要ハ其特殊ナル場合ノ外ハ皆共同事業ノ制度ト習慣ナキ時代ノ遺習ニシテ、之ヲ永久ニ持續スベキモノニアラズ。今日ニ於テハ既ニ貨物ヲ共同倉庫ニ藏シ乍ラ、安全ニ之ヲ金融ノ資ニ供スルコトモ、又賣買ノ目的ニ供スルコトモ、其ニ自在ナリ、何ヲ苦ンデ一旦之ヲ各個ノ手ニ藏シテ然ル後之ヲ卸賣スルノ必要アラン。固ヨリ一朝ニシテ商習慣ノ拔キ難キハ何人モ之ヲ否ムモノナカルベシト雖モ、其變更ハ貸スニ時日ヲ以テスルノ必要ハ即チ之アラシ。然レドモ其拔キ難キノ理由ヲ以テ根本的ニ改良設計ヲ否ムニ至テハ、之レ又殆ンド論議ノ外ニ脱スルモノナリト云ハザルヲ得ズ。數字ニノミ拘泥シテ世運ノ推移ガ常ニ數字ノ如ク變化シ得ベキモノナリト誤想シテ、既ニ舊慣ヲ

基礎トシテ成立セル經濟關係ヲ無視スルハ、白面書生ノ言ニ近シト雖ドモ、又舊慣ニノミ拘泥シテ世運ノ推移ガ常ニ舊套ヲ因襲スルモノト誤想シテ、新思想ノ指揮ノ下ニ成立スベキ經濟關係ヲ無視スルハ、寧ロ極端ナル保守說ナリト云フベキノミ。世ハ長ク此見解ニ盲從セザルベシ。

第五章 結論

國運ノ趨勢ハ、外國貿易ニ於テ每十年倍加ノ率ヲ示シ、又内國貿易ニ於テ每十年三割増ノ率ヲ示ス。而テ外ニ在リテハ巴奈馬運河ノ開通ハ、近ク千九百十四年ニ迫ルノ傍ニ於テ東洋貿易ノ競争ハ漸ク將ニ激甚ナラントス。然レドモ願レバ我國ニ良港ノ以テ此内外ノ情勢ニ應ズベキモノナシ。惟フニ港ヲ築クニ要スル歲月少クトモ十年ヲ算スベシ。今ニシテ其計ヲ爲サズンバ他日ノ悔恨及ブベカラザルモノアラン。幸ニシテ隣邦未ダ良港ノ施設ナシ。他日太平洋上ノ貿易ニ於テ先ヅ優先ノ地位ヲ占ムルト否トハ、今日ノ計ヲ爲スニアルノミ、東京港ノ地位ハ外ニ對シテ其便横濱ニ讓ラズ、内ニ在リテハ四通八達ノ中心タリ。又東京市自ラ生産消費ノ中心タリ。而テ現在ノ京濱間ノ輸送ハ長ク之ヲ經濟的ニ持續スベカラズ。東京築港ノ已ムベカラザル

ノ必要歷トシテ爭フベカラザルモノアリ。加フルニ築港ノ利益優ニ將來東京ノ發達ヲ助長シテ誤ラザルノ數ヲ示ス。苟モ起タズンバ則チ已ム、起タバ則チ大ニ爲スアルベキナリ。

惟フニ東京市ノ施設ニ屬ベキ事業將來尙ホ甚ダ多シ。唯收斂ヲ之レ事トシテ以テ其財源ニ充ツベキニアラズ。須ラク先ヅ其財源ヲ涵養シテ以テ之ニ應ズルノ策ヲ講ゼザルベカラズ。其財源ヲ涵養スルノ道ハ築港事業ノ明示スル所ニシテ、之ヲ捨テ而テ取ラズンバ將ニ何レニ其供給ヲ仰グベキヤ。築港ノ舉ハ先ヅ市民ニ福シテ而テ後市金庫ヲ利ス。市ノ經營トシテ慶之ニ過グルモノナシ。此舉ハ獨リ市金庫ノ爲メノミナラザルナリ。又市民福利ノ爲メナリ。獨リ市民福利ノ爲メノミナラザルナリ。又帝國貿易發展ノ爲メナリ。築港ノ舉ハ其必然ノ勢ヲ後ニシ、其誤ラザルノ利ヲ前ニス。而テ元資償還ノ方法又既ニ備ハル。區々タル道路ノ難聲固ヨリ之ニ聞クヲ須ヒザルナリ。合議體ノ業固ヨリ輿望ニ出ヅルヲ本義トス。然ルニ築港ノ事市會既ニ起業ヲ決議ス、輿望ノ存スル所知ルベキナリ。事今上司ニ稟伺シテ未ダ其指令ヲ得ズト云フ。上司ノ事固ヨリ市ノ意ニ任セザルモノアリト雖モ、稟伺以來此ニ

殆ンド二年ヲ經テ未ダ令スル所ナク、又市ハ唯拱手シテ其指令ヲ待ツコト殆ンド忘レタルガ如シ。市會決議ノ威信ヲ傷フモノ蓋シ少カラザルベシ。聞ク所ニ依レバ、政府ハ外債近來ノ増加ヲ以テ國民經濟上ノ不利益ナリトシテ其許可ヲ躊躇スルガ如シト。而テ今稟伺中ニ係ル東京築港計畫ハ、元資ヲ外債ニ仰グモノナリ、若シ此理由ヲ以テ政府ノ指令ヲ得ル能ハズトセバ速カニ之ヲ内債ニ仰グノ案ニ改ムベキナリ。募債ノ方法ノ如キハ築港ノ手段ノミ、其内債タルト外債タルトニ於テ固ヨリ擇ブ所ナシ。其手段ノ爲メニ其目的ヲ誤ルアラバ恨事之ニ過グルモノアルナシ。惟フニ築港ノ案幾回カ提出セラレテ決セズ、其自然消滅ニ歸スルモノ多シ。畢竟斷行ノ熱意ヲ缺クニ依ルニアラザルカ。若シ其ノ疑ハシキモノアラバ之ヲ研究シ、之ヲ研究シテ利アルヲ知ラバ則チ之ヲ斷ズベシ。既ニ斷ズレバ必ズ之ヲ遂ゲザルベカラズ。徒ニ左顧右盼シテ機ヲ逸スルハ、東京市ノ爲メニ取ラザル所ナリ。或ハ曰ク東京市民ノ負擔既ニ重シ、之ニ加フルニ尙ホ其經營ニ屬スベキ事業ノ負擔ヲ以テシ、又之ニ重ヌルニ築港費ヲ以テセバ、市民或ハ其負擔ニ堪ヘザルベシト。今漫然市經營ノ事業甚ダ多シト云ハ、誰カ其然ルヲ疑フモ

ノアラシ、然レドモ築港モ亦市經營事業ノ最モ急ナルモノナリ、而テ之ニ對スル市民ノ負擔ハ公債ヲ研究セシ一節ニ於テ示シタル如ク、市民ハ單ニ利子ノ一部トシテ毎年貳拾五萬圓ヲ負擔スルニ過ギズ、其他ノ必要支出ハ皆港財政ノ所辨スル所ナリ。毎年貳拾五萬ノ負擔ハ、貳百萬ノ市民ニ於テ一年一人拾貳錢五厘ニシテ、一人一年拾貳錢五厘ノ負擔モ若シ既ニ他ノ費用負擔ガ極度ニ近ケル場合ニ於テハ市民ノ之ニ堪ヘザルコトアルベシト雖モ、今東京市民ノ負擔ハ其極度ニ近ケルモノト云フヲ得ザルベシ。試ミニ四十年一度ノ歲計ニ於テ全國著名ノ都市中多大ノ事業ニ從事セルモノニ就テ見ルニ、人口一人當リ市費ノ負擔長崎市五圓八錢五厘、神戸市七圓七拾五錢六厘、横濱市八圓九拾貳錢四厘等ニシテ、東京市ハ六圓七拾七錢四厘ナリ。名古屋市ニ至リテハ更ニ進ンデ一人當リ市費ノ負擔拾壹圓五拾五錢四厘ニ達スト云フ。即チ見ルベシ、此等都市ノ中ニ就キ長崎ヲ除キテハ東京ハ最低位ニ居ルモノナルヲ。更ニ之ヲ三都ニ比スルニ、大阪市ノ拾五圓九拾錢五厘及京都市ノ拾七圓八拾四錢八厘ニ對シ、東京市ハ一人ノ負擔六圓七拾七錢四厘ナリ。又之ヲ一戸當リトシテ計算スルトキハ、神戸市三拾圓五拾壹錢四

厘、長崎市三拾五圓七拾九錢、横濱市四拾七圓五拾六錢八厘、名古屋市四拾八圓四拾貳錢五厘、大阪市六拾七圓九拾參錢四厘、京都市九拾五圓五拾六錢八厘ナルニ、東京市ハ一戸貳拾七圓參拾壹錢八厘ナリト云フニ至リテハ、東京市民ノ負擔未ダ甚ダ重シト云フベカラザルナリ。尙ホ之ニ課スルニ拾貳錢五厘ヲ以テスルモ其堪ヘザル所ナリト云フヲ得ザルベシ。市民負擔ノ輕キハ固ヨリ慶賀スベキ現象ニシテ、故ラニ事ヲ好ンデ其重キヲ欲スルノ理由ハ毫モ之レナシト雖モ、善良ナル我市民ハ東京築港ノ如キ必要ニシテ且利益多キ事業ニ對シ、其堪ヘ得ル場合ニ於ケル多少ノ負擔ヲナスニ於テ各ナルモノニアラザルヲ信ズルナリ。

十一月十八日（明治四十二年）東京市區改正委員會東京府知事照會ノ深川區越中島地先埋立地變更ヲ可決ス。（東京市區改正委員會議事錄）

越中島地先埋立地變更 東京市區改正委員會ハ、明治四十二年十一月十八日

左ノ深川區越中島地先埋立地變更案ヲ可決ス。

議第六百二號 東京府知事ノ照會ニ係ル深川區越中島地先埋立地變更ノ件ニ對シ、左ノ如ク回答セントス。

回答案

東京市ヨリ内議ニ係ル深川區越中島地先埋立變更ノ件ニ付、西土甲第一五三八號七ヲ以テ照會相成候處、右ハ本會ニ於テ異存無之候。此段及回答候也。

年月日

委員長

東京府知事宛

西土甲第一五三八號

別紙ノ通り東京市ヨリ内議ニ接シ候ニ付テハ、右回答ノ都合上何分ノ御意見承知致度、圖面相添、此段及照會候也。

明治四十二年八月十九日

東京府知事阿部浩

東京市區改正委員長一木喜徳郎殿

（別紙）

河發第二〇九號

明治三十九年十一月十四日附ヲ以テ、海面埋立方針認可ニ係ル本市隅田川

帝都時代ノ港灣

口改良工事深川區越中島地先第一號埋立地ノ儀ハ、市街地ニ隔離シ、埋立地
利用上不得策ナルノミナラズ、比較的多額ノ工費ヲ要スルヲ以テ、京橋區月
島第二號地先別紙圖面ノ個所ニ變更スベキ見込ニ有之候へ共、支障ノ有無
承知致度、此段及御内議候也。

明治四十二年五月八日

東京市役所

東京府御中

東京市區改正委員會議事錄

〔附記一〕 芝區地先海面埋立

東京市會ハ、芝區地先海面埋立ニ關シ、明治四十二年十二月廿五日決議シテ
東京府知事ニ左ノ如ク答申ス。

芝區地先海面埋立ニ關スル答申

十月十四日附西土甲第二七〇〇號四ヲ以テ、本市芝區地先海面埋立ノ儀、
御諮問ノ處、該區域ハ本市築港豫定地ニシテ、將來事業實施上ノ關係モ有
之、旁々左記條件ヲ附加セラル、様致度、別紙書類返戻、此段及答申候也。

左記

一、埋立幅員ハ、最大壹百間ヲ限度トシ、別紙略圖ノ通り埋立セラル、事。

附記、一
芝區地先
海面埋立

一、埋立用ノ土砂ハ、可成海中ヨリ採取セラレ度、而シテ其土砂ハ、別紙東京
築港計畫圖赤色以外ニシテ、青色ノ區域ヨリ採取セラル、事。

一、本市ニ於テ鐵道院埋立地一部ノ拂受ノ必要アルトキハ、鐵道用トシテ
支障ナキ限り、埋立實費ヲ以テ、本市ノ要求ニ應ゼラル、事。

一、埋立地ヲ他ニ讓渡セラル、場合ハ、豫メ本市ニ協議シ、且ツ優先シテ埋
立實費ヲ以テ本市ニ拂下ゲラル、事。

一、埋立地ニハ、鐵道院ニ於テ、少クモ一線ノ横切道路ヲ設置シ、且ツ將來埋
立地トノ連絡上ニ就テハ、可成の便宜ノ取計ヲセラル、事。

一、埋立地域沿岸ニ存スル下水ニシテ、現在品海ニ放流シアルモノニ對シ
テハ、鐵道院ニ於テ、相當排水ノ設備ヲセラル、事。

一、現在ノ鐵道線路ニ沿ヒ存在スル入江ニ對シ、舟楫ノ通路ヲ設ケラル、
事。

以上。(圖面省略)

東京市會決議錄

東京灣築港調査常設委員會日記ニ左ノ如ク見ユル者是也。

明治四十二年九月十日午前十時築港調査委員會開催ノ旨各委員へ(九月

八日附ヲ以テ通知ス。

四十二年九月十日午前十時半開會出席委員左ノ如シ。

委員長大岡育造。委員森久保作藏。溝淵正氣。津村重舍。松村祥一郎。青木

庄太郎。染谷要作。和田屯。

技師長日下部。技師山岡。河港課長技師小川。

議題

回答案

本年一月十一日附辰土甲第二七〇〇號ヲ以テ品川停車場地先海面埋立ノ件ニ付御諮問ノ處該區域ハ本市築港豫定地ニシテ將來事業實施上ノ關係モ有之候條幅員最大壹百間ヲ限リトシ別紙圖面ノ通埋立ラル、ニ於テハ支障無之別紙返戻此段及答申候也。

年月日

東京市參事會
市長

府知事宛

大岡委員長 議事ニ入ルヲ述ブ。

技師小川課長 議題(回答ニ關シ)ノ説明ヲ爲ス。

大岡委員長曰ク、本案ハ本市築港計畫區域ナルヲ以テ鐵道院ノ要求ヲ

全々拒絕スルヲ得ザルモ、幾分ノ條件ニ關シテハ一層當局者ノ調査ヲ經テ更ニ審議スルヲ可ナリト認ム。

委員 異議ナシ。

午前十一時三十分閉會。

明治四十貳年九月貳拾壹日午前十時築港調査委員會開催ノ旨各委員へ(九月十八日)ヲ以テ通知ス。

同九月二十一日午前十時四十分開會出席委員左ノ如シ。

委員長大岡育造。委員森久保作藏。溝淵正氣。松村祥一郎。青木庄太郎。

染谷要作。和田屯。

助役田川大吉郎。技師長日下部辨次郎。河港課長小川織三。

議題(原案) 鐵道院品川停車場地先埋立照會ニ對スル回答條件。

一、埋立用土砂ヲ海面ヨリ採取スル場合ハ別紙東京築港計畫圖赤色以外ニシテ青色ノ區域ヨリ採取セラル、事。

一、本市ニ於テ鐵道院埋立地一部ノ拂受ノ必要アルトキハ鐵道用トシテ支障ナキ限リ埋立實費ヲ以テ本市ノ要求ニ應ゼラル、事。

一、埋立地ヲ他ニ讓渡セムトスル場合ハ、豫メ本市ニ協議シ、且優先シテ本市ニ拂下ゲラル、事。

一、埋立地ニハ、鐵道院ニ於テ少クモ一線ノ横切道路ヲ設置シ、且將來埋立地ト現市街地トノ連絡上ニ就テハ、可成の便宜ノ取計ヲナサル、事。
委員長(大岡) 前會ニ引繼鐵道院埋立ノ件ニ付議事ニ入ルヲ述ブ。

課長(小川) 議題ニ關シ詳ニ説明ヲ爲ス。

各委員 討議ノ結果、

委員長(大岡) 前議題ヲ左ノ通り修正ヲ爲スヲ提議ス。

各委員 異議ナシ。

修正案

一、埋立用ノ土砂ハ可成海中ヨリ採取セラレタク、而テ其土砂ハ別紙東京築港計畫圖赤色以外ニシテ青色ノ區域ヨリ採取セラル、事。

一、原案通り。

一、埋立地ヲ他ニ讓渡セラレントスル場合ハ、豫メ本市ニ協議シ、且優先シテ埋立實費ヲ以テ本市ニ拂下ゲラル、事。

一、埋立地ニハ鐵道院ニ於テ少クモ一線ノ横切道路ヲ設置シ、且將來埋立地ト現市街地トノ連絡上ニ就テハ、可成の便宜ノ取計ヲセラル、事。以上。

〔附記、二〕 本牧沖假設挂燈浮標

遞信省告示第六十號

神奈川県武藏國横濱港口本牧沖浮標ノ南西約二十間ノ處へ、試験ノ爲メ左記ノ「アセチリン」瓦斯挂燈浮標ヲ碇置セリ。

明治四十三年一月十八日

遞信大臣男爵後藤新平

本牧沖假設挂燈浮標

一、構造及著色 鐵造圓臺形濃褐色、上部ニ格子製櫓ヲ組立テ頂上ニ燈器ヲ掲グ。

一、自水面 約一丈一尺。

一、燈 質 「アセチリン」瓦斯明暗白色、燈光發射ノ時間ハ、試験ノ爲メ

一定セズ。

一、水 深 大低潮時約六尋。

附記、二
本牧沖假
設挂燈浮
標

〔附記、三〕 東京灣築港調査委員會

明治四十三年一月廿四日明治四十三年度築港調査費豫算其他ニ關シテ會議スル所有リ、二月一日、十七日、四月八日、七月廿九日、八月三日等ニモ會合有リ。

明治四十三年一月二十四日午前十一時築港調査委員會開催ノ旨(一月二十一日)ヲ以テ通知ス。

同月一月二十四日午前十一時五十分開會、出席委員左ノ如シ。

委員松村祥一郎。青木庄太郎。染谷要作。森久保作藏。溝淵正氣。津村重舍。助役宮川鐵次郎。同 田川大吉郎。技師長日下部辨次郎。課長小川織三。

各委員著席。

一、明治四十三年度築港調査費豫算市會提出ノ件ヲ議題トシ、溝淵委員委員長缺席ニ付委員長ニ代リ開會ノ旨ヲ告グ。

小川課長ハ、前年度ト比較大差ナシ、又其經過ヲ報告セリ。

森久保(一番)委員ハ、從來本調査ニ付テハアマリ其成績ノ見ルベキモノヲ認めズ、依テ此儘遂行センヨリハ寧ロ此際廢止センカ、或ハ更ニ増額ノ上

囑托委員ナルモノニ相當ノ手當ヲ給シ、各方面ノ調査等ヲ爲サシムルモ必要ナラズヤト述べ、

結局各委員ノ異議ナキニヨリ、更ニ本豫算ニ修正ヲ加ヘ再議ニ決ス。

一、隅田川口改良工事設計變更ノ件。

小川課長詳細ニ涉リ説明ヲナス。

可決。

閉會于時午後一時五十分。

一、明治四十三年一月三十一日午前十時築港調査委員會開會ノ旨(一月二十七日)通知ヲ發ス。

出席者ハ青木庄太郎、染谷要作、津村重舍ノ三名ニシテ、規定人員ニ達セザルヲ以テ、本日ハ流會トス。

明治四十三年二月一日午前十時築港調査委員會開催ノ旨各委員(一月三十一日)へ通知ス。

一、同月一日午前十一時五十分開會、出席委員左ノ如シ。

委員森久保作藏。津村重舍。松村祥一郎。青木庄太郎。

課長小川織三。

森久保委員ハ開會ヲ告ゲ、前會ニ引續キ本年度築港調査費豫算ノ件ニ付御協議セント述べ、

小川課長ハ前會ニ於テ御協議セシ如ク、第三項ノ第二囑托手當ニ於テ千貳百圓、同第二目旅費ニ於テ五百圓、第四項第二目印刷費五十圓、第五目雜費ニ於テ百圓ヲ増セル旨ヲ述べ、

森久保委員ハ前會ニ於テ囑托手當其他ニ修正ヲ加ヘ、更ニ其上協議スベキトシテ、唯今小川課長ヨリ述べラレタル如クナルモ、本日ハ委員長モ缺席セル事トテ、將シテ事實ニ其著手成功ヲ見ントセバ、専門技師ヲ置クハ勿論、市長ニモ意見ヲ問フ等、兎ニ角委員長ノ出席ヲ求メ、其上決定セン、依テ本案ハ此儘トシ、委員長出席ノ都合ヲ確メタル上、更ニ開會スルトシテハ如何ト述べ、

各委員 異議ナシ。閉會時ニ午後一時。明治四十三年二月十七日午前十時築港調査委員會開催ノ旨各委員(二月十五日)ニ通知ス。

一、同月十七日午前十一時開會出席員左ノ如シ。

委員長大岡育造。委員一番森久保作藏。同二番溝淵正氣。同三番津村重舍。同四番松村祥一郎。同五番青木庄太郎。

市長尾崎行雄。助役田川大吉郎。技師長日下部辨二郎。課長小川織三。

各委員著席。

大岡委員長ハ開會ニ先チ、前會欠席セルヲ以テ大體ノ經過ヲ求メ、

津村委員ヨリ右經過ヲ述べ、

大岡委員長ハ本豫算ニ付テハ根本的解釋ヲ要スベキヤ。

問題ニシテ容易ニ決スル事ハ難事ニ屬スト思考ス、依テ本事業ガ必ズ實行シ得ルヤ否ヤハ事實調査スルノ必要アリト認めラル。就テハ大坂其他ヲ實查シ參考ニ資シ、以テ實行如何ヲ確メタシ。

各委員 異議ナシ。

田川助役ハ、唯今委員長御説ノ如ク、委員諸氏ガ實地出張セラルルトセバ、本修正尙其旅費トシテ約千圓ヲ見込増加セラレテハ如何。

大岡委員長 他ニ異議ナキヲ以テ、田川助役ノ述べラレタル如ク、前修正ノ外ニ調査費用トシテ千圓ヲ旅費ニ見込ミ、實地調査ノ上更ニ實行如何

ヲ審議研究スルモノトシ、結局他ニ異議ナキヲ以テ左記ノ修正ヲ加フル
トニ決セリ。

第一項旅費壹千圓。

第三項囑托手當千貳百圓。

同上
旅費ニ於テ五百圓。

第四項中印刷費ニ於テ五拾圓ヲ増額シ、翻譯料百圓ヲ計上ニ修正ス。

閉會于時一時五十分ナリキ。

明治四十三年四月八日午前十時(市會議長室)築港調査委員會開催ノ旨、同
月五日各委員へ通知ス

一、同日午前十一時五十分開會、出席員左ノ如シ。

三番津村重舍。五番青木庄太郎。四番松村祥一郎。六番染谷要作。

第三部長田川大吉郎。技師長日下部辨二郎。課長小川織三。

議題

東京府ヨリ照會ニ係ル品川沖第四砲臺拂下ノ件ニ關シ其價格照會ノ件。
小川課長ハ、今回品川沖第四砲臺拂下ノ意向ヲ照會シ來レリ、勿論同所

ハ本市築港計畫區域内ニ屬スルヲ以テ、他日該事業實施ノ際ハ自然相當
代價ヲ以テ買收スルノ止ムナキニ至ルベク、今其筋ヨリ直接拂受クルト
セバ比較的の低價ナルヲ得ベケレバ、此際拂受クルヲ得策ナリト認ムト詳
細ニ説明セリ。

青木委員ハ、拂下ハ勿論同時ニ本照會ノ必要アリ、尙進ンデハ他ノ砲臺
ノ無代下附ヲモ此際申請シ置キテハ如何ト議場ニ問フ。

各員異議ナク、青木委員說ニ贊成ノ旨ヲ述ブ。

依テ左案ノ意見ヲ附加シ可決ス。

此際本照會ト同時ニ他ノ砲臺ノ無代下附ヲモ申請スルモノトス。
散會于時一時十分ナリキ。

七月廿九日午前十時築港調査委員會開催ノ旨各委員へ通知、同日午前十
時五十分開會、出席員左ノ如シ。

委員長大岡育造。委員森久保作藏。津村重舍。松村祥一郎。染谷要作。青木

庄太郎。細野順。

第三部長田川大吉郎。協議員南部光臣。技師長日下部辨二郎。課長小川織三。

小川課長ハ高架鐵道敷設出願ニ關シ、本府ヨリ照會アリ、右ハ築港計畫區域内ニ其線路ガ該當セルニヨリ之レガ拒否ヲ求メントスルニアリ。結局本案ハ、許否ニ付テ唯憂フルハ危險ノ程度ナルモ、尙熟議ヲ要スベキモノアルヲ以テ、來ル三日再會ヲ期シ散會時ニ十一時五十分。八月三日午後二時開會ノ旨通知。同日午後三時開會出席員左ノ如シ。

委員溝淵正氣。松村祥一郎。津村重舍。森久保作藏。青木庄太郎。染谷要作。細野順。

第三部長田川大吉郎。課長小川織三。

委員長欠席ニ付、森久保委員代理ス。

議題 東京單軌高架鐵道株式會社假免許狀下附申請ニ關スル東京府ヘ回答ノ件。

右ハ左記條件ヲ附シ回答スル事ニ修正可決セリ。

一、築港其他本市ノ都合ニヨリ必要ト認ムル場合ハ、何時ニテモ會社ノ費用ヲ以テ施設位置又ハ工作物ノ變更ヲナス事。

本府ヘ回答文參考ニ、

客年十月廿八日附西土甲第三四一三號ヲ以テ、東京單軌高架鐵道株式會社設立發起人ヨリ出願ニ係ル單軌鐵道施設假免許ノ件ニ付、御照會ノ趣了承、取調候處、築港其他本市ノ都合ニヨリ必要ト認ムル場合ハ、何時ニテモ會社ノ費用ヲ以テ施設位置又ハ工作物ノ變更ヲ命ジ得ラル、ニ於テハ、支障無之候條、別紙添附、此段及回答候也。

四十三年十一月二日

市參事會市長代

知事宛

追テ、設計ニ對スル詳細ノ意見ハ、會社ヨリ本免許狀下附申請ノ際開陳候様致度ニ付、其際本市ヘ御協議相成度、右申添候也。

右ノ如ク決定散會時ニ午後三時三十分ナリキ。

東京築港調査常設委員會日記

四十三年二月四日、隅田川口改良工事計畫ヲ變更ス。

○東京市會決議速記録。東京市會議事速記録。東

隅田川口改良計畫變更

明治四十三年二月四日ノ市會ニ於テ、左ノ如ク決議

帝都時代ノ港灣

六六三

隅田川口改良計畫變更
事蹟

セルト、東京市會議事速記録、東京市會議決議録等ニ見ユ。

隅田川口改良工事計畫變更ノ件

隅田川口改良工事計畫中、左記(乙號圖)ノ通變更スルモノトス。

既定名稱及位置	面積	變更位置	面積
第一號 越中島工業試驗所 前以大藏省用地外	四四、〇〇〇坪	月島第二號地々先埋立	四九、三〇〇坪
第二號 芝區金杉新濱町前	三六、〇〇〇坪	芝區金杉新濱町前埋立	三六、〇〇〇坪
第三號 芝區新濱町地先	六、六〇〇坪	芝區金杉新濱町地先埋立	四、八三二坪八
第四號 芝區本芝一丁目地先	三五、四〇〇坪	芝區本芝一丁目地先埋立	三五、四〇〇坪
		入間川埋立	一、二五二坪二一
計	一二二、〇〇〇坪		一二六、七八五坪〇一

(圖面省略)

是日同市會ニ於テ、東京市 自明治三十九年度 繼續歲出豫算表ヲ更正ス。即チ隅

田川口改良費二百五十九萬八千七百七十七圓六十五錢四厘中ノ更正也。

(參考) 京橋區築地々先海面埋立ニ關シ、東京市會ハ、明治四十三年三月廿九

日東京府知事ニ對シ、異議ナキ答申ヲ決議スルコト東京市會議決議録ニ見ユ。

〔附記〕 漁業法改正 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ、茲ニ之ヲ公布セシ

附記
漁業法改
正

御名御璽

明治四十三年四月二十日

內閣總理大臣 侯爵 桂 太郎

內務大臣 法學博士 田 東 助

農商務大臣 小松原英太郎

法律第五十八號(官報四月二十一日)

漁業法

第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ、營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ。

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ、漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ。

第二條 公共ノ用ニ供セザル水面ニハ、前段ノ規定アル場合ヲ除クノ外、本法ノ規定ヲ適用セズ。

第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セザル

帝都時代ノ港灣

ル水面ニハ、本法ヲ適用ス。

前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ、行政官廳ノ許可ヲ得テ、漁業ニ關シ之ガ利用ヲ制限シ、又ハ廢止スルコトヲ得。

第四條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ、行政官廳ノ免許ヲ受クベシ、其ノ免許スベキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス。

第五條 水面ヲ専用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ、行政官廳ノ免許ヲ受クベシ。

前項ノ免許ハ漁業組合ガ其ノ地水面ノ専用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘズ。

第六條 前二條ノ外、主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ、命令ヲ以テ之ヲ定ム。

第七條 漁業權ハ物權ト看做シ、土地ニ關スル規定ヲ準用ス。

民法第二編第九章ノ規定ハ、漁業權ニ之ヲ適用セズ。

第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ、其ノ漁場ニ定著シタル工

場物ハ、民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ、漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス。

第九條 裁判所ノ土地ノ管轄ガ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ、漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ、不動産所在地ト看做ス。

第十條 漁業權ハ、行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ、之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ズ。

地先水面専用ノ漁業權ハ、行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ、之ヲ處分スルコトヲ得ズ。

第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ、漁業權ノ處分ニ從フ。

第十二條 入漁業權者ハ、設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ、他人ノ専用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ、其ノ専用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス。

第十三條 入漁權ハ、物權ト看做ス。

入場權ハ、相續及讓渡ノ目的タル外權利目的タルコトヲ得ズ。

第十四條 入漁權ハ、漁業權者ノ承諾アルニ非ザレバ之ヲ讓渡スルコトヲ得ズ。但シ、別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス。

第十五條 漁業權又ハ漁權ノ各共有者ハ、他ノ共有者ノ同意アルニ非ザレバ其ノ持分ヲ處分スコトヲ得ズ。

第十六條 漁業權ノ存續期間ハ、二拾年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル。但シ、第二十四條第一項ノ規定ニ依リ、又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ、漁業ヲ停止セラレタル期間ハ、之ヲ算入セズ。前項ノ期間ハ、漁業權者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得。

第十七條 設定行爲ニ於テ存續期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ、目的タル漁業權ノ存續中存續スルモノト看做ス。但シ入漁權者ハ、何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得。

第十八條 入漁權者ガ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ、漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得。入漁權者ガ引續キ二年以上入漁料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産若ハ家資分散

ノ宣告ヲ受ケタルトキハ、漁業權者ハ入漁權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得。

第十九條 入漁料ハ入漁ヲ爲サバルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セズ。

第二十條 入漁權ニ關シ、前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ、其ノ慣行ニ從フ。

第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ、漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ、之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得。

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ従事スル者ナキトキ、又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ、行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得。

第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲サバル期間、及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ、漁業ヲ停止セラレタル期間ハ、前條ノ期間ニ之ヲ算入セズ。

第二十四條 水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防、其ノ他ノ軍事上必要アルトキ、又ハ公益上害アルトキハ、主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得。

漁業權者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ、
 漁業ヲ制限シ又ハ停止スルコトヲ得。
 第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ、行政官廳ハ之ヲ
 取消スコトヲ得。
 第二十六條 免許漁業原簿ノ登録ハ、登記ニ代ハルモノトス。
 登録ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム。
 第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ、行政官廳ハ直ニ之ヲ登録
 シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スベシ。
 前項ノ權利者ハ、通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ヲ競賣ヲ請
 求スルコトヲ得。但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依ル取
 消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラズ。
 漁業權ハ、前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄、競賣ノ目的ノ範圍内
 ニ於テ仍存續スルモノト看做ス。
 競賣ニ依ル賣得金ハ、競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟
 ニ充テ、其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス。

競落ヲ許ス決定ガ確定シタルトキハ、漁業免許ノ取消ハ、其ノ效力ヲ生ゼ
 サリシモノト看做ス。
 第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非ザレバ、之ヲ分
 割變更又ハ拋棄スルコトヲ得ズ。
 第二十九條 漁業者ハ、左ニ掲グル目的ノ爲必要アルトキハ、行政官廳ノ
 許可ヲ得テ、他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スル
 コトヲ得。
 一、漁場ノ標識ノ建設。
 二、魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備。
 三、漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設。
 第三十條 漁業者ハ、必要アルトキハ、行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途
 ナキ他人ノ土地ニ立入り漁業ヲ爲スコトヲ得。
 第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要ア
 ルトキハ、行政官廳ノ許可ヲ得テ、他人ノ土地ニ立入り支障木竹ヲ伐採シ、
 又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得。

第三十二條 前三條ノ行爲ヲ爲ス者ハ、豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ、爲ニ生ジタル損害ハ之ヲ賠償スベシ。

第三十三條 行政官廳ハ、漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命ズルコトヲ得。

第三十四條 地方長官ハ、水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲、主務大臣ノ認可ヲ得テ、左ノ命令ヲ發スルコトヲ得。

一、水産動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止。

二、水産動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止。

三、漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止。

四、漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限。

五、水産動植物ニ有害ナル物ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止。

六、水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止。

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ、命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得。

前二項ノ命令ニハ、犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ノ沒收、

竝犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得。

第三十五條 汽船トロトル漁業又ハ汽船捕鯨業ハ、主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得ズ。

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ、主務大臣之ヲ定ム。

第三十六條 爆發物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ズ。但シ海獸捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

第三十七條 主務大臣ハ、遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ、水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付、制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得。

工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ、主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命ズルコトヲ得。

第三十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命ジタルトキハ、主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ、相當ノ補償ヲ爲スベシ。但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命ジタルトキハ、主務大臣ノ定ムル所

ニ依リ申請者之ヲ補償スベシ。
前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ、補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得。
第三十九條 公共ノ用ニ供セザル水面ニシテ、公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通ズルモノニハ、命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得。
第四十條 漁業ニ従事スル者ノ雇傭竝雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ、勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得。
第四十一條 海軍艦艇乗組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ、漁業ヲ監督シ、必要アリト認ムルトキハ、船舶、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ、帳簿物件ヲ檢定スルコトヲ得。
前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ、搜索ヲ爲シ、又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スベキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得。
臨檢搜索及差押ニ關シテハ、間接國稅犯罪者處分法ヲ準用ス。但シ同法第四條ノ規定ハ、漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セズ。

第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ、行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得。
漁業組合ノ地區ハ、市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムベシ。但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。
市制町村制ヲ施行セザル地方ニ在リテハ、市町村ニ準ズベキモノヲ以テ前項ノ市町村ト看做ス。
北海道ニ於テハ、郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得。
第四十三條 漁業組合ハ法人トス。
漁業組合ハ、漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ、又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ、組合員ノ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス。
漁業組合ハ、自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得ズ。
組合員ハ、漁業組合ノ取得シ、若ハ貸付ヲ受ケタル専用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ、各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス。但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得。

第四十四條 漁業組合ハ、相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲行政官廳

ノ許可ヲ得テ漁業組合聯合會ヲ設クルコトヲ得。

漁業組合聯合會ハ法人トス。

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ、所得稅及營業稅ヲ課セズ。

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ、其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ。

登記シタル事項ノ變更ハ、其ノ登記ヲ爲スニ非ザレバ、之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ。

第四十七條 行政官廳ハ、何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徴シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財産ノ狀況ヲ検査シ、其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ、又ハ處分ヲ爲スコトヲ得。

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ、法令行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ、又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ、行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得。

一、決議ノ取消。

二、役員ノ解職。

三、組合又ハ聯合會ノ解散。

第四十九條 本法ニ規定スルモノ、外、漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、分合、解散、清算、其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ、勅令ヲ以テ之ヲ定ム。

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ、本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ、其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス。

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ、組合又ハ聯合會ガ之ニ違反シタル場合ニ於テ、其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得。

前二項ノ過料ニ付テハ、非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス。

第五十一條 漁業者又ハ水産動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ、水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ、共同ノ利

益ヲ圖ル爲、水産組合ヲ設クルコトヲ得。

第五十二條 水産組合成立シタルトキハ、其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ、組合員タル資格ヲ有スル者ハ、總テ組合ニ加入シタルモノト看做ス。但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限りニ在ラス。

第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得。

第五十四條 水産組合及水産組合聯合會ハ、法人トシ、重要物産同業組合法ヲ準用ス。

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願、又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者、及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條、若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ、訴願ヲ提起シ、違法ニ權利ヲ傷害セラレタリト思惟スルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付

漁業者ノ間ニ争アルトキハ、關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得。

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ、訴願ヲ提起シ、違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得。

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付、前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ、裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得。

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス。

一、免許ニ依ラズ若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者。

二、免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者。

三、専用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者。

前項ノ場合ニ依テハ、犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス。犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能

ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス。
 第五十九條 汽船トロール漁業ニ關シ、第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ、五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ、二千圓以下ノ罰金ニ處シ、犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス。但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス。
 第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス。
 前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ。
 第六十一條 漁場ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ、又ハ毀壞シタル者ハ、五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス。
 第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ、若ハ妨ゲタル者及臨檢搜索ノ際、當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ、三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス。

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ、本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スベキ罰金ハ、之ヲ法定代理人ニ適用ス。但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ。
 第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人、其ノ他ノ從業者ニシテ、其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ、自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カル、コトヲ得ズ。
 第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ、本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス。
 附 則
 第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム。
 第六十七條 本法ハ臘虎及臘肭獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セズ。
 第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未ダ處分ヲ終ラザルモノニ關シテハ、仍從前ノ例ニ依ル。

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ、本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス。但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス。

本法施行前ニ發生シタル入漁權ニ關シ亦前項ニ同ジ。

第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登録シタル事項ハ、本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登録スルコトヲ得ベキモノニ限リ、之ニ依リ登録シタルモノト看做ス。

第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ、專用漁業免許後一年間ニ限リ登録ナキモ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得。

第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願、又ハ行政訴訟ニ關シテハ、仍從前ノ例ニ依ル。

第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ、本法施行後一年間ニ限リ登記ナキモ、其ノ設立ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得。

農商務省令第二十五號

漁業法施行規則、左ノ通改正ス。

明治四十三年十一月十二日

農商務大臣男爵大浦兼武

漁業法施行規則

第一章 總 則

第一條 漁業ニ關スル出願申請及届出ハ、漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スベシ。但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ、農商務大臣ニ之ヲ爲スベシ。

一、専用漁業ニ關スルトキ。

二、入漁權ニ關スルトキ。

三、二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ。

四、漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラザル漁業ニ關スルトキ。

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ、農商務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得。農商務大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付、亦同ジ。

第二條 農商務大臣ニ出願申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ、漁場ヲ

管轄スル地方長官ヲ經由スベシ。但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラザルトキハ、住所地ノ地方長官ヲ經由スベシ。

第三條 漁業ニ關スル行政行爲ニ付テハ、關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス。

第四條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願申請又ハ届出ヲ爲シタル者、漁業權者入漁權者其ノ他漁業ニ關シ、利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ、書類ノ提出訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命ズルコトヲ得。

第五條 住所又ハ居所ノ不分明其他ノ事由ニ依リ書類ノ送附ヲ爲スコト能ハザルトキハ、行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スベシ。此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送附アリタルモノト看做ス。

第六條 本則ニ依リ行政官廳ノ爲スベキ公告ハ、慣行ノ公布式ニ依ルモノトス。

第七條 漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ、同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ、其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地

方長官ニ之ヲ出願スベシ。

願書ニハ左ニ掲グル書面ヲ添附スベシ。

一、許可ヲ受ケムトスル事由書。

二、占有者又ハ所有者タルコトヲ證スベキ書面。

三、許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面。

四、漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登録シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハザルトキハ其ノ事由書。

第八條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ、地方長官ハ之ヲ公告シ、若シ漁業權者其ノ他登録シタル權利者アルトキハ、之ヲ通知スベシ。

第九條 地方長官ハ、漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ、其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命ズルコトヲ得。

第二章 漁業ノ免許

第十條 本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區劃漁業、専用漁業及特別漁業ヲ謂フ。

第十一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ、漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ

謂ヒ、區劃漁業ト稱スルハ、水面ヲ區劃シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ、他ノ免許漁業ニ該當セズシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ、第十四條各號ニ掲グル漁業ヲ謂フ。

第十二條 定置漁業ノ種類、左ノ如シ。

一、臺網類漁業 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ。

二、落網類漁業 落網上網及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ。

三、桁網類漁業 側網及垣網ヲ碇土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ。

四、建網類漁業 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ。

五、出網類漁業 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ。

六、張網類漁業 囊網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ建設若ハ敷設スルモノ。

七、魴築類漁業 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹木

石堤等ヲ建設シテ陷筭ノ装置若ハ魚堰ヲ設クルモノ。

第十三條 區劃漁業ノ種類、左ノ如シ。

一、第一種 一定ノ區域内ニ於テ瓦石竹木等ヲ沈没シ又ハ浜ヲ建設シテ爲ス養殖業。

二、第二種 土石竹木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業。

三、第三種 前二號ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業。

第十四條 左ニ掲グル漁業ハ、行政官廳ノ免許ヲ受クベシ。

一、第一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業。

二、第二種 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業。

三、第三種 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網地漕網漁業。

四、第四種 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業。

五、第五種 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業。

六、第六種 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業。

七、第七種 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業。

八、第八種 一定ノ水面ニ漬場ヲ設クル鱈漁業。

九、第九種 一定ノ水面ニ築磯ヲ設クル漁業。

第十五條 前三條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農商務大臣別ニ之ヲ告示ス。

第十六條 左ノ區域ヲ以テ免許漁業ノ漁場トス。

一、定置漁業ニ在リテハ、漁具ヲ建設シ又ハ敷設スル區域。

二、區劃漁業ニ在リテハ養殖ヲ爲ス區域。

三、専用漁業ニ在リテハ専用スル區域。

四、特別漁業中第一種ニ在リテハ網場又ハ捕獲場ノ區域、第二種ニ在リテハ追込場ノ區域、第三種及第四種ニ在リテハ網ノ使用區域、第五種及

第六種ニ在リテハ網場ノ區域、第七種ニ在リテハ飼付ヲ爲ス區域、第八種ニ在リテハ漬場ノ區域、第九種ニ在リテハ築磯ノ區域。

第十七條 水産動植物蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ、又ハ漁業價值ナシト認ムルトキハ、漁業ノ免許ヲ與ヘズ。

漁業權者及登録シタル權利者ノ同意アル場合ヲ除クノ外、既ニ免許ヲ與

ヘタル漁業ト相容レズト認ムルトキ亦、前項ニ同ジ。

第十八條 漁業ノ免許ハ、市、町、村、町村組合及市町村内ノ獨立シタル區ニ

之ヲ與ヘズ、但シ漁業權ノ存續期間ヲ更新スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

前項ノ規定ハ、北海道、沖繩縣、並沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ

區又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス。

第十九條 第十七條第一項及第二項ノ規定ハ、漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ適用ス。

第二十條 從來ノ慣行ニ因ル専用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ増加シ又ハ漁場ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ズ。

第二十一條 地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハザルトキ、又ハ其ノ區分ガ著シク困難ナルトキハ、關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ専用ヲ出願スルコトヲ得。

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ、専用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ

作り、之ヲ出願スベシ。

願書ニハ、左ノ事項ヲ記載スベシ。

一、専用漁業ニ在リテハ、漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ、漁業ノ種類及名稱。

二、漁獲物ノ種類。

三、漁業時期。

四、漁業權存續期間。

第二十三條 前條ノ願書ニハ、漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖ニ通ヲ添附スベシ。

前項ノ記載事項ノ外、定置漁業ノ漁場圖ニハ、漁具ノ建設又ハ敷設ノ形状ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ、漁場ノ面積ヲ記載スベシ。

第二十四條 免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地ガ他人ノ所有ニ屬スルトキ、又ハ水面ガ他人ノ占有ニ係ルトキハ、其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業免許ノ願書ニ添附スベシ。

第二十五條 二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ、内一

人ヲ選定シテ代表者ト爲シ、之ヲ行政官廳ニ届出デ又ハ出願ノ書面ニ記載スベシ。

前項ノ規定ニ依リ代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ、行政官廳ハ代表者ヲ指定スベシ。

第二十六條 代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得。

代表者ニ變更アリタルトキハ、行政官廳ニ之ヲ届出ヅベシ。

代表者ノ變更ハ前項ノ届出ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ズ。

第二十七條 前二條ノ規定ハ、二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス。

第二十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス。

第二十五條及第二十六條ノ規定ニ依ル代表者ハ、免許ヲ受ケタル漁業權ニ付キ其ノ共同者ヲ代表スル者ト見做ス。

第二十九條 漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スベシ。

- 一、免許ノ番號。
 - 二、免許ノ年月日。
 - 三、漁業權又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所。
 - 四、漁場ノ位置。
 - 五、漁業ノ種類及名稱。
 - 六、漁獲物ノ種類。
 - 七、漁業時間。
 - 八、漁業權ノ存續期間。
 - 九、免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項。
- 第三十條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ、願書ニ通ヲ作り免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スベシ。若シ登録シタル權利者アルトキハ、其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願ガ漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ、尙其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖ニ通ヲ添附スヘシ。
- 第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス。

- 第三十一條 漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ、更新期間ヲ定メ、申請書ニ通ヲ作り存續期間滿了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ。
- 第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス。但シ慣行ニ因リ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ。
- 第三十二條 漁業權ノ分割其他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ、之ヲ公告スベシ。
- 第三十三條 漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ、又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ、當該官廳ハ之ヲ公告シ、且遲滞ナク登録シタル權利者ニ通知スベシ。但シ地方長官ノ免許シタル漁業ニ關シ、農商務大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ、地方長官之ヲ爲スベシ。
- 第三十四條 漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ、農商務大臣ノ認可ヲ受クベシ。
- 第三十五條 漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ、其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スベシ。

前項ノ場合ニ於テ漁業權者ガ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ、他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ、登録シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スベシ。

第三十六條 免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ、休業期間ヲ定メ、其ノ事由ヲ具シ、免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スベシ。前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ、遲滯ナク之ヲ届出ヅベシ。

休業認可ノ期間内漁業ヲ爲シタルトキハ、爾後認可ノ效力ヲ失フ。

第三十七條 漁業權ヲ拋棄シタルトキハ、免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ届出ヅベシ。

前項届出ニハ登録シタル權利者アルトキハ、其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スベシ。

第一項ノ届出アリタルトキハ、行政官廳ハ之ヲ公告スベシ。

第三章 土地ノ使用

第三十八條 漁業法第二十九條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ、左ニ掲グ

ル事項ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添へ、行政官廳ニ之ヲ出願スベシ。

一、土地使用ニ付テハ、其ノ所在地番種目及面積所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所使用ノ目的時期及期間。

二、立木竹若ハ土石ノ除去ノ制限ニ付テハ、其ノ種類存在ノ場所所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所使用ノ目的及期間。

第三十九條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ、行政官廳ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スベシ。

第四十條 漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可ハ、其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲メニモ效力ヲ有ス。

第四十一條 漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ、土地ノ所在地番種目面積及現況所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添へ、行政官廳ニ之ヲ出願スベシ。

第四十二條 第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ、土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス。但シ土地又ハ立木竹若ハ土石

ノ所在地ト漁場トヲ管轄スル地方長官異ナルトキ、又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラザル漁業ノ爲ナルトキハ、之ヲ農商務大臣トス。前項但書ノ場合ニ於テハ、農商務大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得。

第四十三條 漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ、土地又ハ支障木竹若ハ障碍物ノ所在地ヲ管轄スル郡長又ハ島司ニ之ヲ出願スベシ。

第四十四條 漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ、他人ノ土地ニ立入り又ハ支障木竹ヲ伐採シ若ハ障碍物ヲ除去セムトスル者ハ、當該官廳ノ許可證ヲ携帯スベシ。

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第四十五條 漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ試験ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セズ。養殖學術研究其ノ他特別ノ理由ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同ジ。

第四十六條 水産動植物ヲ疲憊斃死セシムベキ有毒物ヲ使用シテ水産

動植物ヲ採捕スルコトヲ得ズ。

第四十七條 漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動植物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ズ。

第四十八條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ、地方長官ノ定ムル所ニ依リ魚道ヲ開通スベシ。

第四十九條 行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付、命令ヲ以テ保護區域ヲ設クルコトヲ得。

保護區域ヲ設クルトキハ、其ノ漁業ノ妨害ト爲ルベキ漁業ノ制限若ハ禁止ニ付規定ヲ設クベシ。

第五十條 左ニ掲グル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ。

一、藻手繰網漁業。

二、藻漕網漁業。

三、藻打瀬網漁業。

四、藻曳網漁業。

五、潛水器漁業。

六、空釣繩漁業。

前項ノ漁業ノ地方名稱ハ、地方長官之ヲ公示スベシ。

地方長官第一項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ、鑑札ヲ下附スベシ。

第五十一條 前條ノ漁業者漁業ヲ爲ストキハ鑑札ヲ携帯スベシ。

第五十二條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ、適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建設スベシ。

第五十三條 漁業標識ヲ建設シタルトキハ、其ノ漁場標識タルコトヲ明示スベシ。

第五十四條 臨檢搜索及差押ニ關シテハ、間接國稅犯則者處分法施行規則第二條乃至第五條第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス。

第五章 裁 決

第五十五條 漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セントスルトキハ、漁業權ニ關シテハ、漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農商務大臣ニ之ヲ爲スベシ。但シ、關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナ

ルトキ又ハ漁業權者間ノ争ニ關スルトキハ、農商務大臣ニ之ヲ爲スベシ。
第五十六條 裁決ノ申請書ニハ、左ノ事項ヲ記載スベシ。

一、申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所。

二、申請ノ目的及理由。

三、立證。

申請書ニハ證據書類ヲ添附スベシ。

第五十七條 申請書ニハ、相手方ノ數ニ應ジ前條書類ノ副本ヲ添附スベシ。

第五十八條 行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ、其ノ副本ヲ相手方ニ送附シ、相當ノ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムベシ。

第五十九條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スベシ。裁決ノ申請ヲ却下スルトキ亦同ジ。

第六章 罰 則

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ、三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス。

一、第四十六條又ハ第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者。
 二、禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物ヲ採捕シタル者。
 前項ノ場合ニ於テハ、犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收ス。但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ、其ノ價額ヲ追徴ス。
 第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ、五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス。

一、第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者。
 二、禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ汚損シ又ハ毀壞シタル者。
 第六十二條 第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス。

附 則

第六十三條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス。
 第六十四條 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命令ノ規定ニシテ、漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セザルモノハ、漁業法及本則ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス。

第六十五條 本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ、未タ處分ヲ終ラザルモノニ關シテハ、従前ノ例ニ依ル。
 法令全書

東京府令第三十七號

東京府漁業取締規則、左記ノ通改正ス。

明治四十三年五月十二日

東京府知事阿部浩

東京府漁業取締規則

第一條 漁業ニ關スル出願申請及届出ハ、島廳、郡役所、區役所、町村役場、島役所、島村役場ヲ經由スベシ。但漁場ノ管轄ガ二町村以上ニ跨ルトキ若クハ不明ナルトキハ、住所地ノ廳、役所役場ヲ經由シ、府下ニ住所ヲ有セザルトキハ、直ニ知事ニ差出スベシ。

第二條 左ノ漁業ヲ爲サントスル者ハ、知事ニ出願シテ許可ヲ受クベシ。

一、手繰網漁業。

二、打瀬網漁業。

三、桁網漁業。

四、三艘張網漁業。

五、敲キ網漁業。(丈長網漁業ヲ含ム)

六、簀引網漁業。

七、夜投網漁業。(河川ニ於テ使用スルモノ)

八、鵜飼漁業。(同上)

九、地曳網漁業。(河川ニ於テ使用スルモノニシテ引揚場ヲ有セザルモノ)

十、眼鏡釣漁業。(一名覗キ漁トモ云ヒ河川ニ使用スルモノ)

十一、鮎及釣漁業。(河川ニ於テ使用スルモノ)

前項ノ漁業ヲ許可シタルトキハ、鑑札ヲ下附ス。

第三條 漁業法施行規則第五十六條及前條漁業ノ願書ニハ、左ノ事項ヲ記載スベシ。

一、漁業ノ名稱。

一、漁業ノ場所。

一、漁獲物ノ種類。

一、漁業ノ時期。

第四條 漁業者ニシテ許可ヲ受ケタル漁業ヲ爲ストキハ、鑑札ヲ携帯ス

ベシ。

第五條 當該官吏又ハ警察官吏ニ於テ漁業免許狀若クハ漁業鑑札ノ檢閱ヲ求ムルトキハ、之ヲ拒ムコトヲ得ズ。

第六條 許可ヲ受ケタル漁業ヲ廢業シタルトキハ、十日以内ニ届出鑑札ヲ返納スベシ。但漁業者死亡ノ場合ニアリテハ相續人又ハ同居者ヨリ之ガ届出ヲナスベシ。

第七條 鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ、事由ヲ具シ再渡又ハ書換ヲ申請スベシ。

第八條 漁業者ノ住所氏名ニ變更ヲ生ジタルトキハ、十日以内ニ鑑札ノ書換ヲ申請スベシ。

第九條 鑑札ハ相續讓渡又貸附スルコトヲ得ズ。

第十條 水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締其他公益上必要アルトキハ、漁業ノ許可ヲ制限停止シ又ハ取消ヲ命ズルコトアルベシ。

第十一條 左ニ掲グル漁具ヲ用ヒテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ズ。
一、五寸ニ付十四節以上ノ手繰網、打瀬網、藻曳網。

二、爬ノ齒間桁口ニ於テ一寸八分以下ノ桁網。
 三、籠目簀目五分以下ノ腰捲七分以下ノ大捲。
 第十二條 左ニ掲グル漁業ハ之ヲ禁止ス。

一、太布網漁業。

二、漬柴漁業。(方言ボサヲ包含ス)

三、簀建漁業。(方言グレヲ包含ス)

四、瀬干漁業。(河川ニ於テ使用スルモノ)

五、簀火ヲ用フル漁業。(河川ニ於テ使用スルモノ)

六、築漁業。(同上)

七、鰻穴釣漁業。(同上)

第十三條 左ノ水産動植物ハ其ノ下ニ記載シタル期間内ニ於テ之ヲ採捕シ又ハ販賣スルコトヲ得ズ。

一、鮑自十一月一日至十二月三十一日。

二、鮎自一月一日至五月三十一日及自十月十五日至十一月十五日。

三、龍蝦自六月一日至七月三十一日。

四、石花菜自九月十六日至翌年三月三十一日。

第十四條 漁業者ニ非ラザルモノハ左記以外ノ漁具漁法ヲ以テ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ズ。

一、沙魚釣、小鱸釣、黑鯛釣、投網(日没ヨリ日出マテ之ヲ禁ズ)下ケ策、鱸釣、介類、徒歩堀、四手網(船ヲ使用スルモノヲ除ク)蚊釣、餌釣、懸ケ釣、鰻釣(穴釣ニアラザルモノ)

第十五條 遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ、河川流幅ノ五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スベシ。

第十六條 養殖學術研究其他特別ノ理由ニ依リ、漁業法第十三條ニ基キ、制限禁止シタル漁具漁法ヲ用ヒントスル者、又ハ同條ニ基キ制限禁止シタル水産動植物ノ採捕ヲ爲サントスル者ハ、願書ニ左記ノ事項ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受クベシ。

一、目的。

二、採捕セントスル水産動植物ノ種類。

三、採捕ノ場所。

四、採捕ノ時期、
五、採捕ノ方法、

第十七條 公有水面ニ通ズル私有水面ニ於テ水産動植物ヲ採捕セントスルトキハ、第十條乃至第十三條第五條及之ニ關スル罰則ノ規定ヲ準用ス。

第十八條 第二條第一項第十一條乃至第十三條ニ違背シタルモノハ五十圓以下ノ罰金ニ處シ、漁具漁獲物ヲ沒收ス。但シ沒收スベキ漁獲物ハ已ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徴ス。

第十九條 第四條乃至第九條第十四條及第十六條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス。

警視廳公報
東京府

隅田川口改良工事埋立地増加

六月十四日 (明治四十三年) 東京市會隅田川口改良工事埋立地増加ヲ決議ス。○東京市會決議錄。

隅田川口改良工事埋立地増加

隅田川口改良工事埋立地増加 東京市會決議錄ニ、
隅田川口改良工事埋立ニ關スル件

隅田川口改良工事埋立地、左記ノ通増加シ、之ニ要スル工費ハ、土木費河川改修費隅田川口改良費ヨリ支出スルモノトス。

位置

第五號 自芝區田町一丁目地先至同區同町五丁目地先

面積

三一、九二〇坪

(參考書)

隅田川口改良工事第五號埋立地追加ニ伴フ工費

一、金壹萬九百參拾參圓參拾貳錢

丁種石造假護岸延長五百九間ニ對スル工費 一間ニ付金貳拾壹圓四拾八錢

一、第五號埋立地實積土量約六萬五千坪

約三萬坪 隅田川口改良工事ニテ投棄スル土量四萬坪ヲ以テ埋立得ラルベキ實積土量

約三萬五千坪 同上工事ニ關係ナク埋立ヲ要スル實積土量

一、第五號埋立地完成期限

埋立認可日ヨリ三箇年間

〔附記〕 京濱運河

附記 京濱運河

東京灣築港調査常設委員會日記ニ據レバ、

九月二日 (明治四十三年) 午前十時開會ノ旨通知。

帝都時代ノ港灣

同日午前十一時開會出席員左ノ如シ。

委員長大岡育造。委員森久保作藏。溝淵正氣。青木庄太郎。津村重舍。松村祥一郎。染谷要作。細野順。

技師長日下部辨二郎。河港課長小川織三。

議題 京濱運河開鑿ニ關シ回答ノ件。

一、本案ハ種々討議ノ結果、實地調査ノ上決定スルコトニ決シ、午前十一時三十分散會ス。

右ニ關シ實地調査ノ爲メ羽田沖へ出張。

九月二十六日出張者左ノ如シ。

委員長大岡育造。委員松村祥一郎。細野順。

第三部長田川大吉郎。技師長日下部辨二郎。河港課長小川織三。

以上。

更ニ前記議題外一件ニ付、九月三十日開會ノ旨通知。

同日午前十一時開會、左ノ通り出席。

委員長大岡育造。委員松村祥一郎。溝淵正氣。細野順。津村重舍。染谷要作。森久保作藏。

第三部長田川大吉郎。技師長日下部辨二郎。河港課長小川織三。

京濱運河開鑿ニ關シ回答原案可決。

回答案

客月二十七日付戌土甲第三五三號ヲ以テ岡田治衛武外貳拾九名出願ニ係ル京濱運河開鑿ノ件ニ付、御照會ノ趣了承、右運河ハ本市計畫ニ係ル築港運河ヲ横斷スルモノニシテ、該事業實施上支障有之モノト被認候條、左記條件ヲ附スルニアラザレバ御許可相成ラザル様致度、別紙返戻、此段及回答候也。

四十三年十月三日

市役所

東京府宛

記

一、東京築港實施ニ際シ、京濱運河及之ニ附隨スル施設物ノ位置變更、又ハ除却ヲ必要ト認ムル場合ハ、會社ハ之レヲ拒ムコトヲ得ザルハ勿論、之レニ要スル費用ハ、會社ニ於テ全部負擔スルヲ。
一、東京築港ノ爲メ京濱運河通船上其他損害ヲ來スコトアルモ、東京市

ハ一切其補償ノ義務ヲ負ハザル事。

芝田町地先海面埋立可決

十一月一日（明治四十三年。紀元二五七〇年。）東京市區改正委員會芝區田町（市內。）

地先海面埋立ヲ可決ス。○東京市區改正委員會議事錄。

芝田町地先海面埋立可決

芝田町地先海面埋立可決。東京市區改正委員會ハ、明治四十三年十一月一日ヲ以テ、芝區田町地先海面ノ埋立ヲ可決ス。東京市會ガ隅田川口改良工事埋立地増加ヲ決議シタルコト、已ニ之ヲ記ス。東京市區改正委員會議事錄云フ、

議第六百四十六號

東京府知事ノ照會ニ係ル芝區田町地先海面埋立ノ件ニ對シ、左ノ如ク回答セントス。

回答案

東京市芝區田町一丁目ヨリ同町五丁目ニ至ル地先海面埋立ノ件、戊土甲二〇八七號ヲ以テ照會ノ趣了承、右ハ本會ニ於テ意存無之候。此段及回答候也。

東京府知事宛

委員 長

戊土甲第二〇八七號

一、埋立區域

東京市芝區田町壹丁目ヨリ同町五丁目ニ至ル地先海面二萬九千七百坪ニシテ、添附圖面ノ區域内トス。

一、理由

隅田川口改良工事浚渫土量ニ過剩ヲ生ズベキ見込ニ依リ、該過剩土量ヲ利用シ、尙不足土量ハ、市内各川浚渫土ヲ以テ補充シ、埋築致度旨、東京市ノ稟請ニ因ル。

但シ、市街宅地及道路敷等ノ坪數等ハ、判明セザルヲ以テ、工事完成後劃策致度旨申出有之候。

右支障ノ有無御意見承知致度、此段及照會候也。

明治四十三年十月卅一日

東京府知事阿部 浩

東京市區改正委員長一木喜徳郎殿

是日（明治四十三年。紀元二五七〇年。）東京市會議ヲ決シテ、河川ヲ浚渫シ、其揚

土ヲ以テ深川區平久町（市內。）地先土捨場前面越中島大藏省用

土捨場及越中島地先海面埋築

帝都時代ノ港灣

土捨場及越中島地先海面填築事蹟

地○市内。先海面ヲ填築ス。○東京市會決議錄。東京市會議事筆記。參考書。東京市區改正委員會會議事錄。東京市事務報告書。

土捨場及越中島地先海面填築

第四百十八號 十一月一日(明治四十三年)決議

東京市 自明治四十三年度 繼續歲出總計豫算

歲出

一、金貳百四萬百四拾八圓

臨時費豫算額

內譯

金五萬貳千七百參拾壹圓	明治四十三年度支出額
金四拾九萬四千七百七拾五圓	明治四十四年度支出額
金四拾六萬五千九拾六圓	明治四十五年度支出額
金四拾五萬六千貳百四拾壹圓	明治四十六年度支出額
金貳拾八萬七千九百九拾圓	明治四十七年度支出額
金貳拾八萬參千八百拾五圓	明治四十八年度支出額

○下略。

東京市會決議錄

東京市會議事速記録ヲ按ズルニ、本案ハ、明治四十三年八月三日ノ東京市會ニ

上議シタル者ニシテ、原案ハ總計金貳百貳拾五萬五千八百八拾八圓ナリシ也。直ニ九名ノ委員ニ附託シ、十月廿六日委員ノ修正報告有リ、十一月一日ノ市會ニ於テ修正案ヲ可決ス。即チ前記ノ如シ。後四十四年三月八日ニ至リ、市會ハ第十六號議案ヲ以テ之ガ四十四年度以下ノ支出額ヲ更正スルコト、東京市會決議錄ニ見ユ。

明治四十三年十二月六日可決。

議第六百四十九號

內務次官ノ照會ニ係ル深川區平久町外二ヶ所地先海面埋立ノ件ニ對シ、左ノ如ク回答セントス。

回答案

深川區平久町外二ヶ所地先海面埋立ノ件ニ付、第二八一七號ヲ以テ照會ノ趣キ了承、右ハ本會ニ於テ異存無之候。此段及回答候也。

年月日

委員長

內務次官宛

內務省土第二八一七號

帝都時代ノ港灣

東京府下東京市深川區平久町外二ヶ所地先海面埋立ノ件ニ付、東京府知事ヨリ別紙ノ通り稟伺有之候條、御調査ノ上何分ノ御回答相成度、此段及照會候也。

明治四十三年十二月五日

内務次官法學博士一木喜徳郎

東京市區改正委員長法學博士一木喜徳郎殿

追テ、別紙ハ御回答ノ節返戻相成度、此段申添候也。

戊土甲第三三一九號四

稟申

東京市深川區平久町地先
一、海面六萬四千七百七十五坪五合

同市同區越中島地先
一、同、四萬九千九百八拾坪九合

東京市深川區古石場町地先
一、海面八百拾九坪六合

計拾壹萬五千五百七十六坪。

右ハ市内河川浚渫土砂ヲ以テ埋立致度旨東京市ヨリ申請ニ付、調査候處、別ニ支障無之、横須賀鎮守府ニ於テモ異存ナキ所ニシテ、且ツ該埋立理由タル市内河川ノ浚渫ハ公益上必要ノ措置ニシテ、從テ之レガ結果タル浚渫土砂

ノ處分上該埋立ヲ必要トスル事情モ有之、願意理由アリト認メラレ候條、御聽許相成候様致度、別紙工事設計書及圖面竝ニ命令書案相添、此段及稟申候也。

明治四十三年十一月二十五日

東京府知事阿部浩爾

内務大臣法學博士男爵平田東助殿

追テ、道路溝渠等ハ埋立成功ノ上劃策出願ノ旨、申出候條、此段申添候也。

命令書案

東京市

東京市深川區地先海面ノ埋立ヲ許可スルニ付、左ノ通り命令ス。
第一條 埋立許可ノ位置ハ、東京市深川區平久町地先海面六萬四千七百七拾五坪五合、同區越中島地先海面四萬九千九百八十坪九合、竝ニ同區古石場町地先海面八百十九坪六合、合計十一萬五千五百七十六坪ニシテ、願書添附圖面記載ノ區域内トス。
第二條 本項埋立成功ノ上ハ、道路溝渠其他公用ニ供スベキ部分ハ無償ニテ官有トシ、他ハ市街宅地下ナスモノトス。其公用タルベキ部分ニ付テハ、地

區ヲ確定シテ當廳ニ申出デ承認ヲ受クベシ。當廳ニ於テ其申出ノ地區ヲ不適當ト認ムルトキハ、其變更ヲ命ズルコトアルベシ。

第三條 埋立工事方法ハ、願書添附設計書通リトス。

第四條 埋立成功期限ハ、本許可ノ日ヨリ滿五ヶ年内トス。

第五條 工事著手期限ハ、本許可ノ日ヨリ滿三ヶ月内トス。

第六條 工事ハ、著手落成共、其都度當廳ニ届出ヅベシ。

第七條 著手期限ニ著手セズ、成功期限ニ成功セズ、其他本命令書ノ條項ニ從ハザルトキハ、免許ノ效ヲ失フ。

天災事變ノ爲メ期限内ニ著手又ハ成功シ難キ事由アルトキ、其事由ノ止ミタル後、二ヶ月内ニ當廳ノ許可ヲ受ケザルトキ、又同ジ。

第八條 埋立期限内ト雖モ、公害ヲ生ジ若クハ軍事上公益上當廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ、何時ニテモ本命令書ノ條項ヲ増減變更シ、又ハ無償ニテ本件埋立ノ一部若クハ全部ノ停止禁止ヲ命ズルコトアルベシ。

第九條 前二條ニヨリ免許ノ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テ、已ニナシタルモノハ出願者ノ費用ヲ以テ之ヲ除去セシムルコトアルベシ。若シ之ヲ怠ルト

キハ代執行ノ上其費用ヲ徴收シ、又ハ無償ニテ其儘官有ニ歸セシムルコトアルベシ。

第十條 埋立免許權ハ、當廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ擔保貸附ニ供シ、又ハ之ヲ他ニ移スコトヲ得ズ。

右ノ條項堅ク遵守スベシ。

知事

年月日

東京市區改正委員會議事錄

市内河川浚渫計畫説明書

(一) 沿革

東京市内河川ノ延長ハ總計四萬四千四百六十九間、此面積百十四萬三千百五十五坪五合(内荒川筋及同派川ノ分延長五千二百四間二分、此面積五十八萬九百七十三坪七合トス)ニシテ、是等河川ノ維持ハ、從來總テ東京市自ラ之レヲ施行スルヲ常トセリ。然ルニ近時各河川ハ一般ニ埋沒甚シキノミナラズ、干潮時ニ在リテハ、本所深川區ノ一部ヲ除クノ外、殆ンド舟運杜絶ノ現況ナリ。剩ヘ是等ノ各河川共護岸沿ニ於ケル塵芥汚泥ノ堆積甚大ニシテ、市ノ

美觀上將タ衛生上共ニ看過ス可ラザル所ナリトス。仍テ之ガ救濟ノ爲メ一
大浚渫ヲ施サントシテ調査ヲナシタルハ實ニ明治四十年末ヨリ四十一年
ノ初頭ナリキ。而シテ大體ノ調査ヲ了シ計畫ヲ發表シタルニ、當時恰モ四十
五年日本大博覽會開設ノ議アリタル際ナリシヲ以テ、本案ハ大ニ歡迎セラ
レ、既ニ提案ノ運ビニ達シタルモ、偶々日本大博覽會延期トナリ、爲メニ本案
モ荏苒決定スルニ至ラザリシガ、明治四十三年ニ至リテ議再ビ起リ、茲ニ愈
々計畫ヲ定メテ同年八月之ヲ市會ニ提案シ、(議案百四十八號 乃至百五十號) 同月三日市會
ハ之ヲ青木庄太郎外八名ノ特別委員ニ附托シ、該委員ハ調査ノ上、一部ニ修
正(第一表略)ヲ加ヘ、十月二十六日議長ニ報告シ、十一月一日ノ市會ニ於テ滿
場一致之ヲ可決セルモノナリ。然ルニ爾後鋤簾浚渫土運船二百艘ヲ新造ス
ルコト、ナシ、四十四年三月市會ノ議決ヲ經テ豫算ヲ更正セリ。(第二表)

(一) 浚渫

浚渫ヲ爲サントスルハ、(一)市内各枝川ノ殆ンド全部、及(二)荒川ノ一部(各枝川
口ニシテ、其延長(一)三萬六千三百二十間七分、(二)延長九百八十五間、合計三萬
七千三百五間七分、此面積(一)五十三萬三千五百二十七坪九合、(二)三萬一千四

百三十一坪、合計五十六萬四千九百五十八坪九合ナリ。而シテ浚渫セントス
ル土量ハ、立積二十五萬三千二百二十九坪四合、此舟坪三十七萬九千八百四
十五坪ニシテ、之ヲ浚渫ノ全面積ニ平均スレハ實ニ深二尺六寸九分弱トナ
ル。浚渫土ハ作業ノ難易ニヨリ之ヲ二種ニ區分ス。(一)護岸沿浚渫、此立六萬五
千四百六十五坪七合、此舟坪九萬八千九百九十九坪ニシテ、之ガ浚渫ノ程度ハ、
大約靈岸島基標零位以上ニ堆積セル土砂ヲ除却スルモノトス。(二)落筋浚渫、
此立十八萬七千七百六十三坪七合、此舟坪二十八萬一千六百四十六坪ハ、所
謂落筋及枝川口ノ浚渫ニシテ、之レガ浚渫ノ程度ハ、河川使用ノ狀況及河川
幅員等ヲ斟酌シ、大約靈岸島基標零位以下一尺乃至五尺トシ、左右兩側法ハ
地質及川幅ヲ考慮シ、三割ヨリ五割トナシ、河川使用ノ程度ニ從ヒ、干潮時ト
雖モ傳馬船乃至達磨船ノ通航ノ支障ナカラシム。但市内場末ノ河川ニ至リ
テハ必ズシモ以上ノ如ク一定セル方針ニ出デズシテ、單ニ航路ノ浚渫ヲナ
スニ止マルモノトス。

其作業方法(一)護岸沿浚渫ノ全坪及(二)落筋浚渫ノ大部、舟坪二十四萬一千六
百四十六坪ハ鋤簾曳ニ依リ、残り四萬坪ハ握揚式浚渫機二臺ニ依ラントス

ルモノナリ。但四萬坪ノ内三萬一千四百三十一坪四合ハ、荒川筋各枝川口ニ於テ浚渫シ、八千五百六十八坪六合ハ枝川中比較的深ク浚渫ヲ要スル個所ニ於テ浚渫スベキ見込ナリ。以上各川ニ配分スル浚渫坪數浚渫深等豫定大約三表ノ如シ。

(三) 護岸改築及同根固工

現在護岸ノ大部ハ、甚ダ粗略ニシテ、或ハ板柵アリ、或ハ石垣アリ、或ハ無護岸地アリ、而シテ石垣ト雖モ總テ堅牢ナリト云フベカラズ。殊ニ浚渫ニ當リテ最モ憂フベキハ一般ニ護岸基礎ノ高ク且ツ不同ナルコトニシテ、(但明治三十八年以降ノ改築ハ、基礎高ヲ一定スル方針ニ出デタリ。第四表)今ヤ前項ノ如キ方針ニ依リ一般ニ浚渫ヲ行ハントセバ、差當リ必要トスルハ軟弱ナル護岸ノ改造及殆ンド全體ニ渉ル基礎ノ保護工ヲ施スコト之レナリ。乃チ這回ノ浚渫ヲ施工スルニ就テハ、以上ノ理由ニ基ケル改築及固工ノ多クハ必要トスルモ、市内護岸ハ民有アリ官有アリ河岸地アリ市有アリテ、其總延長約八萬八千八百間ニ達シ、本浚渫計畫區域内ノミニテモ延長約七萬八千五百間餘ヲ計上シ、假リニ之ガ二分ノ一ハ改築及根固工ヲ要スルモノトスル

モ、約四萬間ヲ計上スルコトトナル。而シテ其工費莫大トナルニヨリ、先ツ改築工ハ本市ニ於テ、當然維持ノ義務ヲ有スル河岸地及道路附ニ於ケル(場末ヲ除キ)比較的使用ノ頻繁ナル河川ニ於テ、護岸ノ基礎零點以上三尺六寸以上ノモノヲ三千六百四十四間計上セリ。次ニ根固工ハ、之ヲ河川内ニ施工スルトトキハ、河川幅員ヲ狭小ナラシメ、甚ダ忌ムベキコトナルト、且ツ工費ノ關係上幅員ノ大ナル河川及萬止ムヲ得ザル個所ニ對シテ施工スルモノトシ延長一萬八千五百五十五間ヲ計上セリ。根固ノ構造ハ防腐劑注入矢板柵ニ混凝土ヲ填充スルモノトシ、之ヲ其高ニヨリ二種ニ區別シタリ。即チ第一種ハ現在護岸基礎高零點上一尺六寸ヨリ二尺五寸ニ適用シ、第二種ハ同高二尺六寸ヨリ三尺五寸ニ至ルモノニ適用スルモノトス。但實施ニ當リテハ猶研究ノ上工法及高ノ程度ヲ變更スルコトアルベシ。

護岸ノ改築竝根固工ノ各河川ニ對スル配分豫定、大略第五表ノ如シ。

(四) 船舶新調

浚渫ニ伴ヒ必要トスル船舶ハ、握揚式浚渫船二臺(一日十時間トシテ平均三十坪以上浚渫ノ能力ヲ有スルモノ)之ニ伴フ木造土運船四〇艘及附屬通船

二艘ノ外、木造監視船十八艘ヲ新造スベシ。
 次ニ一般鋤簾曳ニ由ルモノハ、全坪數三十三萬九千八百四十五坪ニ對シテ
 土運船(一坪以上積)二百隻ヲ新造スルノ外、殘數ハ之ヲ一般當業者ヨリ傭入
 レ、浚渫費ヨリ支出、合計凡四百艘ヲ以テ作業セントス。

(五) 土捨場新設

本浚渫ヨリ生ズル土砂總量ハ三十七萬九千八百四十五坪(舟坪)ナリ。然ルニ
 目下本市ノ土捨場トシテハ、明治三十貳年七月二十八日附ヲ以テ塵芥其他
 市内河川浚渫土處分地ニ供スル爲メ埋立ノ認可ヲ得タル深川區平久町地
 先海面(海面ト云フモ現在ハ殆ンド陸地ヲ形成ス)面積五萬九千六百七十坪
 一合ヲ有スルノミナリ。然ルニ該土捨場ハ四十三年度經常費ヲ以テ施行ス
 ベキ浚渫土ヲ持テ込ミ、尙收受シ得ベキ土量僅ニ約二萬五千坪(舟坪)ニ過ギ
 ザル見込ニシテ、四十四年度以降ニ於テ新計畫浚渫ヨリ生ズル舟坪差引約
 三十五萬五千坪ノ處分地ハ、之ヲ他ニ求メザル可ラズ。仍テ現土捨場前面ノ
 海面及越中島大藏省用地先ヲ新土捨場ニ充テ、面積十二萬六千七百三十六
 坪ノ區畫ヲナシ、以テ浚渫土ヲ處分シ、埋立地約十一萬五千五百七十六坪ヲ

得ントス。

埋立地ハ第一號地ト現平久町土捨場トノ間竝ニ第一號地ト第二號地トノ
 間ニ幅二十間ノ運河ヲ設ケ、水運ノ便ニ供セントス。
 各埋立地ノ面積大約左ノ如クニシテ、其位置竝ニ形狀別紙圖面ノ如シ。

第一號埋立地 六萬四千七百七拾五坪五合

第二號埋立地 四萬九千九百八拾坪九合

第三號埋立地 八百十九坪六合

埋立地ノ設備トシテハ、第一號地ノ東側及南側ノ兩面竝ニ第二號地ノ南側
 及西側ノ一部、此延長七百八十九間ニハ、甲種防波堤構造ハ防腐劑注入二段
 木柵ノ護岸ヲ設ケ、其高ヲ零點上十二尺ニ置キ、其上部ハ高三尺ノ混凝土胸
 壁ヲ有スル馬踏六尺ノ堤防ヲ設ク。ヲ築造シ、尙大波ヲ防ンガ爲メ簡單ナル
 波除柵ヲ建設スベシ。亦第二號地ノ西北部及第三號地ニ於ケル外圍ニハ、乙
 種防波堤構造ハ甲種防波堤ヲ稍々省略シタルモノヲ築設スベシ。而シテ内
 部運河沿ニハ普通木柵護岸ヲ建造シ、滲筋ノ深サ零點以下二尺ニ浚渫セン
 トス。

現平久町土捨場内運河ト新土捨場内運河トノ連絡ノ爲メニハ、現平久町土捨場防波堤ヲ東西二ヶ所開鑿シ、堅牢ナル間知護岸ヲ築造シ、交通ヲ便ナラシム。尙外海トノ連絡且ツ本所深川河川排水上ノ爲メ、適當ノ個所ニ於テ二ヶ所ノ水閘ヲ新設スベシ。工事上土運船ノ交通ニハ、現平久町土捨場内東西運河ニ依ルノ外相生橋附近ヨリ現越中島ノ南端ニ添ヒ第二號地ト越中島ノ中間ヲ經テ第三號地附近ニ至ル一條ノ航路ヲ開キ、幅員約二十間深零點以下二尺ニ浚渫シ、波浪ヨリ起ル埋没ヲ防グ爲メ導流柵ヲ設置スル等ノ設備ヲナシ、以テ土運船幅濶ノ不便ヲ避ケントス。亦土捨場内ニハ浚渫土ノ陸揚ヲ容易ナラシムル爲メ縱横數條ノ濬ヲ設定(一部ハ豫算ニアリ。他ハ浚渫費ヨリ支出)シ、以テ埋立ヲ容易ナラシムル見込ナリ。

(六) 平久町地先埋築設備

本埋立ハ從來本市ノ土捨場ニ供用セル海面(海面ト云フモ現在ハ殆ンド陸地ヲ形成ス)ニシテ、去ル明治三十二年七月二十八日付ヲ以テ市内河川浚渫土等ノ處分地トシテ埋立ノ認可ヲ得タルモノ、此面積五萬九千六百七拾坪

一合アリ。然ルニ本埋立地ハ既ニ防波堤ヲ築造シ、又埋立地ノ西北隅ニ一千六百坪ノ部分埋立ヲナシ、稍々計畫高零點上十尺ニ達セシメタルアリ。或ハ洲崎辨天町西側堤防竝ニ平久町側堤防ヲ除却シ、是レヨリ生ズル土砂ヲ投入シタルノ外、毎年下水浚渫土及塵芥竝ニ河川浚渫土等ヲ投入シ、今ヤ其大部分ハ陸地ヲ形成シ、四十三年度末以降ニ投入シ得ベキ土量(舟坪)約二萬五千坪ヲ要スルノミノ經過ナルニヨリ、先以テ本埋立地ヲ完成スルヲ順序トシ、本計畫中ニ加ヘタリ。今埋立及設備ノ大要ヲ叙スレバ、工事總面積六萬一千百七十坪七合認可坪數ト差アルハ防波堤ノ位置凸出セルニ由ル。ノ内、運河敷七千六百七十八坪四合、共同物揚場敷九百坪、道路敷一萬二千四百十六坪三合、市街地四萬百七十六坪ニシテ、埋立ハ靈岸島基標零位上十尺ニ築造シ、東西兩側及中間ニ工字形ノ運河幅員十間乃至十五間(備考、元設計ニ於テハ西側運河ハ幅員十七間及十間ノ二種ナリシヲ、實施設計ニ際シ之ヲ通シテ十五間ニ修正セリ)ヲ新設シ、護岸ハ木柵トシ、且ツ中間運河ニ三ヶ所及西側運河ニ一ヶ所幅員三間乃至四間ノ木造桁橋ヲ架シ、運河沿ニハ幅十五間ノ河岸地ヲ設ケ、且ツ各所ニ共同物揚場ヲ配置シ、全面積内縱横ニ道路及溝

渠地先下水ハ木造假下水ニシテ横切下水ハ石造トス。及土止石垣等ヲ適當ニ施設スルモノトス。

(七) 監督員詰所

右浚渫工事ニ關係アル監督及事務取扱ノ爲メ、外濠筋吳服橋詰ニ土地約一千三百八十五坪ヲ撰定シ、木造事務所ヲ建設シ、主トシテ浚渫護岸根固工ニ關スル事務ヲ取扱ハシメ、又現平久町詰所ニテハ主トシテ浚渫ニ由ル土量檢收及埋立ニ關スル事務ヲ取扱ハシム。而シテ現明石町詰所ハ、之レヲ整理シテ材料置場ニ供用セントス。

(八) 豫算

河川浚渫竝ニ海面埋築設備ニ必要ナル工事費豫算ハ總計二百四萬百四十八圓、外ニ工事監督費十四萬百六拾八圓(内金十三萬五千四百十二圓河川浚渫工事監督費金四千七百五十六圓平久町地先埋築設備工事監督費)合計二百八十八萬三千六百四十六圓トセリト雖モ、工事監督費ハ連年普通經濟ニ計上シ來リタルモノハ、本費用以外ニ必要トスルモノナリ。

(九) 工事施行順序竝工費年度割額

工事ノ施行順序竝工費ノ年度割額ハ、大要第七表第八表ノ如ク撰定セリ。

(第二表)第十六號

東京市 自明治四十三年年度繼續歲出更正總計豫算 (△印ハ朱書)

歲出

△ 一金貳百四萬百四拾八圓	△ 既定臨時費豫算額
一金貳百四萬百四拾八圓	更正臨時費豫算額

内譯

△ 金五萬貳千七百參拾壹圓	△ 明治四十三年度支出額
金五萬貳千七百參拾壹圓	明治四十三年度支出額
△ 金四拾九萬四千七百七拾五圓	△ 明治四十四年度支出額
金四拾九萬四千七百七拾五圓	明治四十四年度支出額
△ 金五拾四萬千八百貳拾五圓	△ 明治四十四年度支出額
金五拾四萬千八百貳拾五圓	明治四十四年度支出額
△ 金四拾六萬五千九拾六圓	△ 明治四十五年度支出額
金四拾六萬五千九拾六圓	明治四十五年度支出額
△ 金四拾五萬八千七百拾三圓	△ 明治四十六年度支出額
金四拾五萬八千七百拾三圓	明治四十六年度支出額
△ 金四拾貳萬九千五百五拾六圓	△ 明治四十七年度支出額
金四拾貳萬九千五百五拾六圓	明治四十七年度支出額
△ 金貳拾八萬七千九百九拾圓	△ 明治四十七年度支出額
金貳拾八萬七千九百九拾圓	明治四十七年度支出額

(四)土捨場新築費	△二六、二九六六	△二六、二九六六	護岸改築	石垣三、六四四間	八〇、〇〇〇	二九、一五二〇
(五)監督員詰所新築 並修繕及雜費	△八、七三〇	八、七三〇	甲種 防波堤築造	七、八九間	八四、〇〇〇	六六、二七六
第二目 深川區平久 町地先埋築 設備費	△八、五七九三	八、五七九三	乙種 防波堤築造	五、一六間	六二、五〇〇	三三、二五〇
四十三年度支出額	△三、三九一九	三、三九一九	浪除柵	七、八九間	一五、〇〇〇	一一、八三五
四十四年度支出額	△二、九〇八四	二、九〇八四	河津及運 漕液護岸	舟坪八、二六四坪	一、七〇〇	一四、〇四九
四十五年度支出額	△三、二七九〇	三、二七九〇	板柵築造	面一、六二六坪二	一〇、〇〇〇	一六、二六三
			堤防開鑿	立	三、九六一	二、〇八〇
			堤防開鑿跡	石垣面一〇〇坪三	四八、〇〇〇	四、八一四
			護岸築造	石造二ヶ所	七、七〇〇〇〇	一五、四〇〇
			水閘築造			
			監督員詰所 新築並修繕 費			
			雜費			
土	六、一、〇一二坪	四、六七 餘				二八、五〇〇

(一)工 事 費	△八、五四〇二	八、五四〇二	土留石垣	新築面一三一坪六 補修面一八坪八	三九、〇〇〇 二六、五〇〇	五、六三
			護岸	板柵面一、四八六坪八	九、〇〇〇	一三、三八一
			道路及共同 物揚場築造	面一、三、九六一坪	六、八〇〇	九、四九三
			横切下水	石造長二九八間	一一、三七〇	三、三八八
			地先下水	木造長四、八九〇間	一、二八〇	六、二五九
			橋梁架設	木橋四ヶ所	四、六八七三〇〇	一八、七四九
(二)雜 費	△三、九二	三、九二				
第三目 豫 備 費	△五、〇〇〇	△五、〇〇〇				
四十四年度支出額	△一、三〇〇〇	五、〇〇〇				
四十五年度支出額	△一、三〇〇〇	五、〇〇〇				
四十六年度支出額	△八、〇〇〇	一〇、〇〇〇				
四十七年度支出額	△八、〇〇〇	一五、〇〇〇				
四十八年度支出額	△八、〇〇〇	一五、〇〇〇				

明治四十四年二月十六日提出

東京市參事會
東京市長尾崎行雄

説明 既定豫算ハ、鋤簾浚深ニ於テ土運船約四百艘全部借入ノ見込ナリシモ、斯ク
多數ヲ借入ルルハ不便不レ尠ニ付、借入ヲ約半數ニ止メ、之ニ因テ生ズル貸借
料ヲ以テ二百艘購入スルモノトシ、本案ヲ提出ス。

(参照) 河川浚渫並海面埋築設備費資金繰替借入及償還年次豫定表

年別 年数	収			入		支			出		償還 残額	
	基本財産 受入	河川地 經濟受入	土地 賣却代	一般歳 入支辨	繰替 入	償額	利子	事業費	工事 監督費	円		
1.	52,731	円	円	3,423	円	125,000	円	52,731	円	3,423	円	329
2.	247,269	円	40,000	60,000	125,000	3,125	541,828	26,887			830	
3.		40,000	150,000	60,000	253,000	378,000	458,713	31,151			470	
4.		40,000	432,000	60,000	60,000	378,000	423,156	33,364		111,000	832	
5.		40,000	40,000	60,000	233,000	500,000	19,175	290,950		22,565	780	
6.		40,000	40,000	60,000	220,000	720,000	30,500	266,770		22,678	832	
7.		400,000	400,000	60,000	720,000	36,000	36,000			364,000	832	
8.		773,000	773,000	356,000	356,000	17,800	17,800			356,000	832	
	400,000	200,000	1,815,000	303,423	831,000	138,075	2,040,148	140,168	831,000		832	

備考
 一、基本財産ヨリ受入金四拾萬圓ハ明治五十年度ニ於テ土地賣却代收入ノ内ヲ以テ補填スルコトト爲セリ。
 二、基本財産河岸地經濟ニ屬スル護岸ハ明治四十四年度以降五年度ニ此事業ヲ以テ改築スルニ依リ其期間毎年四萬圓宛計貳拾萬圓ノ受入ヲ爲スコトトシタリ。
 三、一般歳入ヲ以テ支辨スベキ河川浚渫費及護岸改築費ヲ毎年度六萬五千圓ト推算シ此金額ヨリ基本財産ヲ處分シタル爲失フベキ利子收入ノ一部ヲ控除シ以テ一般歳入支辨額ヲ本表ノ如ク算出セリ。
 四、繰替借入ノ事業公債償還基金現在金ノ内ヨリ借入ノ見込トス。
 五、借入金ノ利率ハ年率五分トシ新借入ノ年々分ヲ見込タリ。

(第三表)

浚渫坪數並浚渫深等各川別内譯表

(一) 各枝川筋

(イ) 大川以西根固ヲ施ス分

河川名	總舟坪數	内		譯	浚渫ニ於ケル浚渫深(零點以下)
		護岸沿	浮筋(鋤簾)		
日本橋川	一一六、四七二・五 ^坪	三八五三・四	二〇、三五七・二	一一、二六二・九	五・〇
龜島川	一四、一〇三・一	二、一九八・九	一〇、七一三・八	一一、一九〇・四	五・〇
京橋川	一、四七七・一	五五八・八	九一八・二		三・〇
櫻川	七、五八三・四	一、三九五・三	六、一八八・一		五・〇
楓川	六、七五六・四	二、〇二二・二	四、七三四・二		四・〇
三十間堀	六、九〇〇・〇	一、九四〇・七	四、九五九・三		四・〇
西堀留	二、六六九・八	六六二・六	二、〇〇七・二		四・〇
東堀留	三、三七五・九	一、〇二七・八	二、三四八・一		四・〇
箱崎支	一一、九一三・六	一、八六六・〇	九、〇四二・九	一一、〇〇四・七	五・〇
箱崎川	一一、八五〇・六	二、一六五・五	一、四七〇・七	一、六三三・四	五・〇
山谷堀	二、二五〇・〇	八一九・〇	一、四三一・〇		三・〇

(口) 大川以東根固ヲ施ス分

河川名	總舟坪數	護岸沿内	漂筋(鋤簾)	漂筋(機械)	漂筋ニ於ケル淺深(零點以下)
沙留川(自川口至中ノ橋)	五、四〇三・二	一、五六四・三	三、八三八・九		乃至四・〇〇
古川(自川口至中ノ橋)	九、三六〇・〇	三、九二八・四	五、四三一・六		乃至四・〇〇
築地川	三三、五〇七・五	六、一一七・〇	二七、三九〇・五		乃至三・〇〇
神田川	二四、八二四・三	一〇、七〇五・〇	一四、一一九・三		乃至三・〇〇
外濠	六〇、一九六・七	一一、五五七・〇	四四、七八〇・五		乃至四・〇〇
新龍川	六六三・五	二五三・二	四一〇・三		乃至四・〇〇
濱町川	二、四三八・〇	一一、一三八・二	一一、二九九・八		乃至一・〇〇
入船川	四、一〇四・七	二、一〇八・九	一一、九九五・九		乃至二・〇〇
小計	二二六、一六六・二	一三六・八	一七九・一	四、六二〇・四	乃至三・〇〇

河川名	總舟坪數	護岸沿内	漂筋(鋤簾)	漂筋(機械)	漂筋ニ於ケル淺深(零點以下)
月島川	三、七三二・一	一一、二二二・二	二、二二二・一	三七七・八	乃至四・〇
佃島川	六、二三〇・〇	一一、一六二・七	四、四一七・三	六四九・五	乃至四・〇
大嶋川(自中ノ口)	九、八八五・二	二、六四〇・二	六、六二一・七	六二三・三	乃至五・〇〇
油堀川(自中ノ口)	四、四九七・九	一、〇八〇・三	三、四一七・六		乃至五・〇〇

(ハ) 大川以西根固ヲ施サル分

河川名	舟坪數	漂筋ニ於ケル淺深(零點以下)
佛臺堀川(自大川口)	一一、七五六・三	七・七
小名木川	八、六一七・一	六八一・四
堅川(自大横川至川口)	一五、一三五・六	六八八・九
大横川	一九、六七四・八	乃至四・〇〇
源森川	三、九九一・〇	乃至四・〇〇
五間堀川	二、〇九一・五	乃至二・〇〇
油堀東支川	八四五・五	乃至三・〇〇
六間堀川	一、四〇四・九	乃至二・〇〇
中ノ堀川	七七三・七	乃至五・〇〇
大島西支川	二、二五五・三	乃至五・〇〇
中ノ川	四、四八一・四	乃至四・〇〇
小計	九五、三七一・三	
合計	三二一、五三七・六	

河川名	舟	坪	數
龜島川			一、七五五・〇
箱崎川			九二四・〇
同支川			一、二六二・〇
山谷堀川			一、三八二・〇
古川			四、六一九・〇
築地川 (海軍省横手)			一、三四七・〇
同上 (海軍省下濱離宮間)			五、一二四・〇
同上 (明石町地先)			九八九・〇
神田川			四七五・〇
新洲川			一〇六・〇
鐵砲洲川			九三・〇
須賀堀川			一一五・〇
小計			一九、四一一・〇
大川			二、七九九・〇 _坪
油堀川			一四八・〇

(口) 大川以東

河川名	舟	坪	數
仙臺堀川			一九七・〇
小名木川			六八・〇
堅森川			一、八一四・〇
源之森川			一、二八四・〇
中之堀川			八五・〇
月島川 (東濤)			一、四三六・〇
同川 (大川)			二五二・〇
佃川 (東濤)			一、八四〇・〇
佃川 (大川)			一、七九二・〇
佃川支川			三〇五・〇
小計			一、二〇二・〇
合計			三二、四三一・〇

(第四表)

河川護岸修築方針 (市參事會決定)

一、護岸ノ修繕ハ、原形ニ復スル程度トシ新築ハ木柵トス。下ノハ、便宜適當ノ施

二、河川ノ狀況及施工個所ノ形狀其他特別ノ理由アルモノハ、便宜適當ノ施

帝都時代ノ港灣

